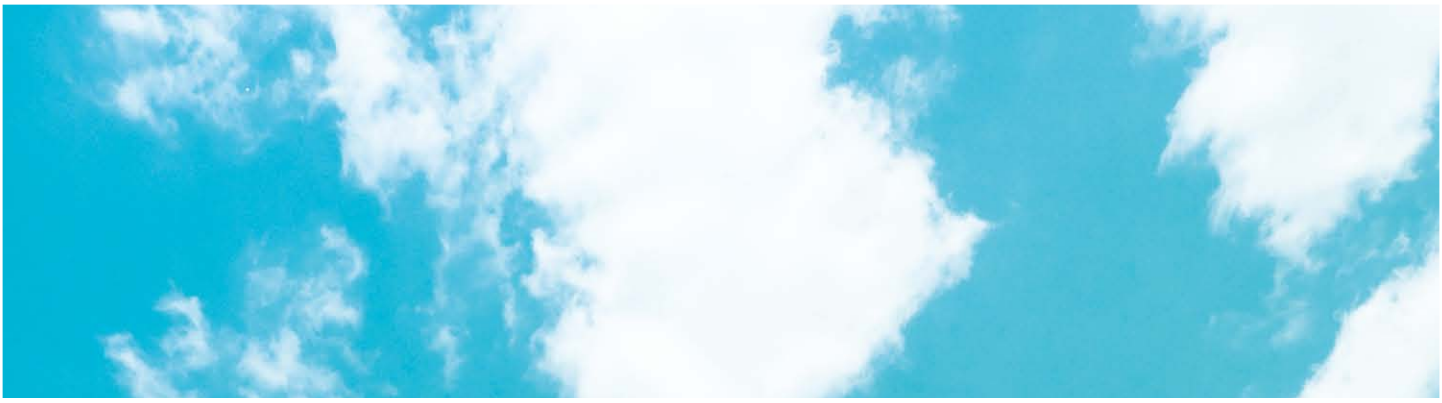


Nagasaki Junshin
Catholic University
Medical and Welfare
Liaison Center

未来医療研究人材養成拠点形成事業

（テーマB：リサーチマインドを持った総合診療医の養成）

事業報告書

平成28年3月 — 平成29年1月

平成29年3月

長崎純心大学 医療・福祉連携センター

目 次

学長あいさつ…… 1
センター長あいさつ …… 2

Ⅰ　調査研究
1　全国調査「地域包括支援センターにおける業務実態等に関する調査」…… 5

Ⅱ　学会発表
1　日本社会福祉学会第64回秋季大会 …… 11

Ⅲ　地域協議会等との協働
1　平成27年度長崎市地域包括ケア推進協議会 第１回予防・生活支援部会 …… 27
2　平成27年度第２回長崎県地域包括ケアシステム構築支援委員会 …… 27
3　平成27年度長崎市地域包括ケア推進協議会 第２回全体会…… 27
4　平成28年度長崎県医療介護連携推進事業担当者等研修会…… 27
5　シンポジウム「長崎の創生と大学の果たす役割
～長崎をすべての人に住みよいまちとするために～」 …… 28
6　平成28年度長崎市地域包括ケア推進協議会 第１回予防・生活支援部会 …… 29
7　長崎市地域包括支援センター職員研修会…… 29
8　平成28年度第１回長崎県地域包括ケアシステム構築支援委員会 …… 30
9　長崎県稲佐警察署 署員研修会 …… 30

Ⅳ　地域講座等への参加
1　長崎医新伝習所…… 33
2　平成28年度介護施設従事者等研修会① …… 33
3　第４回まちんなかサロン …… 33
4　第１回災害ボランティア養成講座 …… 34
5　第２回災害ボランティア養成講座 …… 34
6　第６回まちんなかサロン（認知症サポーター養成講座） …… 34
7　第２回ケアラーサポーター育成研修会 …… 35
8　長崎県民フォーラム「みんなで支えあおう！それぞれの在宅ケア
～在宅がん医療・緩和ケアの推進を目指して～」 …… 35
9　第１回在宅医療推進多職種連携研修会 …… 35
10　第１回医療施設従事者等研修会…… 36
11　認知症の人と家族への援助をすすめる第32回全国研究集会 in 長崎…… 36

12　長崎フロリデーション協会15周年記念講演会…… 37
13　平成28年度第１回在宅医療推進連携講座…… 38
14　まちんなかラウンジ在宅医療講座 …… 38

Ⅴ　地域包括ケア論・共修授業

1　地域包括ケア論…… 41
2　共修授業 …… 46

Ⅵ　リサーチマインドに繋がる主体的な学びの展開

1　平成27年度上五島地区離島医療教育研究会 …… 55
2　五島市地域包括支援センター訪問 …… 55
3　平成27年度下五島地区離島医療教育研究会 …… 56
4　医療と福祉の専門職を目指す学生たちのフォーラム…… 58
5　第６回九州地域医療教育研究会…… 65
6　第９回平戸と長崎大学で育てる地域医療講演会（平戸市生涯学習連携講座）…… 65
7　地域包括ケア人材養成コース推進フォーラム …… 66
8　第３回九州・山口家庭医療・総合診療セミナー …… 66
9　平成28年度 第４回 長崎地域医療セミナー in GOTO…… 70
10　Summer Camp 2016 in Hirado 平戸と大学で育てる地域医療
「地域医療とケア」を考え・体験する［第11回 夏の合宿企画］…… 77
11　医療と福祉の融合が導く次世代の医療人育成シンポジウム …… 81
12　第５回全国シンポジウム「日本の国情・２次医療圏の実情
を熟考して理想的医師・医療者育成教育の展開を考える 2016」 …… 84
13　知的障害・発達障害のある人のための累犯障害者支援研修会…… 86
14　第１回文部科学省未来医療研究人材養成拠点形成事業ミニフォーラム…… 88
15　たまごの会（長崎大学・長崎純心大学）＆大阪どまんなか（大阪大学）
＆地域ゼミ（岡山大学）意見交換会…… 92

Ⅶ　各種委員会

1　運営委員会…… 97
2　地域包括ケア調査研究事業企画委員会 ……102

研究スタッフ

学長あいさつ

未来医療研究人材養成拠点形成事業が始まり、すでに４年目が過ぎようとしており、本事業の完成を目指すことはもとより、事業終了後のことも考える時期ともなりました。

本学初代学園長江角ヤス先生の時代から関係の深かった長崎大学医学部と本学との結びつきは、本事業を期に長崎大学医学部に設立された「地域包括ケア教育センター」と本学に開設しました「医療・福祉連携センター」との連携によって、一層深められております。特に、月２回開催している地域包括ケア調査研究事業企画委員会（以下「事業企画委員会」という。）を通じた両センターの連携は全国に類がなく先駆的なもので、最近では事業企画委員会には長崎県・長崎市の医療・福祉行政の関係者や現場の社会福祉士なども参加して学びを深めるとともに、長崎の地域包括ケアへの知の発信をしているようです。

また、本年度も長崎大学医学部との「共修授業」が長崎大学坂本キャンパス内の４教室で実施され、昨年度以上に医療や福祉の視点を踏まえたグループワーク等が展開されるなど、本事業の着実な進展を見せています。さらに、事業企画委員会等に参加し培われた学生達の主体的な学びへの取り組みが、五島セミナーの実施や長崎多職種連携・たまごの会の活動などをより一層充実させ、さらなる発展につなげているようです。

ところで、少子超高齢社会を迎えている我が国では地域包括ケアシステムの構築が進められています。さらに最近では、地域包括ケアシステムを深化させ、高齢者の介護はもとより、子ども、障がい児・者、生活困窮者などの生活のしづらさを抱えている方へ対応するため、誰もが支え、支えられる社会の実現を目指す地域包括支援体制の構築が目指されているようです。

長崎純心大学では、一昨年の創立80年をステップに、新たに「第三の創立期」の第一歩を踏み出しており、将来を見据えた地域包括支援体制を担う質の高い福祉人材を養成するために、2017年４月から今ある現代福祉学科を「地域包括支援学科」と名称を変更します。そして、「地域包括支援学科」では、「何を学ぶか」に加えて、「どのように学ぶか」「何ができるようになるか」などといったアクティブな学びを求めており、そのことを本事業を通じて育ちつつある本学学生達が体現してくれるものと思っております。

最後に、本事業を通して学問背景の異なる大学及び学科とが医療・福祉系の枠を超えて、将来の医療職と福祉職との多職種連携に繋がる資質を養い、長崎の地域包括ケアを支える人材になることを祈念して止みません。

長崎純心大学長　**片　岡　瑠美子**

センター長あいさつ

長崎純心大学医療・福祉連携センターは、長崎大学医学部と連携して文部科学省の「未来医療研究人材養成拠点形成事業」を実施するため平成25年10月に設立されました。本センターでは、住み慣れた地域で尊厳を保持し、自分らしい生活を継続することができるように、地域住民の保健医療の向上と福祉の増進を包括的に支援する「地域包括ケア」体制の推進に関する理論的かつ実証的な調査研究を行ってきました。

平成28年度は、本事業の中核をなす長崎大学医学部との「共修授業」の実施をシステム化することが大きな課題でした。そのため、平成27年度に作り上げた「共修授業」の一般目標（General Instruction Objective）や行動目標（Specific Behavioral Objectives）を踏まえながら、数次にわたる「共修授業ワーキンググループ」の開催など関係者のご尽力によりまして構造化された新たな事例シナリオや授業プログラムを作り上げました。平成28年10月26日と11月２日に実施された「共修授業」では、医療・福祉系の枠を超えたグループワークを通して、将来の多職種連携に繋がる貴重な学びを体験するとともに、一昨年以上の大きな実証的成果を得ることができました。

また、長崎大学医学部生と本学学生の連携は「共修授業」の他にもいろいろとありましたが、中でも平成28年３月に実施した学生の手による「医療と福祉の専門職を目指す学生たちのフォーラム」は、彼らの主体的な学びや連携をより高める基点となりましたし、「長崎多職種連携・たまごの会」の活動も他大学との学習交流会等を通じてネットワークを広げるなどさらに進化しつつあります。

ところで、本センターが構想する地域包括ケアシステムは、その対象を単に高齢者に限定するのではなく、生活の主体者である地域住民を中心に地域の福祉を創造するために、地域住民が生活と福祉の増進を図る主体者となり、年齢や障がいの有無に関わらず、様々な生きづらさを抱え、何らかの支援を必要とする人々を包摂する住民主体の支援システムとしての機能を具備したものとしております。このことを政策的に後押ししてくれるかのように、平成28年7月、厚生労働大臣の下に「我が事・丸ごと地域共生社会実現本部」が設置され、従前からの地域包括ケアをさらに深化させた新しい地域包括支援体制の構築が提唱されたことはご案内のとおりです。

本センターにおいても、地域包括ケアの新たな拡がりに呼応するため、月２回開催される「地域包括ケア調査研究事業企画委員会（以下、「事業企画委員会」という）」の充実を図ってきました。その結果、事業企画委員会には、大学関係者や福祉関係者、両大学学生はもとより、長崎県や長崎市の医療行政関係者や福祉行政関係者が定期的に参加されたり、地域包括ケアに関心のある方もゲストで参加されるなど、長崎における地域包括ケアに関する情報交換とより活発なディスカッションの場となっております。改めまして、事業企画委員の皆様方には深甚の敬意を払いたいと思っています。

今後とも、本センターでは、地域包括ケアシステムに関する調査研究で得られた学術的な知見を広く長崎の地に還元することを通して、地域住民による主体的な支え合いと相まって、誰もが必要な時に適切な医療や介護・福祉サービスを利用しつつ、安心して住み慣れた地域で生活を継続することができる地域包括ケアシステムの構築と発展に寄与していかなければならないと考えております。

長崎純心大学医療・福祉連携センター
センター長　**潮　谷　有　二**

Ⅰ　調査研究

1　全国調査「地域包括支援センターにおける業務実態等に関する調査」

⑴　調査の目的

2011（平成23）年の介護保険法の改正以降、団塊世代が75歳以上になる2025（平成37）年を見据えた「地域包括ケアシステム」の構築が、全国の市町村において展開されている。このような状況の中で、地域住民の心身の健康の保持及び生活の安定のために必要な援助を行うことにより、その保健医療の向上及び福祉の増進を包括的に支援することを目的とする地域包括支援センターには、地域包括ケアシステムにおける中核的な役割が求められている。

そこで、2014（平成26）年３月に、長崎純心大学医療・福祉連携センターでは、地域包括ケアシステムにおける地域包括支援センターの役割と可能性を実証的に析出することを目的に、全国の地域包括支援センターを対象とする質問紙を用いた悉皆調査を実施した。その結果は、未来医療研究人材養成拠点事業『調査研究報告書』として2015（平成27）年３月に公表するとともに、日本社会福祉学会や日本在宅ケア学会などの関係学会等で調査分析結果を発表している。

しかしながら、2014（平成26）年６月には、「地域における医療及び介護の総合的な確保を推進するための関係法律の整備等に関する法律」が成立し、地域包括ケアシステムの構築を通じて、医療及び介護の連携強化が謳われている。その一環として、地域包括支援センターは地域包括ケアシステム構築に向けた取組みを推進する中核的な機関であると位置付けられ、業務の見直しや人員体制の強化などその機能強化が求められている。

そこで、本センターでは、2014（平成26）年の法改正後の全国における地域包括支援センターの現状と課題を明らかにし、地域包括ケアシステム構築における地域包括支援センターの役割と可能性を実証的に析出することを目的に、全国の地域包括支援センターを対象とする質問紙を用いた第２回目の悉皆調査を実施するものである。

⑵　調査方法

①　調査票作成

調査票の作成に当たっては、前回調査分析結果や三菱総合研究所（2015）による『地域包括支援センターにおける業務実態や機能のあり方に関する調査研究事業報告書』の内容等を分析し、その結果をふまえて調査票案を作成した。また、調査対象者として想定した地域包括支援センターの社会福祉士２名に対してプレテストを実施し、調査票案の修正を繰り返し行い、調査票としての精度を高めるように努めた。その結果、最終的に調査に用いる主たる項目を以下に示すとおりとした。

なお、プレテスト協力者は、永富幸美氏（長崎市桜馬場地域包括支援センター管理者・社会福祉士）、嶺尚江氏（長崎市土井首地域包括支援センター管理者・社会福祉士）であり、この場を借りて感謝の意を表するものである。

（調査項目）
・地域包括支援センターの設置主体（問１）
・職員の配置状況（問２）
・担当圏域の総人口及び65歳以上の高齢者人口、要支援・要介護認定者数（問３）
・介護予防プラン数（問４）
・相談件数（問５）
・職員研修の状況（問６）
・連携体制の主観的評価（問７～問９）
・関係機関等との連携状況（問10～問13）
・地域ケア個別会議の状況（問14）
・地域ケア推進会議の状況（問15）
・地域包括ケアに関する自由記述（問16）
・認定社会福祉士について（問17）
・基本属性（問18）
・調査結果の送付について（問19、問20）

② **調査対象**

調査対象は、全国の地域包括支援センター4,622か所（サブセンター・ブランチを除く）であり、回答者には回答者の職種の差異から生じる回答の偏りを未然に防ぐ観点から、地域包括支援センターに配置されている保健師、社会福祉士、主任介護支援専門員等のうち、社会福祉士またはそれに準ずる者とした。

なお、調査対象とした全国の地域包括支援センターの名称、所在地などについては、厚生労働省や地方自治体等のホームページから検索した。

③ **調査方法**

調査方法は自計式の郵送調査であり、2016（平成28）年３月31日付けで全国の地域包括支援センター管理者宛てに調査票を発送し、調査期間は同年４月４日㈪から４月30日㈯までとした。併せて、本調査の周知と円滑な実施を図るため、地域包括支援センターを所管する主管部（課）1,913か所に対しても調査票のサンプルと調査協力依頼文の発送を行った。

さらに、調査結果の精度をより高め、地域包括支援センターにおける業務実態等をより明らかにする観点から同年４月30日付けで調査協力への依頼文を送り協力を仰いだ。

この結果、2016（平成28）年９月14日㈬時点で全国981か所の地域包括支援センターから回答を得た（回収率21.2％）。

⑶ 調査実施における倫理的配慮

調査の実施に伴う倫理的配慮として、調査依頼文及び調査票の表紙において「回答について厳重に秘密を守って統計処理を行い、センター名及び個人のプライバシーが外部に漏洩することはない」旨を記すとともに、エディティング作業、コーディング作業、データ入力作業を通して、調査対象者や調査対象となった地域包括支援センターを特定することができないように必要に応じて文章のマスキングも行った。

⑷　集計方法

回収した調査票の集計に当たっては、エディティング作業とコーディング作業に係るガイドラインを作成し、当該ガイドラインに基づき、エディティング作業やコーディング作業を行い、その後、データの入力を行った。

なお、エディティング作業からデータ入力までの作業については、非標本誤差を抑制するために、社会調査に関する一定のトレーニングを受けたことがある長崎純心大学人文学部生が、原則として２人１組によるクロスチェックを行いながら作業することとした。

次に、入力されたデータに対してロジカルチェックをはじめ、入力ミスがないかを確認するためのデータクリーニングとその結果に基づくデータの修正を２回行い、無回答が顕著なケース及び同じ地域包括支援センターの２人の異なる社会福祉士から回答があったものの片方をランダムで除いた973件を分析対象とした。

調査結果の集計には、IBM SPSS Statistics 22を用いて、各種変数の度数分布（回答者数や該当者数）、比率、平均等の統計量の算出を行った。

⑸　調査結果

「地域包括支援センターにおける業務実態等に関する調査」から得られた各種変数の記述統計量等及び自由記述の分析については、本センターが刊行する別冊『調査研究報告書』において報告するとともに、『純心現代福祉研究　地域包括支援システム特集号』にも所収することにしている。

併せて、長崎純心大学医療・福祉連携センターホームページにも掲載するつもりである。

（http:www.n-junshin.ac.jp/study/research/）

Ⅱ　学会発表

1　日本社会福祉学会第64回秋季大会

⑴ **期　日**　平成28年９月10日㈯・11日㈰

⑵ **場　所**　佛教大学紫野キャンパス

⑶ **主　催**　日本社会福祉学会

⑷ **概　要**

① **第１日目**

○　開会式

・大会開会の挨拶

日本社会福祉学会 会長　岩崎　晋也 氏（法政大学）

第64回秋季大会 大会長　田中　典彦 氏（佛教大学）

・学会賞授賞式

○　大会校企画シンポジウム「社会福祉が育む『共生の創造』」

シンポジスト

「野宿者との共生―社会復帰・自立支援とは？」

生田　武志 氏（野宿者ネットワーク代表）

「若者と共に転換期を生きる～ひきこもり支援の現場から」

佐藤　洋作 氏（NPO法人文化学習協同ネットワーク代表理事）

「困窮者・外国人・受刑者との共生

―主権・ドミナント・多様性・自他実現を機軸に―」

加藤　博史 氏（龍谷大学短期大学部）

「共生のルネサンス――人類史における障害のある人々の位置」

鈴木　勉 氏（佛教大学）

コーディネーター　池本美和子 氏（佛教大学社会福祉学部）

② **第２日目**

○　国際学術シンポジウム

○　特定課題セッションⅠ・Ⅱ・Ⅲ

○　口頭発表Ａ

○　口頭発表Ｂ

分科会「社会福祉教育・実習３」

「地域包括ケアを支える医療と福祉人材の養成に関する取り組み（その１）―『長崎多職種連携・たまごの会』の形成・発展過程における教育の実際と学びに焦点を当てて―」

長崎純心大学医療・福祉連携センター　吉田　麻衣 助教

「地域包括ケアを支える医療と福祉人材の養成に関する取り組み（その２）―長崎大学医学部と長崎純心大学との共修授業を通して―」

長崎純心大学医療・福祉連携センター　奥村あすか 助教

⑸ **参加者**　潮谷　有二 センター長（教授）、奥村あすか 助教、吉田　麻衣 助教

永田　康浩 長崎大学大学院地域包括ケア教育センター長（教授）

写真Ⅱ-1　日本社会福祉学会第64回秋季大会口頭発表

なお、発表資料は、長崎純心大学医療・福祉連携センターホームページにも掲載している。（http://www.n-junshin.ac.jp/cmw/study/research/）

地域包括ケアを支える医療と福祉人材の養成に関する取り組み（その1）
ー「長崎多職種連携・たまごの会」の形成・発展過程における教育の実際と学びに焦点を当ててー

吉田麻衣（長崎純心大学医療・福祉連携センター）
潮谷有二（長崎純心大学医療・福祉連携センター）
永田康浩（長崎大学大学院医歯薬学総合研究科
地域包括ケア教育センター）
奥村あすか（長崎純心大学医療・福祉連携センター）
宮野澄男（長崎純心大学医療・福祉連携センター）
HP　http://www.n-junshin.ac.jp/cmw/
Facebook　https://www.facebook.com/cmw.n.junshin

※本資料は，日本社会福祉学会第64回秋季大会で使用したものに誤字脱字等の加筆・修正をおこなったものであることを付記しておく．

1

Ⅰ．研究目的

- 団塊の世代が75歳以上になる平成37（2025）年を見据え，できる限り住み慣れた地域で人生の最期まで尊厳をもって自分らしい生活を送ることができる社会の実現に向けて，住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムの構築を実現することが求められている．
- このような状況の中，長崎純心大学医療・福祉連携センターは，平成25年度文部科学省「未来医療研究人材養成拠点形成事業【テーマB】リサーチマインドを持った総合診療医の養成」において，長崎大学大学院医歯薬学総合研究科地域包括ケア教育センターと連携して「つなぐ医療を育む先導的教育研究拠点の構築―人と人，場と場，ケアとリサーチをつなぐ総合診療医の養成―」プロジェクトを実施するために平成25年10月1日に設立された教育研究組織である．
- このため，当該事業の実施にあたっては，地域包括ケアを支える医療，福祉専門職の人材養成に資する教育システムを構築するために様々なプロジェクト（以下，教育プロジェクトという．）を行っており，それらについては，長崎大学医学部医学科や長崎純心大学人文学部現代福祉学科等の学生たちが参加してきている．そして，様々な教育プロジェクトに参加した一部の学生たちが「長崎多職種連携・たまごの会（以下，たまごの会という．）」という勉強会のサークルを設立した．
- そこで，本報告では，長崎大学と長崎純心大学の連携事業（以下，本事業という．）の教育プロジェクトに両大学の学生が参加し，たまごの会が形成・発展していく過程に関する教育内容や学生の感想文等の基礎資料の収集及び整理をし，福祉系学生の学びや気づきを明らかにし，多職種連携教育の一助に資することを目的とした．

2

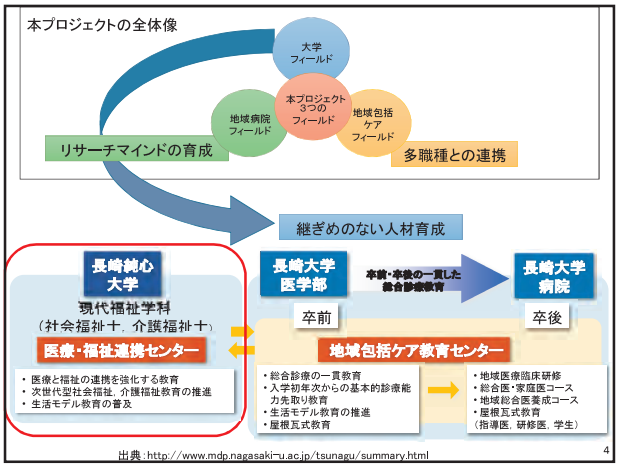
Ⅱ．方法

- 研究方法は，平成26年4月9日から平成28年4月2日の間に，学生が参加した本事業の教育プロジェクトにおける配布資料，音声や動画，写真，教育プロジェクトに参加した学生の感想文や学生が作成した発表資料等の資料収集を行い，教員の対応やその時に学生への刺激となった出来事なども踏まえて，整理していくこととした．
- 研究対象は，本事業の教育プロジェクトに参加した長崎大学医学部医学科及び長崎純心大学人文学部現代福祉学科の学生の中でも，たまごの会のメンバー並びにたまごの会の形成に関わった学生とした．なお，感想文については主に，長崎純心大学の学生を対象としていることをお断りしておく．

Ⅲ．倫理的配慮

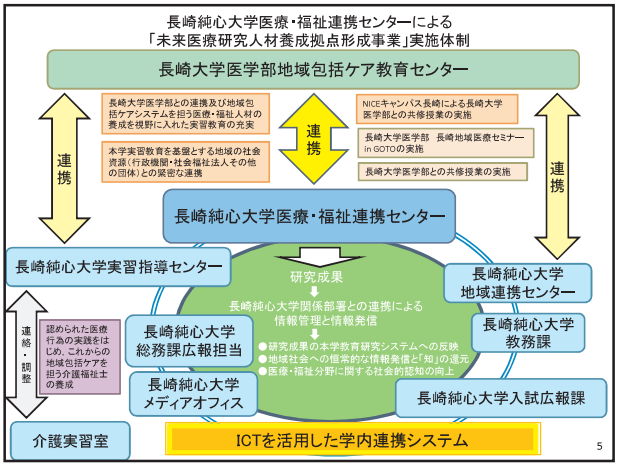
- 倫理的配慮として，日本社会福祉学会研究倫理指針を踏まえ，本研究に関わった個人や団体等の匿名性を守るために，自由記述の文章については，マスキングを行った．

3



出典：http://www.mdp.nagasaki-u.ac.jp/tsunagu/summary.html

4



5

Ⅳ．結果

学生が参加した本事業の教育プロジェクト及びイベント

平成25年度当初の

事業計画の中での教育プロジェクト

長崎大学
- 医と社会（共修授業）
- NICEキャンパス長崎
- 地域包括ケア論（共修授業）

長崎純心大学

事業計画になかった教育プロジェクト
- 長崎地域医療セミナーin GOTO
- 秋田大学での全国シンポジウム
- 九州山口家庭医療学セミナー
- イイトコ発見プロジェクト
- 学生がつくる教育福祉シンポジウム
- 九州地域医療教育研究会

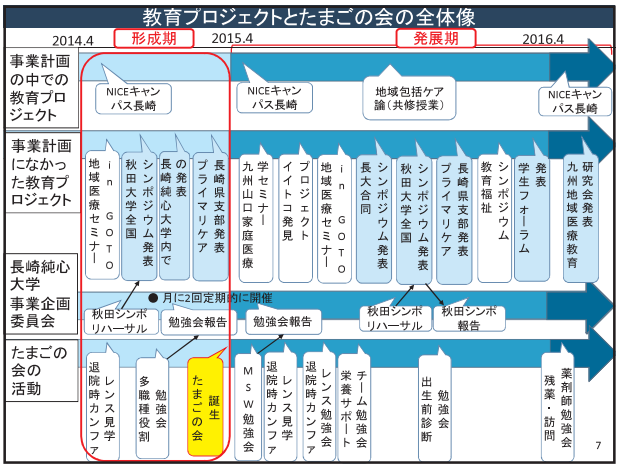
長崎純心大学　医療・福祉連携センター
地域包括ケア調査研究　事業企画委員会
- 秋田シンポジウムリハーサル
- 多職種役割勉強会の報告
- MSW勉強会の報告
- 秋田シンポジウムの報告

学生の主体的活動

たまごの会の活動
- 退院時カンファレンス見学
- 多職種役割勉強会
- たまごの会誕生
- MSW勉強会
- 退院時カンファレンス勉強会
- 栄養サポートチーム勉強会
- 出生前診断勉強会
- 残薬・訪問薬剤師勉強会

6

教育プロジェクトとたまごの会の全体像



7

たまごの会形成過程までの教育プロジェクト及びイベント

長崎純心大学医療・福祉連携センターによる調査研究活動等

全国調査

本センターでは調査研究活動の一環として，地域包括支援センターの現状と課題を明らかにするために，全国4,834の地域包括支援センターを対象に調査を実施(平成26年2月6日(木) 調査票発送)．

平成25年度

回収された1,217件に対してコーディング作業，データ入力，データクリーニングを行い，最終的には1,206件に対し統計的分析を行いました．作業には，本学学部生及び大学院生の協力を得ています．

学生の感想

今回，全国規模の社会調査の企画段階から調査票作成，データの整理・分析等の作業に参加させていただき，社会調査を実践的に学ぶ機会に恵まれました．特に，調査票作成段階では，現場の先輩へのプレテストを重ねながら慎重に調査項目を検討することで，調査項目の精度が高まっていくのを実感できました．

また，収集されたデータを整理する作業では想像以上に細やかな配慮が必要であったことも学びました．大変な仕事でしたが，データが公表されて全国の地域包括支援センターの現状分析や課題解決の一助になればと思っています．自分たちがお手伝いできたことを誇りに思っています．

平成27年3月卒業（現代福祉学科）

8

NICEキャンパス長崎

①平成26年度NICEキャンパス長崎「地域から世界へ輝く女性たちとそのサポート」全15回
②平成27年度NICEキャンパス長崎「地域から世界へ輝く女性たちとそのサポート」全15回
③平成28年度NICEキャンパス長崎「目指せ！プロフェッショナル」全15回

医療分野と福祉分野の学生が交わるきっかけ

第2回長崎地域医療セミナー in GOTO

期日：平成26年8月22日（金）～24日（日）
場所：五島市富江町公民館他
参加者：長崎純心大学 参加教職員5人，学生7人

プログラム
- 地域医療実習
- 講義
- ワークショップ

学生感想
- 本セミナーで医学部生や他学科の学生と意見を交換する中で，言葉の捉え方にずれがあることに気づき，そこから，他の様々な違和感がどうして起こっていたのかということについても気づくことができた．たとえば福祉を学ぶ私たちが想定する「地域」は，人間が生活する場所，生活圏域を指しているが，医学部の学生のそれは，離島や僻地を指している．

医療分野と福祉分野の学生がディスカッションする中での言葉の捉え方の違いへの気づき

9

全国シンポジウムー日本の国情・2次医療圏の実情を熟考して，理想的医師・医療者育成教育の展開を考える 2014ー

日時：平成26年11月15日（土）12:00～18:00
場所：秋田県（秋田キャッスルホテル）
参加者：長崎純心大学 教員4人
発表者：長崎純心大学 学生3人

気づきを言語化，視覚化し，発表

学生ポスターセッション

10

両大学生が五島セミナーについての発表をするために，何度も話し合い，準備をした．
語り合うにつれ，その気づきは「医療と福祉のフレームの違い」だったことを確信した．

出典：平成26年秋田大学「全国シンポジウム」学生ポスターセッション発表資料

11

長崎純心大学教授会　全国シンポジウム報告

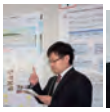
期日：平成26年12月3日(水)
場所：長崎純心大学会議室
発表者：長崎大学医学部5人，長崎純心大学現代福祉学科4年3人，3年1人

学生感想
- 五島での研修から秋田での学会発表，教授会での発表と継続的な場が作られており，今回のアクションプランの実現に繋がっています．

日本プライマリケア連合学会長崎県支部会第2回総会・学術集会

期日：平成27年2月14日（土）
場所：長崎大学医学部
発表者：長崎純心大学現代福祉学科1人
　　長崎大学医学部1人

19の発表の中から優秀賞の栄誉



12

たまごの会形成に向けて学生の主体的取組

教育プロジェクトを経験していき，医療と福祉の学生が共に学ぶことの必要性を意識し始めた学生達は自主的に集まり始めた．

平成26年12月9日　退院カンファレンス打ち合わせを見学

医師と社会福祉士，特に医療ソーシャルワーカー(Medical Social Worker)が参加する退院時カンファレンスに興味を持ち，その打ち合わせ会議を見学させて頂いた．専門分野の知識のみでは，患者・利用者さんの診療・支援は不十分と改めて気づく．

見学での気づきや学びを共有するために

平成27年1月11日　Kickoff　多職種連携を考える勉強会

事例を作成し，退院前・後，半年後，1年後と時系列で患者・利用者さんのニーズとその対処法を考えた．
ニーズを出しあった時，医学科生は「病気を治すこと」，福祉教育は「利用者と周りの環境に視点を当て支援していくこと」に重点をおいていると感じた．
⇒**異なる専門分野が有するフレームの違いを**再認識した．

13

平成27年3月　勉強会の方向性を決めた作戦会議

参加者で話し合い，サークル化することで
①勉強会の紹介や周知がしやすく，仲間を増やしやすい⇒**社会的承認**
②所属する場ができ，卒業しても戻ってきやすい⇒**基地・ネットワーク化**
③顧問の先生方に相談しやすい⇒学生が持たない**社会資源のフル活用**
という点から勉強会をサークル化することを決めた．

長崎多職種連携・たまごの会設立

平成27年3月3日　誕生

「**多職種のたまご同士が生きた知識を教えあいともに育つ場づくり，そして地域包括ケアを引っ張っていく存在になる**」ことを目標に掲げ「長崎多職種連携・たまごの会」が誕生した．

14

たまごの会発展過程での教育プロジェクト及びイベント

15

第2回九州・山口家庭医療学セミナー

期日：平成27年6月20日（土）・21日（日）
場所：九州地区国立大学 島原共同研修センター
概要
・基調講演 ・セッション1・2・3・4
参加者：本センター教員3人
現代福祉学科4年1人
現代福祉学科3年7人

学生感想
- 自分の専門分野について相手に理解してもらう際の言葉の選び方は難しく，自分の勉強不足を感じた．医療従事者と対等に仕事をしていくために，これからもっと自分の専門分野の知識を深めていきたいと思った．
- 学生のうちから，色々な専門分野の人と話ができるので，将来仕事をしていく上で必ず役に立ってくると思うし，自分の専門性を深めていく上でも，非常に重要な機会となるのは間違いないだろうと感じた．

イイトコ発見プロジェクト

期日：平成27年8月5日（水）～11日（火）
場所：島根県雲南市大東町上久野　かみくの桃源郷
参加者：教員2人，現代福祉学科4年生3人，3年生4人
主なプログラム：地区散策・しめ縄作り・病院見学・アセスメント・プラン発表・住民との交流会

学生感想
- フィールドワークをしたことがなかったので，初めてしてみると，地域の人たちと話し続けることも難しく，地域の特徴をつかむことが難しかったです．

16

第3回長崎地域医療セミナー in GOTO

期日：平成27年8月21日（金）～23日（日）
場所：五島市富江町公民館他
参加者：長崎純心大学 教職員5人，学生7人
プログラム
- 地域医療実習
- 講義
- ワークショップ

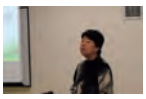
学生実行委員が立ち上がり，前年度の経験を踏まえプログラムされた

学生感想
- 今回のセミナーでは授業で修得したことに関しても自分の知識がまだ曖昧で，うまく説明できないところもあり，悔しい思いをしました．
- まずは自分の専門分野について極め，他分野の領域について理解を示していくことで，尊敬できる関係ができたら良いと考えました．
- 多職種連携をすることにより，結果として利用者の利益につながると思います．利用者のことを考えた支援方法を多職種で考えていくことが大切だと思いました．
- この3日間のセミナーは，自身の視野が広がり，これまでふれることのなかった地域医療についてもっと知りたいという気持ちが強くなりました．
- これからの大学で学びを深めていくにあたって，良い刺激となりましたし，ここで出会った人とのつながりは大切にしていきたいです．

17

平成27年度　地域包括ケア論の開講

地域包括ケア論



開講日：9月28日（水）～12月12日（水）全15講
場所：長崎純心大学地域連携センター
内容：地域包括ケアシステム構築のための理論と手法
地域包括ケアシステムを支える地域包括支援センター　など
講師：医療・福祉連携センター教職員に加えて，医療や福祉の現場で活躍している専門職を講師に依頼したオムニバス形式

平成27年度長崎大学医学部・長崎純心大学共修授業

開催日：平成27年10月28日（水），11月 4日（水），11日（水）
場所：長崎大学医学部，長崎純心大学地域連携センター
受講者数：① 医学科2年生124人② 保健学科2年生110人
③ 長崎純心大学3・4年生36人　合計270人

18

全国シンポジウムー日本の国情・2次医療圏の実情を熟考して、理想的医師・医療者育成教育の展開を考える 2015ー

日時：平成27年11月7日（土）12:30～13:30
場所：秋田キャッスルホテル
発表者：長崎純心大学 学生6人
参加者：長崎純心大学 参加教員4人

発表1　第3回 長崎地域医療セミナー IN GOTO
　　～定義から方法へ、卵一人ひとりが考えた多職種連携とは？～
発表2『長崎多職種連携・たまごの会』～たまごたちが動きだした！
　　～医療と福祉のイノベーション from 長崎～

学生感想
- 他大学の学生さんの取り組みについて知り，刺激を受けることで自分自身の意識の向上につながることも実感することができました．
- 五島セミナーやたまごの会，そして秋田全国シンポジウムに参加するにあたって多くの出会いがありました．今回ポスターを製作することで，自分が現在参加している「たまごの会」の活動を振り返ったり，今後より多職種連携を可能なものにしていくためにどのような活動をしていくべきかを考えるきっかけになった．また，長崎大学の医学部の方たちと一緒に協力してポスターを作っていくことで，純心大学の学生のみでの活動では得ることができない刺激を沢山得ることができて，今後の勉強に対するモチベーションが上がった．

19

3．活動を通しての気づき・構想
①患者・利用者さんを中心と捉える各専門職の視点をしることも必要
②私たち「たまご」は，地域包括ケアを「引っ張っていく」のではなく，「支える」存在である

長崎たまごの会の二つの野望
①「私たちの学びの成果を教育現場にINPUTすること」
②「たまごの会」のような自己組織化したグループが，日本中に浸透し，新たな「たまご」ネットワークが形成されること」

出典：平成27年秋田大学「全国シンポジウム」学生ポスターセッション発表資料

20

「学生がつくる教育福祉シンポジウム」

日時：平成28年2月13日（土）13:00～17:00
場所：大阪府立大学I-siteなんば（大阪市）
内容　ディスカッション，分科会
参加者　本センター教員3人
　　現代福祉学科3年生3人，長崎大学医学科2年1人

大阪府立大学生との交流ディスカッション

日時：平成28年2月14日（日）9:00～10:45
場所：グランフロント大阪
内容　フリートーキング
参加者：現代福祉学科3年生3人，長崎大学医学科2年1人

学生感想
- 普段聞く機会がない他大学で福祉を学ぶ学生の考え方や思いを知ることができてとてもいい機会になった．
- 他の大学生と話す機会というのは相手を知る機会でもあり，また私たちが何をしているか・出来ているかを再認識できる絶好の機会だと強く感じました．長崎純心大学でも縦の繋がりを強くして，現代福祉学科で学んでいく後輩が成長できる場づくりをしていきたい．
- 今後自分がどのように学び，活動していくべきかを考える機会となった．特に今長崎大学医学部の学生と長崎純心大学の学生が一緒に活動している「多職種連携・たまごの会」での活動を今後どうして行くべきかということと，卒業までの残り1年で何をするべきかということを改めて考える機会になった．

21

医療と福祉の専門職を目指す学生たちのフォーラム

日時：平成28年3月24日（木）14:00～16:40
場所：長崎大学良順会館
シンポジウム
- 「長崎多職種連携たまごの会ー活動の紹介・報告ー」長崎純心大学現代福祉学科3年
- 「長崎多職種連携たまごの会の今後のビジョンー他大学の学生との関わりから見えてきたものー」長崎純心大学現代福祉学科3年
- 「たまごの会設立から現在に至るまで～私たち学生に必要なものとは」長崎大学医学部医学科2年
- 「たまごの会を通して見えたもの・見えるもの」長崎大学医学部医学科3年

- 学生の主体的な活動によって発展してきた
- 今後の取り組みは，地域に出向いていくこと

参加学生感想
- 今回，参加した学生のたちのフォーラムは，これまでの先輩たちの一生懸命な歩みの重さを感じました．また，たまごの会の発足から今までの活動内容，たまごの会に入ったことで得られた学びや心境の変化などを聞かせていただいたことで，一歩踏み出す勇気や行動力，主体性が必要だと勉強させてもらいました．私も先輩たちの背中を見つつも，今しか学ぶことができない知識を精一杯吸収していきたいと思います．今回いただいた感動と学びを新たな仲間とともに今後の活動に活かしていきます！（現代福祉学科2年）

22

第6回九州地域医療教育研究会

日時：平成28年4月2日（土）13:30～18:00
場所：九州大学医学部　百年講堂中ホール1・2
発表者：現代福祉学科4年3人，長崎大学医学部2年2人
演　題　「『長崎多職種連携・たまごの会』
　　～医療と福祉のイノベーション from　長崎～」

発表概要
① たまごの会発足の経緯
② たまごの会の活動
③ 今後のビジョン

学生感想
- 今後もこのような機会があれば積極的に参加し，地域包括ケアを支える存在になる「たまごの会」を全国に広めていきたいと思います．
- 他大学の学生さんの具体的な取り組みを知ることができたので，参考にしてたまごの会の活動や大学での活動に活かしていきたいと思います．
- 私たちのサークルの発表を聞いて，興味を持ってくださった先生方や学生が個人的に話を聞きにきてくださったり，また，私たちから他大学の勉強会に参加をさせてほしいということをお願いしたりと，お互いのことを知れるとてもいい機会になりました．

ネットワークの拡がり

その後，知り合った学生たちとは互いの主催する勉強会へ参加し合う関係性へ発展

23

たまごの会について

たまごの会のメンバー構成

大学	学部
長崎大学	医学部 医学科
	医学部 保健学科
長崎純心大学	人文学部 現代福祉学科
	人文学部 比較文化学科
活水女子大学	健康生活学部 食生活健康学科

他大学・他学科の学生が入部
現在，約30人

顧問：永田康浩先生（長崎大学地域包括ケア教育センター長）
　　潮谷有二先生（長崎純心大学人文学部　学部長補佐
　　現代福祉学科 教授　医療・福祉連携センター長）

たまごの会の主な活動内容

- 定期ミーティング（月1回）
- 学生主催の勉強会
- 医療系・福祉系施設見学

定期ミーティング
アイスブレイク
近況報告TIME
ディスカッションTIME

サークルに入っていない他大学の学生，社会人も参加可能

学生主催の勉強会
★唯一のルール
施設見学をしたら，必ず勉強会を開催するメンバーになる。

※平成27年秋田大学「全国シンポジウム」学生ポスターセッション発表資料より作成

24

学生主催の勉強会

「MSWを知ろう会」

日時：平成27年4月19日 9:30～12:00
場所：長大坂本キャンパス
内容　・アイスブレイク
・プレゼン（社会福祉士，医療ソーシャルワーカー（MSW）の説明）
・講演
・グループディスカッション，発表，フィードバック
・事例紹介
・グループディスカッション

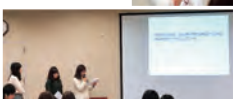
「緩和ケアカンファレンス見学共有」

日時：平成27年7月4日（土）13:30～15:30
場所：長崎純心大学地域連携センター
参加者：長崎純心大学29人，長崎大学6人
内容
・アイスブレイク
・たまごの会の緩和ケアカンファレンス見学活動報告
・医療ソーシャルワーカーから講演
・グループワーク「多職種連携ってなあに」，発表
・フィードバック

25

学生主催の勉強会

「出生前診断を知ってる会？～さまざまな生命のあり方について考えよう～」



日時：平成28年1月16日（土）13:00～15:00
場所：長崎大学医学部ポンペ会館
内容
・ミニレクチャー
「出生前診断ってなに」「出生前診断の現状」
・講演
「妊娠そして告知～その先にあるもの～」

「残薬について知ろう！多職種で節薬、残薬をなくそう！」

日時：平成28年3月26日（土）13:00～15:00
場所：長崎大学医学部坂本キャンパス
内容
・アイスブレイク
・薬剤師について
・ディスカッション
・ゲストスピーカーを招いて講演

26

新聞　たまごの会　外部からの評価

平成27年10月21日　長崎新聞記事

平成28年5月25日　長崎新聞記事

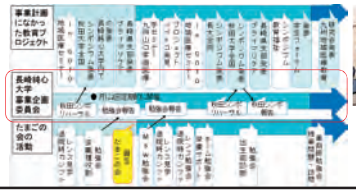
出典：長崎純心大学医療福祉連携センター　平成28年3月事業報告書

27

本センターにおける学生のサポート

長崎純心大学　医療・福祉連携センター
地域包括ケア調査研究事業企画委員会

目的：医療・福祉連携センターが企画する事業を理論面と実践面からサポート
開催：原則として，第2，第4月曜日に開催
場所：長崎純心大学地域連携センター（長崎市扇町）
参加者：福祉系大学教員，地域包括支援センターの社会福祉士，病院の医療ソーシャルワーカー（社会福祉士），長崎大学地域包括ケア教育センター教職員，長崎純心大学医療・福祉連携センター教職員，県医療職員，長崎純心大学生，長崎大学医学部生他

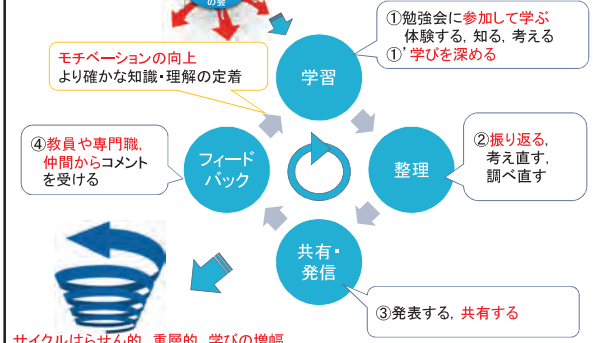


- 秋田大学学生発表前に検討
- セミナー参加後，学生報告
- たまごの会勉強会の報告

28

たまごたちの学びのサイクル

⓪たまごの会に所属しながら，学内に留まらず様々なセミナーに個人が自由に参加していく

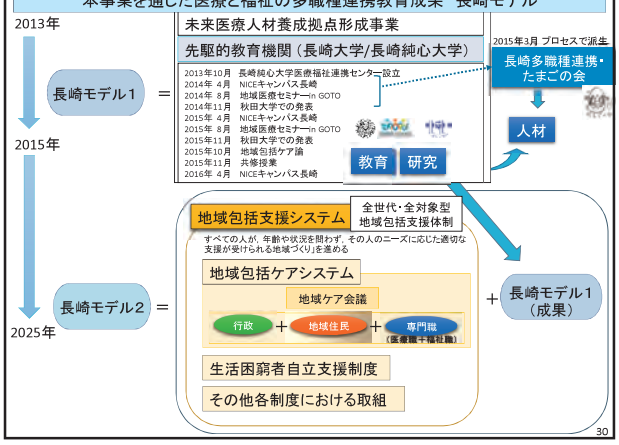


サイクルはらせん的，重層的，学びの増幅

※平成28年9月17日「医療と福祉の融合が導く次世代の医療人育成」シンポジウムにおける学生活動報告資料を大幅に加筆修正したものである。

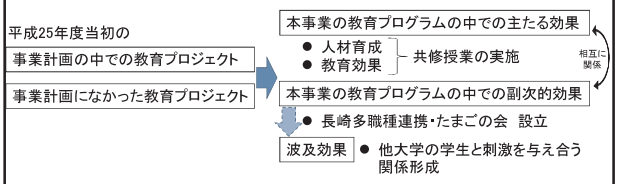
29

本事業を通した医療と福祉の多職種連携教育成果　長崎モデル



30

Ⅴ. 考察



- 本報告において，本事業の教育プロジェクトによって「言葉の捉え方の違いに気づいた」等の多職種連携教育の主たる効果と，たまごの会が形成され，学生が主体的・能動的に学習する（アクティブ・ラーニング）姿勢につながったという副次的な効果を得られたことが大きな成果の一つであると考えられた．
- 加えて，たまごの会のメンバーが，他大学の学生と交流し，互いの主催する勉強会へ主体的に参加し合うことによって，他大学の学生と刺激を与え合う関係形成がなされているという波及効果が生じていることが明らかになった．
- 今後の研究課題としては，今回収集し，整理した資料等をもとに，学生の学び・感想と教育内容や出来事の関連性について客観的方法を用いて分析，検討し，将来を担う多職種人材養成教育にあたり，どのような教育内容や教育体制が必要であるか考察していくことがあげられる．

※ 本研究は，文部科学省の「平成25年度 未来医療研究人材養成拠点形成事業【テーマB】リサーチマインドを持った総合診療医の養成」に係る研究成果の一部である．

地域包括ケアを支える医療と福祉人材の養成に関する取り組み（その2）ー長崎大学医学部と長崎純心大学との共修授業を通してー

奥村 あすか （長崎純心大学医療・福祉連携センター）
潮谷 有二 （長崎純心大学医療・福祉連携センター）
永田 康浩 （長崎大学大学院医歯薬学総合研究科地域包括ケア教育センター）
吉田 麻衣 （長崎純心大学医療・福祉連携センター）
宮野 澄男 （長崎純心大学医療・福祉連携センター）

長崎純心大学医療・福祉連携センター HP：http://www.n-junshin.ac.jp/cmw/
長崎大学地域包括ケア教育センター HP：http://www.mdp.nagasaki-u.ac.jp/tsunagu/index.html

※本資料は，日本社会福祉学会第64回秋季大会で使用した資料に加筆・修正したものであることを付記しておく．

Ⅰ. 研究の背景と目的

- 長崎大学及び長崎純心大学（以下，本学という）は，平成25年度の未来医療研究人材養成拠点形成事業（以下，本事業という）の採択の下「つなぐ医療を育む先導的教育研究拠点の構築ー人と人，場と場，ケアとリサーチをつなぐ総合診療医の養成ー」を協同体制で展開し，継ぎめのない人材の育成に寄与することを展望の一つに掲げて，様々な連携事業を実施している．そのような両大学間の連携事業の一つに長崎大学及び本学共修授業が位置づけられる．共修授業は，平成27年度より，長崎大学医学部医学科の必修科目「医と社会Ⅱ」，また保健学科の必修科目「医療と社会Ⅰ」，そして本学では，選択科目「地域包括ケア論」の一環として実施され，両大学を基盤とする地域包括ケアに係る体系的な教育体制の構築を図った．
- 実際に本学で開講した「地域包括ケア論」の取組の概要や成果については，本学医療・福祉連携センター「平成27年度 事業報告書」で報告され，また長崎大学医学部医学科のカリキュラムである「医と社会Ⅱ」については，長崎大学地域包括ケア教育センター「平成27年度 事業報告書」において報告されている．
- そこで，本報告では，福祉系大学の地域包括ケアを支える人材養成に資する力リキュラムの開発という観点から，「地域包括ケア論」と「共修授業」に焦点を当て，授業実施体制やこれまでの一連の取組、成果の一端について具体的に明らかにすることを目的とした．

Ⅱ. 方法

- 地域包括ケア論及び共修授業について，実施体制や授業実施に係る検討会の概要を整理した上で，実際の地域包括ケア論及び共修授業の授業内容や学生自己評価に関する資料を分析することとした．
- 地域包括ケア論の評価について，本学現代福祉学科の学生（n=36）を対象に，自由記述をはじめとする自計式による質問紙を毎回の講義終了後に実施した．加えて，地域包括ケア論全体の授業評価（以下，全体評価という）を第15回講義終了後に行った．全体評価では，EC01「私は，地域包括ケアシステムを取り巻く社会的背景や現状，諸課題を理解することができた．」等の15項目について，「大変そう思う」「そう思う」「あまり思わない」「全く思わない」の4つの選択肢を用いて測定を行った．また「全く思わない」に1点，「あまり思わない」に2点，「そう思う」に3点，「大変そう思う」に4点を付与し，度数と平均値を算出した．
- グループワークを用いた共修授業に関する評価については，共修授業の教育効果の把握と次回の共修授業へ向けた課題を探るために，長崎大学医学部医学科の学生（n=124），長崎大学医学部保健学科の学生（n=110），本学現代福祉学科の学生（n=36）を対象に自計式の質問紙を授業終了後に行った．そして，授業評価として三つの専攻分野間の差異と共修授業の二日間の差異について検討するため，①専攻分野を独立変数とし，4件法によるEC01「私は，自己の目指す専門職の仕事内容や役割を，他の大学・学科生に説明できた」等の12項目から構成される変数を従属変数とする一元配置分散分析を行った．②また，①と同様の12個の変数について実施日別に対応のあるt検定を行った．なお，分析にあたっては，それぞれの分析に用いた変数に欠損値を有しないケース（n=241）を分析対象とした．分析にはIBM SPSS Statistics22を用いた．

Ⅲ. 倫理的配慮

- 倫理的配慮としては，データクリーニングの際に，個人が特定されることができないように個人情報の取り扱いには留意し，統計処理を行った．

・備考（本プロジェクトと地域包括ケア論開講までの経緯について）

「つなぐ医療を育む先導的教育研究拠点の構築
ー人と人、場と場、ケアとリサーチをつなぐ総合診療医の養成ー」

本事業は平成25年度の文部科学省GP（Good Practice）「未来医療研究人材養成拠点形成事業ーリサーチマインドを持った総合診療医の養成ー」として，将来にわたって安心して医療を受けられる環境を構築するため、地域の医療機関や市町村と連携しながら、将来の超高齢社会における地域包括ケアシステムに対応できるリサーチマインドを持った優れた総合診療医を養成する事を目的に実施します。このGPにおいて長崎大学と長崎純心大学は連携し、地域包括ケアシステムを理解し、将来にわたり実践できる医師の人材育成と、超高齢社会に伴う諸問題を研究する医師を継続的に輩出する仕組みを構築します。

長崎大学地域包括ケア教育センター「平成27年度事業報告書」より引用（http://www.mdp.nagasaki-u.ac.jp/tsunagu/news/h27jigyouhoukoku.pdf）

長崎大学と長崎純心大学との連携事業の一つとして，共修授業が位置づけられる
平成27年11月4日3，4限，11月11日3，4限に共修授業を実施

長崎大学医学部 医学科	長崎大学医学部 保健学科	長崎純心大学
地域包括ケア共修プログラム必修科目	必修科目	人文学部現代福祉学科
「医と社会Ⅱ」	「医療と社会Ⅰ」	選択科目
医学科2年：124人	保健学科2年：110人	「地域包括ケア論」
		現代福祉学科3・4年：36人

両大学を基盤とする地域包括ケアに係る体系的系な教育体制を構築

Ⅳ. 結果

平成27年度　地域包括ケア論の開講

大学関係部署や地域包括ケア関連専門職との連携を図りながら，長崎純心大学学則に基づき，平成27年度後期に3年生以上を対象に，選択科目「地域包括ケア論」を開講.

「地域包括ケア論」では，共修授業を通して実践的に医療と福祉の連携の一端を学習することはもとより，専門職の実践，地域包括ケア関連施設における取組，さらに長崎市の地域包括ケア推進状況や今般の医療及び介護を取り巻く制度・政策面など，ミクロ・メゾ・マクロ的な側面から地域包括ケアに係る要素が学べるように，輪講形式の講義を設定した.

受講者
長崎純心大学現代福祉学科3年生　23人
4年生　13人
合計　36人

地域包括ケア論　一般目標（GIO）

「地域包括ケアの現状や諸課題を通して，地域包括ケアシステムに関する基礎的・基本的な内容を理解するとともに，長崎大学医学部との共修を通して，地域包括ケアシステム構築の基盤ともなる将来の多職種連携に繋がる資質を実践的に養う.」

5

地域包括ケア論　行動目標（SBOs）

01　地域包括ケアシステムを取り巻く社会的背景や現状，諸課題を理解することができる.
02　地域包括ケアシステムの基本理念を理解することができる.
03　地域包括ケアシステムを構成する基本的な要素について理解することができる.
04　関係団体との連携を深め，医療・介護・予防を一体的に提供することにより，住み慣れた地域での生活を支える仕組みが構築できることを理解することができる.
05　地域包括ケアシステムの構築に関心をもち，今後の学習に生かそうとする意欲を持つことができる.
06　急性期病院における医療ソーシャルワーカー（社会福祉士）の役割と多職種連携の実際を理解することができる.
07　回復期病院における医療ソーシャルワーカー（社会福祉士）の役割と多職種連携の実際を理解することができる.
08　地域包括ケアの推進における医療と福祉との多職種連携の意義について理解することができる.
09　地域包括ケアシステムにおける地域包括支援センターの役割や業務内容を理解することができる.
10　地域包括支援センターによる関係機関等との連携など地域のネットワークづくりの実際を理解することができる.
11　地域ケア会議の設置及び運営並びに諸課題について実践事例をもとに理解することができる.
12　地域ケア会議が個別ケースに留まることなく，地域課題を関係者と共有し，課題解決に向けて新たな社会資源の開発，さらには政策形成化など，ボトムアップする機能を有していることを理解することができる.
13　地域ケア会議における地域の多職種や住民等，関係者間の連携や協働の重要性について理解することができる.
14　地域包括ケアにおける地域ケア会議の役割について理解することができる.
15　共修授業を通して，見方や考え方の異なる他の大学生と協働して課題解決に取り組むなど，多職種連携の基盤となる実践的な態度を養うことができる.

行動目標（SBOs）をもとに評価基準となる質問項目（EC01～EC15）を作成し，第15回講義終了後に評価させた

6

長崎純心大学　平成27年度「地域包括ケア論」

日　時	タイトル	講師等
9月28日（月）（18:00～19:30）	地域包括ケア論とは	長崎純心大学医療・福祉連携センター　センター長　潮谷有二 教室：長崎純心大学三ツ山キャンパスS310
10月3日（土）（10:40～12:10）	地域におけるケアシステムの現状と課題（1） ～地域包括ケアシステムを支える地域包括支援センターの役割～	長崎市市民局福祉部福祉総務課 保健師（[illegible]）　[illegible] 教室：長崎純心大学地域連携センター
10月3日（土）（12:55～14:25）	地域におけるケアシステムの現状と課題（2） ～地域包括支援センターと関係機関との連携の実際～	長崎市市民局福祉部福祉総務課 保健師（[illegible]）　[illegible] 教室：長崎純心大学 地域連携センター
10月5日（月）（18:00～19:30）	地域包括ケアシステム構築のための理論と手法	長崎純心大学医療・福祉連携センター　センター長　潮谷有二 教室：長崎純心大学三ツ山キャンパスS310
10月24日（土）（9:00～10:30）	地域におけるケアシステムの現状と課題（3） ～急性期退院カンファレンスと多職種連携～	長崎みなとメディカルセンター市民病院　医療ソーシャルワーカー（社会福祉士）[illegible] 教室：長崎純心大学地域連携センター
10月24日（土）（10:40～12:10）	地域におけるケアシステムの現状と課題（4） ～回復期退院カンファレンスと多職種連携～	社会医療法人春回会 長崎北病院　医療ソーシャルワーカー（社会福祉士）[illegible] 教室：長崎純心大学地域連携センター
10月28日（水）（14:40～16:10）	オリエンテーション及び地域包括ケア論	長崎純心大学医療・福祉連携センター　センター長　潮谷有二 教室：長崎純心大学地域連携センター 長崎大学医学部坂本キャンパス
11月4日（水）（13:00～14:30）	講義及びワークショップ①（事例検討）～ディスカッション～	長崎純心大学医療・福祉連携センター センター長 潮谷有二，[illegible] 長崎大学地域包括ケア教育センター センター長 [illegible]，関係教職員 長崎大学医学部保健学科 [illegible]，関係教職員 教室：長崎純心大学地域連携センター 長崎大学文教キャンパス（スカイホール，A11，G3A，A33）
11月4日（水）（14:40～16:10）	ワークショップ②（事例検討）～発表準備（グループ別）～	
11月11日（水）（13:00～14:30）	ワークショップ③（医療・保健・福祉の連携）～プレゼンテーション（各教室別）～	
11月11日（水）（14:40～16:10）	ワークショップ④（医療・保健・福祉の連携）～プレゼンテーション（優秀グループによる）～	
11月28日（土）（10:40～12:10）	医療と介護・福祉サービスにおける多職種連携 ～地域・チームで高齢者等を支える仕組み～	長崎大学地域包括ケア教育センター　センター長 [illegible] 教室：長崎純心大学地域連携センター
11月28日（土）（12:55～14:25）	地域ケア会議の開催（1） ～地域課題の共有，社会資源開発，政策形成～	佐々町地域包括支援センター　係長　[illegible] 教室：長崎純心大学 地域連携センター
12月12日（土）（10:40～12:10）	地域ケア会議の開催（2） ～多様な職種や機関等との連携協働～	[illegible]地域包括支援センター　所長　[illegible] 教室：長崎純心大学地域連携センター
12月12日（土）（12:55～14:25）	地域包括ケア論総括	長崎純心大学医療・福祉連携センター　センター長　潮谷有二 教室：長崎純心大学地域連携センター

※　赤で囲まれた部分が長崎純心大学と長崎大学医学部との共修授業です。

※長崎純心大学医療・福祉連携センター「平成27年度事業報告書」より引用
（http://www.n-junshin.ac.jp/cmw/study/h27_iryou-jigyouhoukokusyo_resize.pdf）7

地域包括ケア論各講義の評価（共修授業実施前）

講義実施日	感想（一部）
第1回目 9月28日（月）	● 医療と福祉が今後もっと密接に関わっていく必要性と重要性を把握出来た．また地域住民を中心として地域包括ケアを展開していくためにも若い私たちの力と知識が大切であると思った．（4年）
第2回目 10月3日（土）2限	● 長崎市の地域包括ケアの実態などを聞くことができ，とても勉強になった．長崎市は高齢化が進んでおり，それに対応するために地域包括ケアシステムの構築が必要だということを学ぶことができて良かった．（4年）
第3回目 10月3日（土）3限	● 連携の必要性を学びました．会議や事例検討等に参加して，様々な専門職種と顔の見える関係を構築することが大切だと感じました．また，高齢者の方が病院から住み慣れた地域に安心して生活していくために，その人がどのような最後を迎えたいのか気持ちを汲み取りながら連携し，支援していくことが大切だと思いました．まだまだ福祉としての専門知識が身に付いてないので，将来，多職種との連携を構築していくためにも，学びを深めていきたいと思いました．（3年）
第4回目 10月5日（月）	● 今日の講義では，前回の講義の理解を深めることができた．多職種との連携において，互いに理解し，尊敬する気持ちをもって，関係をつくっていくことが大切だと学んだ．ソーシャルワークの定義や職種の内容についても，相手に分かりやすく伝えることがまだ出来ていないので，まず，しっかりと理解するように努力したい．（3年）
第5回目 10月24日（土）1限	● 急性期での退院前カンファレンスの現状やカンファレンス参加職種など，詳しくお話を聞くことができて良かった．また，クライエントを尊重する視点，クライエントを生活者として捉える視点はカンファレンスでも重視され，この視点はどのような場面でも重要になることを改めて感じた．（4年）
第6回目 10月24日（土）2限	● 1限の急性期退院カンファの講義の後に，回復期退院カンファのお話をきくことができたので，共通点や相違点を考えながら聞くことができた．その中でも，「チームが一丸となって目標に向かっていく」というサポートのあり方は，どの分野においても共通することなのだと感じた．（3年）

8

地域包括ケア論各講義の評価（共修授業実施後）

講義実施日	感想（一部）
第12回目 11月28日（土）2限	● 今まで医療面からの地域包括ケアについて学ぶ機会が少なかったため，今回の講義を聞くことができて良かったと思う．病院では臓器ごとに科が違っており，機能が分化しているが，それをつなぐために連携することが大切だと学んだ．また，これまでは多職種連携の利点にばかりに目を向けていたが，欠点についても理解した上で，利点を伸ばしていくよう取り組むことが必要であると考えた．（4年）
第13回目 11月28日（土）3限	● 先生のお話を聞き，専門職が主人公ではなく，地域住民の主体性を重視することが大事だということを改めて感じた．また，相談機能，調査，アウトリーチをすることで，真のニーズを見つけ，それにもとづき，事業展開をしているところがとても魅力的だった．（4年） ● 介護保険サービスがあるから大丈夫ということではなく非常に大切なのは「地域力」であるということがよく分かりました．利用者の支援を考えていく際にすぐに介護保険が適切だと決めつけずに，地域力を生かした支援が適切な場合もあるということを知っておかなければならないと思いました．（3年）
第14回目 12月12日（土）2限	● 包括の業務の中には，介護に関わることだけでなく，成年後見などの権利擁護事業の働きかけも非常に重要であるということが改めて分かった．また地域ケア会議開催に向けて，状況に応じて必要な社会資源を見極め，会議への参加を促すことが必要だと思った．（3年） ● 将来自分が専門職になった時，自分のスキルの向上のために研修会等に参加することは非常に大事だと思った．（3年）
第15回目 12月12日（土）3限	● 地域包括ケア論を通して，他大学との共修授業やグループディスカッションの中で，福祉について伝えることができた．他分野の方に伝えていくためには，事前学習が大切で，伝える素材を事前に準備することにより協働・連携はグッと近づくということを実感した．（4年） ● 先生の話を聞き，この事業は力を入れており大きなものであると感じました．様々な分析結果から，福祉の専門職を目指す学生だけではなく，保健学科や医学科の学生たちにとっても大変学びになる機会であったことを知ることができました．今後，この経験を忘れずに，現場で働く際に生かしていきたいと思いました．（3年）

9

地域包括ケア論全体評価（度数・平均値）

質問項目
EC01　私は，地域包括ケアシステムを取り巻く社会的背景や現状，諸課題を理解することができた.
EC02　私は，地域包括ケアシステムの基本理念を理解することができた.
EC03　私は，地域包括ケアシステムを構成する基本的な要素について理解することができた.
EC04　私は，関係団体との連携を深め，医療・介護・予防を一体的に提供することにより，住み慣れた地域での生活を支える仕組みが構築できることを理解することができた.
EC05　私は，地域包括ケアシステムの構築に関心をもち，今後の学習に生かそうとする意欲を持つことができた.
EC06　私は，急性期病院における医療ソーシャルワーカー（社会福祉士）の役割と多職種連携の実際を理解することができた.
EC07　私は，回復期病院における医療ソーシャルワーカー（社会福祉士）の役割と多職種連携の実際を理解することができた.
EC08　私は，地域包括ケアの推進における医療と福祉との多職種連携の意義について理解することができた.
EC09　私は，地域包括ケアシステムにおける地域包括支援センターの役割や業務内容を理解することができた.
EC10　私は，地域包括支援センターによる関係機関等との連携など地域のネットワークづくりの実際を理解することができた.
EC11　私は，地域ケア会議の設置及び運営並びに諸課題について実践事例をもとに理解することができた.
EC12　私は，地域ケア会議が個別ケースに留まることなく，地域課題を関係者と共有し，課題解決に向けて新たな社会資源の開発，さらには政策形成化など，ボトムアップする機能を有していることを理解することができた.
EC13　私は，地域ケア会議における地域の多職種や住民等，関係者間の連携や協働の重要性について理解することができた.
EC14　私は，地域包括ケアにおける地域ケア会議の役割について理解することができた.
EC15　私は，共修授業を通して，見方や考え方の異なる他の大学生と協働して課題解決に取り組むなど，多職種連携の基盤となる実践的な態度を養うことができた.

分析結果

評価項目	EC01	EC02	EC03	EC04	EC05	EC06	EC07	EC08
大変そう思う	16	14	17	23	30	8	7	23
そう思う	18	20	17	11	4	26	26	11
あまり思わない	0	0	0	0	0	0	1	0
全く思わない	0	0	0	0	0	0	0	0
平均値	3.471	3.412	3.500	3.676	3.882	3.235	3.176	3.676
標準偏差	0.507	0.500	0.508	0.475	0.327	0.431	0.459	0.475
歪度	0.123	0.375	0.000	−0.790	−2.484	1.306	0.714	−0.790
尖度	−2.113	−1.979	−2.129	−1.466	4.430	−0.315	0.947	−1.466

評価項目	EC09	EC10	EC11	EC12	EC13	EC14	EC15
大変そう思う	13	18	14	16	26	17	20
そう思う	21	16	19	17	8	17	14
あまり思わない	0	0	1	1	0	0	0
全く思わない	0	0	0	0	0	0	0
平均値	3.382	3.529	3.382	3.441	3.765	3.500	3.588
標準偏差	0.493	0.507	0.551	0.561	0.431	0.508	0.500
歪度	0.507	−0.123	−0.078	−0.303	−1.306	0.000	−0.375
尖度	−1.856	−2.113	−0.895	−0.900	−0.315	−2.129	−1.979

（全項目n=34）

10

地域包括ケア論全体評価（感想）

感想（一部）

- 私についていけるのかと不安で参加しましたが，あっという間の15回でした．参加する中で多くの新たな学びがあり，また長崎大学の学生との共修授業もあり，参加して良かったと思いました．これまでの学びを今後に生かしていきたいと思います．（4年）
- 社会福祉士を目指す私たちが，現場に出て，医療職と戦い，連携していかなければならない．その方法と可能性をこの講義を通して知り，自分自身の将来の可能性を広げて頂いた講義だったと考える．（4年）
- 共修授業はグループに1人ということにとても不安でした．しっかり，自分の福祉という視点を伝えることができたか自信はないが自分なりに取り組むことができたと思います．また，私の中で大切な経験となりました．（4年）
- 自分の学んできた知識を他学科の学生に説明することは，難しいと感じたが，異なる分野を学ぶ学生に分かりやすく説明することができたと思う．（3年）
- 長崎大学での共修授業に参加できたことを誇りに思って今後に役立てていきたいと思います．また，地域包括ケアシステムや，多職種連携についてなど多くのことを学ぶことができました．（3年）
- 今回，初めて共修授業というものを体験して，新鮮さ，そして自分自身の未熟さを感じつつ，もう少しできることがあったのではないかというもどかしさが残った．しかし，この思いを忘れず，さらに自身の知識や人に伝える力を磨いていきたいと思う．これからどんどん新しい場に踏みこむ姿勢を大切にしたい．（3年）
- 多職種連携の大切さを講義の中で学び，理解することができているものの，実際のディスカッションの場では，連携して相手に自分の伝えたいことを伝える難しさを感じた．しかし，事前準備や，伝えたいという気持ちを持って授業に臨むことで，グループに一人というアウェイな状況でも対応することができ，自分に自信を持つことができた．（3年）

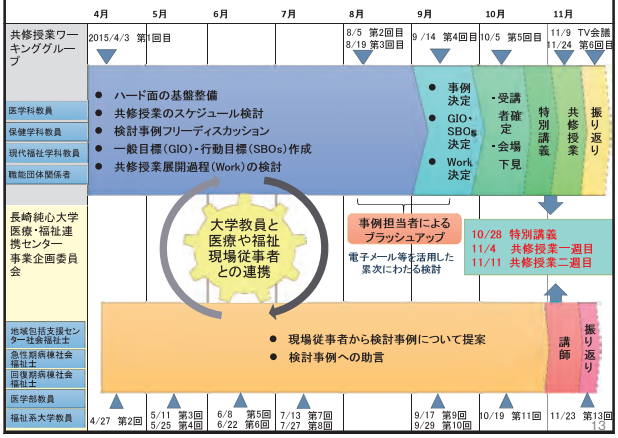
長崎純心大学「地域包括ケア論」第7回目～第11回目講義
長崎大学医学部医学科「医と社会Ⅱ」
長崎大学医学部保健学科「医療と社会Ⅰ」

長崎大学・長崎純心大学 共修授業

日時：平成27年11月4日3，4限，11月11日3，4限
場所：長崎大学文教キャンパス，長崎純心大学地域連携センター他

長崎大学医学部医学科2年	124人
長崎大学医学部保健学科2年	110人
長崎純心大学医現代福祉学科3・4年	36人
合計	270人

平成27年度共修授業実施に係る検討会の経緯

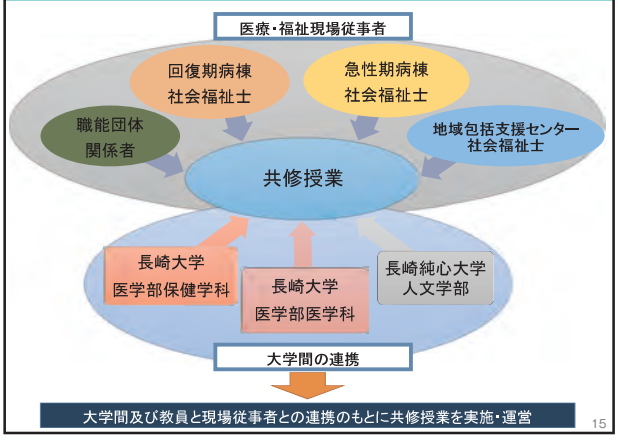


長崎純心大学医療・福祉連携センター 地域包括ケア調査研究事業企画委員会

本事業の充実を図る観点から，平成25年度より「長崎純心大学医療・福祉連携センター地域包括ケア調査研究事業企画委員会」を設置

① 目的　地域包括ケア体制の推進に関する理論的かつ実践的な調査研究の企画
② 開催　原則として，第2，第4月曜日に開催
③ 場所　長崎純心大学地域連携センター（長崎市扇町）
④ 参加者
　福祉系大学教員，地域包括支援センターの社会福祉士，病院の医療ソーシャルワーカー（社会福祉士），長崎県内保健所職員（医師），長崎大学地域包括ケア教育センター教職員，長崎純心大学医療・福祉連携センター教職員，長崎純心大学生，長崎大学医学部生

長崎大学医学部と長崎純心大学との共修授業の実施体制



大学間及び教員と現場従事者との連携のもとに共修授業を実施・運営

共修授業の目標（GIO・SBOs）と評価

一般目標（GIO）

- 長崎大学　医学部
  学習背景の異なる大学及び学科とが医療・福祉系の枠を超えて共修の学びの場を通して，将来の多職種連携に繋がる医療と保健と福祉の視点を養う．
- 長崎純心大学
  学習背景の異なる大学及び学科とが医療系，福祉系という枠を超えて共修することを通して，将来の医療職と福祉職との多職種連携に繋がる資質を養う．

行動目標（SBOs）

01 自己の目指す専門職の仕事内容や役割を，他の大学・学科生に説明できる．
02 他の大学・学科生が目指している専門職の仕事内容や役割を理解できる．
03 他の大学・学科生と同じ視点を有していることに気づくことができる．
04 他の大学・学科生とは異なった視点を有していることに気づくことができる．
05 自分の考えを他の大学・学科生に伝えることができる．
06 自分の専門分野に対する興味・モチベーションを向上させることができる．
07 他の大学・学科生が話した内容について共感することができる．
08 見方や考え方の違う他の大学・学科生と協働して，課題解決に取り組む重要性を実感できる．
09 グループワークを通して，掲示事例の目標となる姿（本人がどうなりたいか，また，本人にどうなって欲しいか）を列挙し，その実現に向けての具体的支援方策を提案できる．
10 地域住民が地域で生活するための医療のしくみを理解することができる．
11 地域住民が地域で生活するための福祉のしくみを理解することができる．
12 医療職と福祉職とが連携することの意義について理解することができる．

行動目標（SBOs）をもとに評価基準となる質問項目（EC01～EC12）を作成し，共修授業1週目，共修授業2週目の授業終了後に評価させた

検討事例

利用者・患者の地域生活への支援について焦点化

地域

医療機関

- 医療機関から地域における暮らし・生活への支援の流れに目を向ける
- 急性期をはじめ，慢性期，終末期，治療継続拒否など様々なステージの支援について考える
- 認知症などの今後支援が求められる対象を盛り込む

事例1 急性期	・72歳，男性 ・脳梗塞後右片麻痺 高血圧症	✓ 妻との二人暮らし ✓ 主介護者である妻は要支援2であり，見当識障害を有する
事例2 慢性期	・80歳，男性 ・認知症・2型糖尿病 ・散歩中，道に迷い警察から保護	✓ 妻との二人暮らし ✓ 主介護者である妻が疲弊状態
事例3 緩和，終末期	・40歳，女性 ・乳がん，多発脳転移	✓ 要支援1の母との二人暮らし ✓ 主介護者である母と本人との意向に齟齬 ✓ 母が介護保険サービス利用困難
事例4 治療継続拒否	・80歳，女性 ・腰椎圧迫骨折，高血圧症，2型糖尿病，骨粗鬆症，認知症	✓ 一人暮らし ✓ 本人が希望する在宅生活継続に対して主介護者である長女が不安

※詳細事例については長崎純心大学医療・福祉連携センター「平成27年度事業報告書」を参照されたい（http://www.rrrjunshin.ac.jp/cmw/study/h27_iryou-jiryoubukokusyo.pdf）

学生に検討事例を事前配布し，目を通しておくよう周知した

17

検討事例

事例1（急性期）72歳　男性（脳梗塞後右片麻痺）

シナリオ

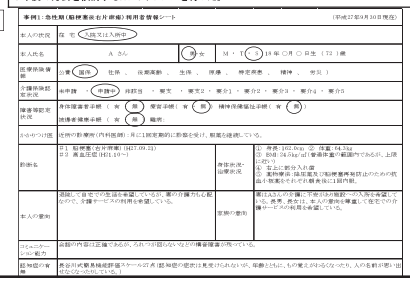
Aさんは70歳の妻と2人暮らし。子供は2人で既に独立し他県に在住している。Aさんは平成21年（66歳）から高血圧症で近くの診療所で月一回の投薬加療を受けており、血圧も安定していた。

妻は平成24年（67歳）ごろから徐々に見当識障害が目立ってきた。そのため地域包括支援センターが定期的な訪問し、生活状況の確認を行っている。妻は介護保険で要支援2と認定され、デイサービスセンターへ週2回通っている。

平成27年9月21日朝、Aさんは突然ろれつが回らなくなり右上肢のしびれが出現したため、救急車で大学病院へ搬送された。診察・検査の結果、脳梗塞の診断で同日から入院加療となった。

入院から10日目、脳梗塞後遺症として右片麻痺があるものの全身状態は安定した。そのため今後の方針を検討するカンファレンスを行った。

情報シート



事例1：急性期（脳梗塞後右片麻痺）利用者情報シート　（平成27年9月30日現在）

本人の状況	在宅　入院又は入所中		
本人氏名	A さん	男・女	M・T・S 18年 ○月 ○日生（72）歳
医療保険保険	公費　国保　仕事　後期高齢　生保　保護　特定疾患　精神　労災		
介護保険認定状況	未申請　申請中　自認当　要支　要支2　要介1　要介2　要介3　要介4　要介5		
障害等認定状況	身体障害者手帳（有　無）　療育手帳（有　無）　精神保健福祉手帳（有　無） 地域重視療手帳（有　無）　職業：		
入院・ケア状態	近所の診療所（内科医師）：月に1回定期的に診察を受け，服薬を継続している。		
診断名	1 脳梗塞（右片麻痺）（H27.09.21） 2 高血圧症（H21.10～）	身体的状況・治療状況	① 身長：162.0cm ② 体重：64.3kg ③ BMI：24.0kg/m²（普通体重の範囲内であるが，上限に近い） ④ 左上に部分入れ歯 ⑤ 高齢療養：協定電気3階梗塞再発防止のための抗血小板薬をそれぞれ服食後に1回内服。
本人の意向	退院して自宅での生活を希望しているが，妻の介護力も心配なので，介護サービスの利用を希望している。	家族の意向	妻は入院から介護に不安があり施設への入所を希望している。長男，長女は，本人の意向を尊重して在宅での介護サービスの利用を希望している。
コミュニケーション能力	会話の内容は正確であるが，ろれつが回らないなどの障害障害が残っている。		
認知症の有無	長谷川式簡易機能評価スケール27点（認知症の症状は見受けられないが，年齢とともに，もの覚えがわるくなったり，人の名前が思い出せなくなっている。）		

18

検討事例

事例1（急性期）
72歳　男性
（脳梗塞後右片麻痺）

情報シート

19

10月28日　長崎純心大学　潮谷有二教授　特別講義「地域包括ケアシステムについて」

ネット回線
TV中継

坂本キャンパス
長崎大学医学部
医学科　保健学科

地域連携センター（扇町）
長崎純心大学　現代福祉学科

学生の感想（一部）

- 社会保障費が国家予算の半分以上を占めているという事実は，医療者として国のお金の半分以上に関わることになることへの責任を改めて考えさせられるものとなりました．（医学部医学科）
- 今日の講義を聞いて，病棟だけで患者さんのケアを終わったと考えるのではなく，地域に戻ったときのことも考えて在宅ケアを見据えていかなければならないということが分かりました．（医学部保健学科）

20

共修授業　スケジュール

【1回目（11月4日（水）3・4限）】

時間	内容
13:30～	はじめに：松坂副学長
13:40～	共修授業について：永田教授
13:50～	教室移動・休憩
14:05～	グループワーク 自己紹介・役割決め（司会・記録・発表者） アイスブレイク『10年後の自分〈夢・目指す職の仕事内容〉』
14:30～	【Work1】 個人でポストイットに『強み・弱み』書き出し
15:00～	【Work2】 目標となる姿を考える （本人にどうなってほしいか）
15:30～	発表①Work1,2の内容を発表（発表3分＋質疑応答）
15:45～	【Work3】 上記目標を実現するために何ができるのか，何を支援できるのか
15:55～	アンケート・評価

【2回目（11月11日（水）3・4限）】

時間	内容
13:30～	各自調べてきたことを話し合う。
13:40～	【Work4】 担当事例をサポートするための社会資源，職種およびその役割をイラスト・図を用いてまとめる
14:15～	発表②（1グループ：発表3分+質疑応答2分）
14:45～	各教室で全体発表をする代表1グループを選出 まとめ
15:15～	全体発表③（1グループ：3分＋質疑応答）
15:40～	総括（潮谷教授，永田教授，井口教授）
15:50～	アンケート・レポート

グループ編成

- 各事例ごとに10グループ（合計40グループ）
- 原則，1グループにつき医学科生3，4人，保健学科生2，3人，現代福祉学科生0，1人

21

共修授業の授業風景

22

事例1

各グループによる発表

23

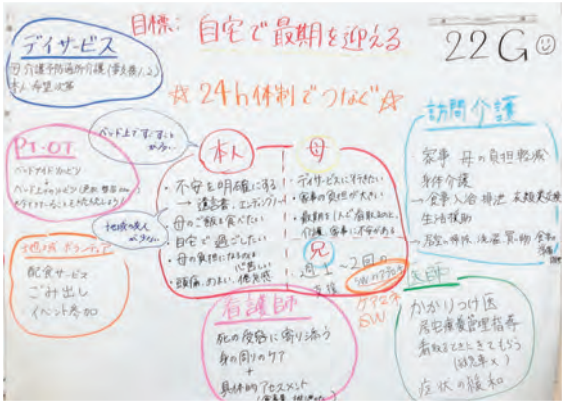
事例2

各グループによる発表

24

事例3

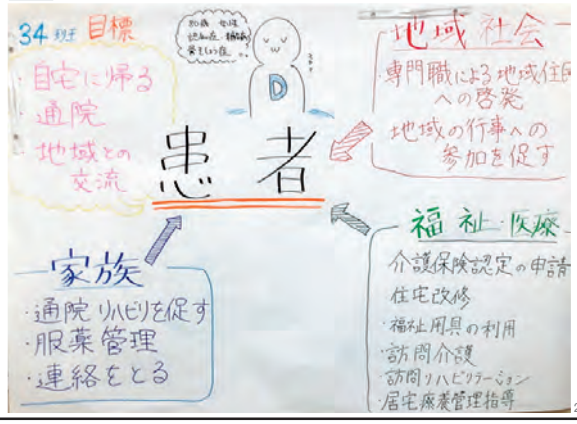
各グループによる発表



25

事例4

各グループによる発表



26

共修授業の評価

評価項目

EC01　私は，自己の目指す専門職の仕事内容や役割を，他の大学・学科生に説明できた．

EC02　私は，他の大学・学科生が目指している専門職の仕事内容や役割を理解できなかった．（反転項目）

EC03　私は他の大学・学科生と同じ視点を有していることに気づくことができた．

EC04　私は，他の大学・学科生とは異なった視点を有していることに気づくことができた．

EC05　私は自分の考えを他の大学・学科生に伝えることができなかった．（反転項目）

EC06　私は自分の専門分野に対する興味・モチベーションを向上させることができた．

評価項目		EC1		Paired	EC2		Paired	EC3		Paired	EC4		Paired	EC5		Paired	EC6		Paired
実施日		Nov. 4	Nov.11	t-test	Nov. 4	Nov.11	t-test	Nov. 4	Nov.11	t-test	Nov. 4	Nov.11	t-test	Nov. 4	Nov.11	t-test	Nov. 4	Nov.11	t-test
医学科	平均値	2.72	2.79	n.s.	2.84	2.92	n.s.	2.90	3.16	p<.01	2.84	2.94	n.s.	3.06	2.92	n.s.	3.00	2.94	n.s.
	度数	109	109		109	109		109	109		109	109		109	109		109	109	
	標準偏差	.721	.759		.772	.829		.576	.709		.772	.780		.678	.673		.638	.705	
	尖度	−.198	−.553		.555	−.079		.847	.239		.100	−.493		.442	−.156		.925	1.158	
	歪度	−.115	−.014		−.707	−.538		−.297	−.551		−.461	−.261		−.430	−.604		−.435	−.730	
放健学科	平均値	2.81	2.93	n.s.	2.96	3.15	n.s.	3.01	3.18	p<.01	3.03	3.03	n.s.	2.85	2.87	n.s.	3.04	3.18	p<.05
	度数	98	98		98	98		98	98		98	98		98	98		98	98	
	標準偏差	.637	.561		.634	.778		.565	.550		.812	.710		.829	.833		.809	.863	
	尖度	.392	2.508		.248	1.055		1.549	−.058		.936	1.212		.251	.063		1.868	.197	
	歪度	−.303	−.742		−.240	−.946		−.347	.078		−.943	−.749		−.702	−.619		−.581	−.437	
現代福祉学科	平均値	2.76	3.06	p<.05	3.00	2.91	n.s.	2.91	3.09	n.s.	3.15	3.15	n.s.	2.88	3.00	n.s.	3.18	3.21	n.s.
	度数	34	34		34	34		34	34		34	34		34	34		34	34	
	標準偏差	.806	.849		.492	.830		.621	.668		.821	.702		.686	.778		.797	.880	
	尖度	−.379	−.495		1.655	−.739		2.180	−.625		1.023	−.867		.745	1.061		.338	1.478	
	歪度	−.144	−.054		.000	−.842		−.753	−.100		−.884	−.213		−.445	−.819		−.718	−1.276	
合計	平均値	2.76	2.88	—	2.93	3.01	—	2.95	3.16	—	2.95	3.01	—	2.95	2.91	—	3.04	3.08	—
	度数	241	241		241	241		241	241		241	241		241	241		241	241	
	標準偏差	.671	.673		.685	.814		.578	.641		.799	.742		.748	.842		.651	.723	
	尖度	−.017	.166		.923	.307		1.226	.164		.379	.033		.551	.018		.929	.808	
	歪度	−.176	−.272		−.610	−.724		−.390	−.349		−.699	−.446		−.635	−.629		−.498	−.720	
One-way ANOVA		n.s.	n.s.	—	n.s.	n.s.	—	n.s.	n.s.	—	n.s.	n.s.	—	n.s.	n.s.	—	n.s.	p<.05	—

27

EC07　私は，他の大学・学科生が話した内容について共感することができなかった．（反転項目）

EC08　私は，グループワークを通して見方や考え方の違う他の大学・学科生と協働して課題解決に取り組む重要性を実感できた．

EC09　私は，グループワークを通して，指示事例の目標となる姿（本人がどうなりたいかまた本人にどうなって欲しいか）を列挙し，その実現に向けての具体的支援方策を提案できた．

EC10　私は，地域住民が地域で生活するための医療のしくみを理解することができた．

EC11　私は，地域住民が地域で生活するための福祉のしくみを理解することができた．

EC12　私は，医療職と福祉職とが連携することの意義について理解することができた．

評価項目		EC7		Paired	EC8		Paired	EC9		Paired	EC10		Paired	EC11		Paired	EC12	EC12	Paired
実施日		Nov. 4	Nov.11	t-test	Nov. 4	Nov.11	t-test	Nov. 4	Nov.11	t-test	Nov. 4	Nov.11	t-test	Nov. 4	Nov.11	t-test	Nov. 4	Nov.11	t-test
医学科	平均値	3.24	3.14	n.s.	3.39	3.31	n.s.	3.05	3.14	n.s.	2.72	3.06	p<.001	2.77	3.12	p<.001	3.21	3.28	n.s.
	度数	109	109		109	109		109	109		109	109		109	109		109	109	
	標準偏差	.792	.775		.639	.729		.672	.726		.744	.678		.715	.648		.668	.695	
	尖度	.499	.388		1.926	1.096		1.139	.012		−.003	1.059		.480	1.031		1.756	1.513	
	歪度	−.910	−.730		−1.007	−.999		−.613	−.512		−.330	−.812		−.558	−.534		−.840	−.856	
放健学科	平均値	3.24	3.32	n.s.	3.38	3.54	p<.01	3.02	3.24	p<.001	2.82	3.19	p<.001	2.81	3.16	p<.001	3.30	3.36	n.s.
	度数	98	98		98	98		98	98		98	98		98	98		98	98	
	標準偏差	.826	.832		.601	.540		.574	.610		.581	.511		.620	.550		.596	.542	
	尖度	.746	1.444		−.652	−.881		.128	−.521		.508	.188		.050	.006		−.268	−.860	
	歪度	−1.047	−1.312		−.386	−.565		.002	−.184		−.289	.281		−.114	.074		−.204	.000	
現代福祉学科	平均値	3.09	3.26	n.s.	3.59	3.47	n.s.	3.09	3.18	n.s.	2.68	3.03	p<.05	3.06	3.24	n.s.	3.35	3.59	n.s.
	度数	34	34		34	34		34	34		34	34		34	34		34	34	
	標準偏差	.712	.790		.657	.825		.621	.716		.589	.717		.547	.654		.734	.783	
	尖度	1.067	.524		5.854	3.083		−.232	1.295		−.551	.786		.653	2.888		1.773	5.543	
	歪度	−.864	−.913		−2.056	−1.792		−.053	−.801		.198	−.967		.049	−.967		−1.166	−2.222	
合計	平均値	3.22	3.23	—	3.41	3.43	—	3.04	3.19	—	2.76	3.11	—	2.83	3.15	—	3.27	3.36	—
	度数	241	241		241	241		241	241		241	241		241	241		241	241	
	標準偏差	.794	.802		.628	.693		.624	.679		.660	.623		.660	.610		.649	.656	
	尖度	.559	.868		1.232	1.676		.679	.158		.210	1.205		.492	1.045		1.056	1.802	
	歪度	−.918	−.973		−.899	−1.177		−.339	−.491		−.302	−.494		−.408	−.426		−.692	−.975	
One-way ANOVA		n.s.	n.s.	—	n.s.	p<.05	—	n.s.	n.s.	—	n.s.	n.s.	—	n.s.	n.s.	—	n.s.	n.s.	—

（出典：長崎純心大学医療・福祉連携センター平成27年度　事業報告書）

28

共修授業の感想

学科	感想（一部）
医学科	● 今回は前回よりも多くの発表を聴くことができ，自分の考え方が広がったと思う．チーム内で様々な専攻の人がいて，将来共に働くことになるであろう職種への理解が深まったり，魅力を感じたりすることができた．このような機会はとても貴重だと思う．将来，勤務していく際に，今回学んだそれぞれの職種の良さを生かして患者さんにベストな対応ができれば良いと思った．
保健学科	● 他のグループの発表を聞き，自身のグループの発表にはなかったピアサポートの支援や障害年金の手続きといった意見もあったので，多くの人と情報を共有することの大切さを知れたと思う． ● 前回よりも多職種連携への理解が深まったと思います．利用者への支援について様々な視点からアプローチすることができると分かりました．
現代福祉学科	● 授業では習っていないところまで自分で調べることで福祉に対するモチベーションを上げることができました． ● 時々意見がぶつかり合うこともあり，連携をしていく中でこのような状況が起こるということを実感し，意見のぶつかり合いも大切なことだと思いました．

平成28年度共修授業に向けて
- 「地域包括ケア」の推進の中で，今後支援が一層求められてくる「認知症」や「看取り」のニーズを有する事例に焦点を当てる
- 共修授業のスケジュール内容についても現在検討中である

29

結果のまとめ

地域包括ケア論
- 大学関係部署や地域包括ケア関連専門職との連携を図ることにより，地域包括ケアに係る諸要素を盛り込んだカリキュラムを構築することができた．
- また，全体評価の結果から，地域包括ケアシステムに係る緒要素への理解や地域包括支援センターと急性期病棟及び回復期病棟関係者の役割，さらに共修授業に係る項目等，すべての項目の平均値が高く，福祉系大学の地域包括ケアを支える人材養成に資するカリキュラムの開発という意味において，地域包括ケア論の成果の一端について明らかにすることができた．

共修授業
- 各専攻分野の教員及び医療・福祉現場従事者との累次にわたる協議の場を設けることによって，各分野の意見を集約し医療と福祉の共通基盤を盛り込んだ教材を作成することができた．
- また，学生自己評価の結果からは，医学科，保健学科において，二週目に多くの項目でプラスの変化が生じており，特に多職種連携が理解できる医師の養成という観点からみると，EC10の「私は，地域住民が地域で生活するための医療のしくみを理解することができた．」とEC11の「私は，地域住民が地域で生活するための福祉のしくみを理解することができた．」の項目に医学科及び保健学科両方ともに点数が上がっていることから，多職種の理解に変化が起きたという意味において共修授業に一定の効果があったことが明らかになった．一方，現代福祉学科においては，二週目のEC01の「私は，自己の目指す専門職の仕事内容や役割を，他の大学・学科生に説明できた．」とEC10の「私は，地域住民が地域で生活するための医療のしくみを理解することができた．」にプラスの変化が生じたことから，福祉分野の学生においても共修授業に一定の効果があったのではないかと示唆された．

30

Ⅴ．考察

地域包括ケア論
- 共修授業のグループワークにおいて医学部6，7人，現代福祉学科1人というグループ編成の中で，現代福祉学科においてEC01「私は，自己の目指す専門職の仕事内容や役割を，他の大学・学科生に説明できた．」にプラスの変化が生じたことは，今回の共修授業の大きな成果であったと考えられた．何が効果をもたらしたのかについては検討を行っていないため，今後，検討する必要がある．
- 今後の課題として，地域包括ケアを支える人材の養成という観点から，地域に生じるニーズに対して多面的に考えていくために，医療・福祉だけでなくその他の専門分野の知見も踏まえる必要がある．そのためには，今年度は本学からは現代福祉学科のみの受講であったが，福祉分野の学生だけでなく，他学科学生の参加が求められる．

共修授業
- 今後の課題として，平成28年度も共修授業を実施予定であり，今回の共修授業の成果を踏まえながら，より効果的な多職種連携教育に繋げていくために，平成27年度に得られた実証的なデータも勘案して各専攻分野の教員並びに医療・福祉現場従事者との検討・協議の場を重ねていく必要がある．
- また，学生自己評価に関しては，項目分析や因子分析の結果を踏まえて学生自己評価尺度を作成し，当該尺度に対して学科や事例を考慮しながら分析，検討を行う必要があることを指摘しておきたい．

※本研究は，文部科学省の「平成25年度 未来医療研究人材養成拠点形成事業【テーマB】リサーチマインドを持った総合診療医の養成」に係る研究成果の一部である．

31

Ⅲ　地域協議会等との協働

1　平成27年度長崎市地域包括ケア推進協議会 第１回予防・生活支援部会

⑴ **日　時**　平成28年３月23日㈬　15：00～17：00
⑵ **場　所**　長崎市議会第１会議室（長崎市桜町）
⑶ **主　催**　長崎市地域包括ケアシステム推進室
⑷ **概　要**
　①「認知症初期集中支援推進事業の取り組みについて」
　②「生活支援体制整備事業における協議体の設置について」
⑸ **参加者**　潮谷　有二 センター長（副会長）

2　平成27年度第２回長崎県地域包括ケアシステム構築支援委員会

⑴ **日　時**　平成28年３月25日㈮　15：00～16：30
⑵ **場　所**　長崎県医師会館（長崎市茂里町）
⑶ **主　催**　長崎県福祉保健部長寿社会課
⑷ **概　要**
　①　事業報告「平成27年度事業実績（地域ケア会議モデル推進事業、地域包括支援センター機能強化研修会）」
　②　事業計画「平成28年度事業計画」
　③　専門部会報告
　　・「医療と介護の連携（島原市におけるアンケート調査）」
　　・「地域ケア会議ガイドブック作成」
⑸ **参加者**　潮谷　有二 センター長（委員）
　　宮野　澄男 准教授、奥村あすか 助教、吉田　麻衣 助教（オブザーバー）

3　平成27年度長崎市地域包括ケア推進協議会 第２回全体会

⑴ **日　時**　平成28年３月31日㈭　19：00～20：15
⑵ **場　所**　ホテルセントヒル長崎（長崎市筑後町）
⑶ **主　催**　長崎市地域包括ケアシステム推進室
⑷ **概　要**
　①「各部会の検討内容報告」
　②「長崎版地域包括ケアシステム構築に向けた今後の取り組みについて」
⑸ **参加者**　潮谷　有二 センター長（副会長）

4　平成28年度長崎県医療介護連携推進事業担当者等研修会

⑴ **日　時**　平成28年６月29日㈬　10：00～17：00
⑵ **場　所**　長崎大学医学部 良順会館（長崎市坂本１丁目）
⑶ **主　催**　長崎県福祉保健部長寿社会課

⑷ **概　要**

① 講義「在宅医療・介護連携推進事業について」

厚生労働省老健局老人保健課 医療・介護連携技術推進官 秋野　憲一 氏

② 講義「都道府県・保健所が行う在宅医療・介護連携の携推に向けた広域的な市町村支援
～各圏域における退院調整ルール策定を目指して～」

全国保健所長会会長 鹿児島県保健福祉部医療審議監（兼）

鹿児島県地域振興局保健福祉環境部長（兼）伊集院保健所 所長 宇田　英典 氏

③ グループワーク、発表、質疑、講評

ファシリテーター（宮野　澄男 准教授、奥村あすか 助教、吉田　麻衣 助教）

⑸ **参加者**　潮谷　有二 センター長

宮野　澄男 准教授、奥村あすか 助教、吉田　麻衣 助教

写真Ⅲ-1　研修会講義及びグループワークの様子

5　シンポジウム「長崎の創生と大学の果たす役割 ～長崎をすべての人に住みよいまちとするために～」

⑴ **日　時**　平成28年７月２日㈯　15：00～17：00

⑵ **場　所**　長崎ブリックホール国際会議場（長崎市茂里町）

⑶ **主　催**　長崎純心大学

⑷ **概　要**

① **開会あいさつ**

長崎純心大学長 片岡瑠美子 氏

② **シンポジウム**

シンポジスト

長崎市長　田上　富久 氏

京都造形芸術大学教授・元文部科学省大臣官房審議官　寺脇　　研 氏

前長崎大学長・純心女子学園理事　齋藤　　寛 氏

長崎純心大学人文学部学人間心理学科　４年　鈴田　紘子 氏

③ **意見交換等**

司会

長崎純心大学人文学部学部長補佐/医療・福祉連携センター センター長

潮谷　有二 氏

⑸ **参加者**　165名

写真Ⅲ-２　シンポジウムの様子

６　平成28年度長崎市地域包括ケア推進協議会　第１回予防・生活支援部会

⑴ **日　時**　平成28年７月20日㈬　17：00～19：00
⑵ **場　所**　長崎市議会第１会議室（長崎市桜町）
⑶ **主　催**　長崎市地域包括ケアシステム推進室
⑷ **概　要**
　①「生活支援体制整備について」
　②「認知症支援の取り組みについて」
　③「多機関型包括的支援体制構築モデル事業について」
⑸ **参加者**　潮谷　有二 センター長（副会長）

７　長崎市地域包括支援センター職員研修会

⑴ **日　時**　平成28年10月４日㈫　10：00～12：00
⑵ **場　所**　長崎市民会館アマランス研修室（長崎市魚の町）
⑶ **主　催**　長崎市地域包括ケアシステム推進室
⑷ **概　要**
　講演「地域包括ケア／地域包括支援システムについて」
　　長崎純心大学 人文学部学部長補佐／医療・福祉連携センター センター長
　　潮谷　有二 氏
⑸ **参加者**　長崎市地域包括支援センター関係職員等
　　宮野　澄男 准教授、奥村あすか 助教、吉田　麻衣 助教

写真Ⅲ-３　職員研修会の様子

8　平成28年度第１回長崎県地域包括ケアシステム構築支援委員会

⑴ **日　時**　平成28年10月７日㈮　14：30～16：30

⑵ **場　所**　長崎県医師会館（長崎市茂里町）

⑶ **主　催**　長崎県福祉保健部長寿社会課

⑷ **概　要**

①　事業説明・報告「地域包括ケアシステムの構築に向けた県の取り組み」
「各市町の地域包括ケアシステム構築に向けた取組状況」

②　意見交換「地域包括ケアシステム構築の評価基準」
「在宅医療・介護連携事業」

⑸ **参加者**　潮谷　有二 センター長（委員）

9　長崎県稲佐警察署 署員研修会

⑴ **日　時**　平成28年10月20日㈭　11：00～12：00

⑵ **場　所**　稲佐警察署　５階講堂（長崎市弁天町）

⑶ **テーマ**　「犯罪のない安全・安心なまちづくりと警察活動について」

⑷ **主　催**　稲佐警察署

⑸ **概　要**

講演「犯罪のない安全・安心なまちづくりと警察活動
地域包括ケア／地域包括支援システムの観点から」
長崎純心大学 人文学部学部長補佐／医療・福祉連携センター センター長
潮谷　有二 氏

⑹ **参加者**　稲佐警察署関係者　約40名
奥村あすか 助教、吉田　麻衣 助教

写真Ⅲ-４　署員研修会の様子

Ⅳ　地域講座等への参加

1　長崎医新伝習所

⑴　**日　時**　平成28年３月14日㈪　19：00～21：00
⑵　**場　所**　長崎リハビリテーション病院（長崎市銀屋町）
⑶　**概　要**
①　講演「地域医療構想について Vol. ３」
井上病院　理事長　井上健一郎 氏
②　講演「長崎大学病院の立ち位置についての『私見』」
長崎大学病院　総合患者支援部　准教授　廣瀬　弥幸 氏
⑷　**参加者**　潮谷　有二 センター長、宮野　澄男 准教授、吉田　麻衣 助教

写真Ⅳ-１　定例会の様子

2　平成28年度介護施設従事者等研修会①

⑴　**日　時**　平成28年６月１日㈬　19：00～20：30
⑵　**場　所**　メルカつきまち市民生活プラザホール（長崎市築町）
⑶　**主　催**　長崎市包括ケアまちんなかラウンジ
⑷　**概　要**
講演「こうして乗り切る切り抜ける認知症ケア」
長崎大学病院 認知症看護認定看護師　小渕美樹子 氏
座長 認定 NPO 法人 長崎在宅 Dr. ネット理事　奥平　定之 氏
⑸　**参加者**　奥村あすか 助教、吉田　麻衣 助教

3　第４回まちんなかサロン

⑴　**日　時**　平成28年７月28日㈭　14：00～17：00
⑵　**場　所**　メルカつきまち市民生活プラザ会議室（長崎市築町）
⑶　**主　催**　長崎市包括ケアまちんなかラウンジ
⑷　**概　要**
講演「ミミ寄りなハナし」
ハシモト耳鼻咽喉科医院　橋本　　清 氏
⑸　**参加者**　宮野　澄男 准教授、奥村あすか 助教、吉田　麻衣 助教

写真Ⅳ-２　まちんなかサロンの様子

4　第１回災害ボランティア養成講座

⑴ **日　時**　平成28年７月30日㈯　９：30～12：00
⑵ **場　所**　諫早市社会福祉会館（諫早市新道町）
⑶ **主　催**　諫早市社会福祉協議会
⑷ **概　要**
　①　講演「災害ボランティア及び災害ボランティアセンターの役割を学ぶ」
　　大分市社会福祉協議会地域福祉係 係長　松村　匡貢 氏
　②　講演「避難所の現状と避難者の声」
　　大村市社会福祉協議会障害支援班 班長
　　地域生活支援センター ラフ・ラム　吉田　勝博 氏
⑸ **参加者**　宮野　澄男 准教授、奥村あすか 助教、吉田　麻衣 助教

5　第２回災害ボランティア養成講座

⑴ **日　時**　平成28年８月28日㈰　10：00～15：00
⑵ **場　所**　諫早市社会福祉会館（諫早市新道町）
⑶ **主　催**　諫早市社会福祉協議会
⑷ **概　要**
　①　演習「あなたはどっち？災害対応 Yes・No ゲーム」
　　長崎県社会福祉協議会 地域福祉課　山口しのぶ 氏
　②　講義及びグループワーク
　　「災害時のボランティア活動の実際と災害ボランティアセンターの運営」
　　南島原市社会福祉協議会 布津支所 福祉活動専門員　井上　伸也 氏
⑸ **参加者**　宮野　澄男 准教授、奥村あすか 助教

写真Ⅳ-３　第１回・第２回災害ボランティア養成講座の様子

6　第６回まちんなかサロン（認知症サポーター養成講座）

⑴ **日　時**　平成28年９月27日㈫　14：00～16：00
⑵ **場　所**　メルカつきまち市民生活プラザ会議室（長崎市築町）
⑶ **主　催**　長崎市包括ケアまちんなかラウンジ
⑷ **概　要**
　①　講義「認知症を理解する」
　　長崎市高齢者すこやか支援課
　②　寸劇「認知症の方への接し方について」
　　長崎市桜馬場地域包括支援センター

⑸ **参加者**　宮野　澄男 准教授、奥村あすか 助教、吉田　麻衣 助教

写真Ⅳ-４　認知症サポーター養成講座の様子

７　第２回ケアラーサポーター育成研修会

⑴ **日　時**　平成28年９月28日㈬　18：00～20：00
⑵ **場　所**　長崎大学総合教育研究棟（長崎市文教町）
⑶ **テーマ**　認知症について考える
⑷ **主　催**　長崎大学ダイバーシティ推進センター
⑸ **概　要**
　①　講義「認知症と向き合う」
　　長崎大学大学院　医歯薬学総合研究科 教授　中根　秀之 氏
　②　講演「私が祖父母の主介護者でした」
　　認知症の人と家族の会 長崎県支部 長崎地区副代表　川﨑ひろみ 氏
⑹ **参加者**　宮野　澄男 准教授、奥村あすか 助教、吉田　麻衣 助教、森　　万記 事務

８　長崎県民フォーラム「みんなで支えあおう！それぞれの在宅ケア ～在宅がん医療・緩和ケアの推進を目指して～」

⑴ **日　時**　平成28年10月22日㈯　14：00～16：00
⑵ **場　所**　長崎県立大学シーボルト校大講義室（長与町まなび野）
⑶ **主　催**　在宅医療・福祉コンソーシアム長崎
⑷ **概　要**
　①　事業紹介「在宅医療・福祉コンソーシアム長崎の取組」
　　長崎県立大学看護栄養学部特任准教授　吉原　律子 氏
　②　対談「在宅ケアと死生観」
　　NPO法人ウエスレヤンコミュニティカレッジ理事長　内村　公義 氏
　　六郷　美和 氏（在宅医療体験者）
⑸ **参加者**　宮野　澄男 准教授

９　第１回在宅医療推進多職種連携研修会

⑴ **日　時**　平成28年10月24日㈪　19：00～21：00
⑵ **場　所**　長崎市医師会館７階講堂（長崎市栄町）
⑶ **テーマ**　住み慣れたまちで、最期まで過ごすために
⑷ **主　催**　長崎市包括ケアまちんなかラウンジ

⑸ **概　要**

① 講演「今なぜ在宅医療を広げることが必要か」
長崎市医師会 理事　土屋　知洋 氏

② 講演「在宅での『あじさいネット』の利用」
長崎在宅 Dr. ネット 理事　奥平　定之 氏

③ 講演「ケアマネの視点から」
ケアプランセンターゆめライフ 管理者　松尾　史江 氏

④ 講演「訪問看護師の視点から」
長崎市医師会訪問看護事業所 所長　浅野　文乃 氏
座長　長崎市医師会 理事　松﨑　純宏 氏

⑹ **参加者**　宮野　澄男 准教授

10　第１回医療施設従事者等研修会

⑴ **日　時**　平成28年10月25日㈫　19：00～20：40

⑵ **場　所**　長崎市医師会館７階講堂（長崎市栄町）

⑶ **主　催**　長崎市包括ケアまちんなかラウンジ

⑷ **概　要**

① 講演「介護保険制度について」
長崎市福祉部介護保険課 課長　山下　真吾 氏

② 講演「介護の現場から」
長崎市介護支援専門員連絡協議会 会長　大町　由里 氏
座長　長崎市医師会 理事　松﨑　純宏 氏

⑸ **参加者**　宮野　澄男 准教授

11　認知症の人と家族への援助をすすめる第32回全国研究集会 in 長崎

⑴ **日　時**　平成28年11月６日㈰　９：30～16：00

⑵ **場　所**　長崎ブリックホール（長崎市茂里町）

⑶ **主　催**　公益社団法人 認知症の人と家族の会（担当：長崎県支部）

⑷ **概　要**

① 講演「地域包括ケアシステムが育てる“寄り添う医師のこころ”」
長崎大学地域包括ケア教育センター センター長・教授　永田　康浩 氏

② 特別発表「認知症の歌」～若年性認知症の本人の声～　福田　人志 氏（長崎県）

③ 事例発表
「『つないで、ひろげる』小学校における認知症学習
～ハンドブックの作成と啓発活動～」 山口　孝治 氏（宮崎県）
「認知症の人と家族に焦点をあてた認知症カフェ『ようこそ』の取り組み」
髙橋　　望氏（岡山県）
「いつまでも私らしく　生きられる西京区に」 鎌田　松代 氏（京都府）

④　シンポジウム「地域の中で、認知症の人と家族を支えるためには～介護家族の体験をとおして考える～」

シンポジスト

厚生労働省老健局認知症施策推進室 室長　宮腰　奏子 氏

医療法人昌生会出口病院地域型認知症疾患医療センター センター長

出口　　之 氏

医療法人宮本外科 理事長（認知症の人と家族の会長崎県支部顧問） 宮本　峻光 氏

長崎県北松浦郡佐々町長寿社会課 課長補佐　江田　佳子 氏

長崎市緑が丘地域包括支援センター センター長　深堀　　優 氏

長崎県南松浦郡新上五島町地域包括支援センター 管理者　林田　京子 氏

公益社団法人認知症の人と家族の会 理事　鈴木　森夫 氏

課題提供～認知症の姑を介護して　認知症のはじまりから看取りまで

介護体験者（認知症の人と家族の会長崎県支部副代表） 渡部三津子 氏

コーディネーター

公益社団法人認知症の人と家族の会長崎県支部 世話人　宮川　由香 氏

⑸ **参加者**　奥村あすか 助教、吉田　麻衣 助教、森　　万記 事務

写真Ⅳ-５　第32回全国研究集会 in 長崎

12　長崎フロリデーション協会15周年記念講演会

⑴ **日　時**　平成28年11月27日(日)　12：00～17：30

⑵ **場　所**　長崎原爆資料館ホール（長崎市平野町）

⑶ **主　催**　長崎フロリデーション協会15周年記念講演会実行委員会

⑷ **概　要**

①　基調講演「健康格差のない社会を目指して～Look at upstream！（上流に目を向けよう）～」

ハーバード大学公衆衛生大学院 社会行動科学学部 教授　イチロー・カワチ 氏

②　シンポジウム「なぜフロリデーションが必要か～フロリデーションの意義を考える～」

「日本における口腔の健康格差」

東北大学大学院歯学研究科 国際歯科保健学分野 准教授　相田　　潤 氏

「歯科医院等を基盤とした『ポピュレーションストラテジー』と

『ハイリスクストラテジー』の社会実験的研究から学んだこと」

長崎大学病院地域医療連携センター センター長　川崎　浩二 氏

「我が国の歯科公衆衛生の現状」

厚生労働省 医政局歯科保健課 歯科保健課長　田口　円裕 氏）

⑸ **参加者**　宮野　澄男 准教授、奥村あすか 助教、吉田　麻衣 助教

13　平成28年度第１回在宅医療推進連携講座

⑴ **日　時**　平成28年11月30日㈬　19：00～21：00
⑵ **場　所**　長崎市医師会館講堂（長崎市栄町）
⑶ **主　催**　長崎市包括ケアまちんなかラウンジ
⑷ **概　要**
　① 開会挨拶　　長崎市医師会 副会長　藤井　　卓 氏
　② 発表
　「当院における在宅医療の実際」
　　医療法人 阿保外科医院 副院長　阿保　貴章 氏
　「在宅医療の実際―当クリニックの、導入から現況まで―」
　　藤瀬クリニック 院長　藤瀬　直樹 氏
　「在宅医療における診療報酬」
　　医療法人 安中外科・脳神経外科医院 院長　安中　正和 氏
　③ 質疑応答
　　座長　長崎市医師会 理事　土屋　知洋 氏
⑸ **参加者**　宮野　澄男 准教授

14　まちんなかラウンジ在宅医療講座

⑴ **日　時**　平成28年12月３日㈯　14：00～16：00
⑵ **場　所**　メルカつきまち市民生活プラザ会議室（長崎市築町）
⑶ **主　催**　長崎市包括ケアまちんなかラウンジ
⑷ **概　要**
　① 長崎市包括ケアまちんなかラウンジ業務紹介
　　長崎市包括ケアまちんなかラウンジ　原野　謙治 所長
　② 発表
　「在宅医療―新米在宅医の２年間―」
　　藤瀬クリニック 院長　藤瀬　直樹 氏
⑸ **参加者**　宮野　澄男 准教授

Ⅴ　地域包括ケア論・共修授業

1　地域包括ケア論

⑴　目　的

超高齢社会を迎える中、医療と介護を一体的に提供する地域包括ケアシステムの構築が喫緊の課題となっている。また、地域包括ケアシステムの地域における実践の視点から、近年多職種連携の必要性が増している。このため、多職種で連携ができる資質を学部教育の中で養うことは、今後、地域包括ケアシステムを各地域で構築する上で肝要と考える。

こうした状況を踏まえて、長崎純心大学では、平成27年度から地域包括ケア論を選択科目として開講し、平成28年度は２年目を迎えている。この間、地域包括ケア論のカリキュラム・ポリシーに変更はなく、社会背景や社会保障制度など地域包括ケアシステムをマクロ的にとらえる視点と地域包括支援センターの役割や課題など地域包括ケアシステムをミクロ的、メゾ的にとらえる視点からシラバスを構成している。ただし、長崎県の地域包括ケアシステムの展開状況も踏まえ、内容は一部変更している。

なお、地域包括ケア論では、医療や福祉の現場で活躍している専門職を講師に依頼し、オムニバス形式をとることによってより実践的な科目になるよう配慮している点に変更はない。

さらに、地域包括ケアシステムを構築する上で重要な要素として考えられる多職種連携についても地域包括ケア論の中心的コンセプトとし、全15講のうち５講分を長崎大学医学部との共修授業とすることで、長崎大学医学部生とのグループワークを通して多職種連携に繋がる資質を実践的に学ぶことができるようにしている。

⑵　一般目標（GIO）

地域包括ケアの現状や諸課題を通して、地域包括ケアシステムに関する基礎的・基本的な内容を理解するとともに、長崎大学医学部との共修を通して、地域包括ケアシステム構築の基盤ともなる将来の多職種連携に繋がる資質を実践的に養う。

⑶　行動目標（SBOs）

行動目標	内　　容
SBO01	地域包括ケアシステムを取り巻く社会的背景や現状、諸課題を理解することができる。
SBO02	地域包括ケアシステムの基本理念を理解することができる。
SBO03	地域包括ケアシステムを構成する基本的な要素について理解することができる。
SBO04	関係団体との連携を深め、医療・介護・予防を一体的に提供することにより、住み慣れた地域での生活を支える仕組みが構築できることを理解することができる。
SBO05	地域包括ケアシステムの構築に関心をもち、今後の学習に生かそうとする意欲を持つことができる。
SBO06	急性期病院における医療ソーシャルワーカー（社会福祉士）の役割と多職種連携の実際を理解することができる。

行動目標	内　　容
SBO07	回復期病院における医療ソーシャルワーカー（社会福祉士）の役割と多職種連携の実際を理解することができる。
SBO08	地域包括ケアの推進における医療と福祉との多職種連携の意義について理解することができる。
SBO09	地域包括ケアシステムにおける地域包括支援センターの役割や業務内容を理解することができる。
SBO10	地域包括支援センターによる関係機関等との連携など地域のネットワークづくりの実際を理解することができる。
SBO11	地域ケア会議の設置及び運営並びに諸課題について実践事例をもとに理解することができる。
SBO12	地域ケア会議が個別ケースに留まることなく、地域課題を関係者と共有し、課題解決に向けて新たな社会資源の開発、さらには政策形成化など、ボトムアップする機能を有していることを理解することができる。
SBO13	地域ケア会議における地域の多職種や住民等、関係者間の連携や協働の重要性について理解することができる。
SBO14	地域包括ケアにおける地域ケア会議の役割について理解することができる。
SBO15	共修授業を通して、見方や考え方の異なる他の大学生と協働して課題解決に取り組むなど、多職種連携の基盤となる実践的な態度を養うことができる。

⑷　授業内容

	日　　時	内　　容
1	10月１日㈯ （９：00～10：30）	地域包括ケア論とは 長崎純心大学医療・福祉連携センター センター長　潮谷　有二
2	10月１日㈯ （10：40～12：10）	地域包括ケアシステムの現状と課題(1) ～地域包括ケアシステムを支える地域包括支援センターの役割～ 長崎市市民局福祉部福祉総務課 保健師（前福祉部理事） 吉峯　悦子
3	10月１日㈯ （12：55～14：25）	地域包括ケアシステムの現状と課題(2) ～地域包括支援センター全国調査結果の分析・考察～ 長崎純心大学医療・福祉連携センター センター長　潮谷　有二
4	10月15日㈯ （10：40～12：10）	地域包括ケアシステムの現状と課題(3) ～急性期退院カンファレンスと多職種連携～ 長崎みなとメディカルセンター市民病院 医療ソーシャルワーカー（社会福祉士）宮川　江利
5	10月15日㈯ （12：55～14：25）	地域包括ケアシステムの現状と課題(4) ～回復期退院カンファレンスと多職種連携～ 社会医療法人春回会 長崎北病院 医療ソーシャルワーカー（社会福祉士）井上加奈子

	日　　時	内　　容
6	10月19日㈬ (14：40～16：10)	オリエンテーション及び地域包括ケア論特別講義 長崎純心大学医療・福祉連携センター センター長　潮谷　有二
7	10月26日㈬ (13：00～14：30)	講義及びワークショップ①（事例検討）～ディスカッション～
8	10月26日㈬ (14：40～16：10)	ワークショップ②（事例検討）～発表準備（グループ別）～
9	11月２日㈬ (13：00～14：30)	ワークショップ③（医療・保健・福祉の連携） ～プレゼンテーション（各教室別）～
10	11月２日㈬ (14：40～16：10)	ワークショップ④（医療・保健・福祉の連携） ～プレゼンテーション（代表グループによる）～
11	11月19日㈯ (９：00～10：30)	地域ケア会議の開催(1) ～地域課題の共有、社会資源開発、政策形成～ 佐々町地域包括支援センター 課長補佐　江田　佳子
12	11月19日㈯ (10：40～12：10)	地域ケア会議の開催(2) ～多種な職種や機関等との連携協働～ 島原市地域包括支援センター 所長　辻　　敏子
13	11月19日㈯ (14：35～16：05)	地域包括ケアシステムの現状と課題(5) ～在宅医療・介護連携の推進～ 大村市福祉保健部長寿介護課 課長補佐　前川　靖彦
14	11月26日㈯ (10：40～12：10)	医療と介護・福祉サービスにおける多職種連携 ～地域・チームで高齢者等を支える仕組み～ 長崎大学地域包括ケア教育センター センター長　永田　康浩
15	２月４日㈯ (10：40～12：20)	地域包括ケア論総括 ～ビジュアル教材視聴及び総括評価～ 長崎純心大学医療・福祉連携センター センター長　潮谷　有二

写真Ⅴ-１　地域包括ケア論の様子

⑸　授業評価

①　毎時の授業評価

　地域包括ケア論においては、毎回授業後、受講生に対して図Ⅴ−１に示すような授業評価票を実施し、項目（①〜⑤）について４選択肢の自己評価を基に学生たちの意識を調査した。本報告書では全15講の授業のうち第１講における授業評価票の結果（図Ⅴ−１）と学生の感想の一部を例示する。

【地域包括ケア論（第１講)】

日時：平成28年10月１日㈯　９：00〜10：30

場所：長崎純心大学地域連携センター

概要：地域包括ケア論

・地域包括ケア論の位置づけ

・上智大学栃本一三郎教授の論文「地域包括ケアは社会実験か未来の社会についての解釈論か」の紹介

・福祉専門職者として、医療・介護・社会保障全体の知識を有し、社会保険と社会扶助を一体的に見渡せることが求められること

「地域包括ケア論」授業評価票

長崎純心大学医療・福祉連携センター

授業日	平成２８年（10）月（1）日（土）　第（1）時限	授業者	潮谷先生
授業評価項目	評価尺度	1　大変そう思う　②そう思う　3　あまり思わない　4　全く思わない	
①　今日の私は、授業に対して意欲的に取り組んだと思う。 （具体的に記入）ノートをとりながら、わからない部分については後で調べられるようにしるしをつけた。やりっぱなしにせず、その後も学びを深められるように努めた。			1 ② 3 4
②　今日の私は、本時の学習課題を理解して授業に臨んだと思う。 （具体的に記入）地域包括ケア論ではどのようなことを学べて、この授業がいかに先駆的であるかは理解できたと思う。			1 ② 3 4
③　本日の授業でわからないところがあれば、私は、自分で調べたり、先生や友だちに質問したりするつもりでいる。 （具体的に記入）コミュニティケアについてもう少し学んでおくべきだと思った。ソーシャルインクルージョンについて			1 ② 3 4
④　今日の私は、授業で学習した内容はだいたい理解したと思う。 （具体的に記入）地域包括ケアについて理解できた部分もあったが、自分の知識が足らずわからないところも多々あった。			1 ② 3 4
⑤　今日の私は、授業で「わかった」「できた」という達成感をもつことができたと思う。 （具体的に記入）地域包括ケアは専門職の他職種連携だけではなく、住民・本人・家族も主体となり連携し地域の中にある困難な問題を解決していくことであるとわかった。			① 2 3 4
※　本日の授業の感想を記入してください。 地域包括支援学科に来るからなのか、地域包括ケアというものがどういうものかしかわからなかったので、今回の授業で理解できよかった。また、地域包括支援センターが厚生労働省の地域包括ケアシステムの確立で置かれた観点から出来たことなどのセンターの歴史について初めて学ぶことができたのでよかった。			
学科　現代福祉学科　学年　3	学生番号　20140D	氏名	

図Ⅴ−１　毎時の授業評価票（第１講）

【学生の感想（一部)】

○　生活の主体者である地域住民と連携し、高齢者だけではなく生活が困難な人たちを支えていく必要があるということを学ぶことが出来た。(現代福祉学科３年)

○　医療保険、介護保険など社会保障を一体的に見渡す力が必要であると学んだ。(現代福祉学科３年)

○　どのように社会福祉士が専門職として地域を巻き込んでいくのか、どのような働きかけが必要なのか、社会にどのように伝えていくのか、これからの授業や共修授業を通して学んでいきたい。（現代福祉学科３年）

次に、評価票を項目別に集計、グラフ化したところ図Ⅴ－２のとおりであった。

評価項目①「授業に対して意欲的に取り組んだと思う。」について、「大変そう思う」が６人、「そう思う」が22人で、「あまり思わない」が８人、「全く思わない」は０人であった。

評価項目②「本時の学習課題を理解して授業に臨んだと思う。」について、「大変そう思う」が３人、「そう思う」23人で、「あまり思わない」10人、「全く思わない」が０人であった。

評価項目③「本日の授業でわからないところがあれば、自分で調べたり、先生や友だちに質問したりするつもりでいる。」については、「大変そう思う」が６人、「そう思う」が25人で、「あまり思わない」５人、「全く思わない」は０人であった。

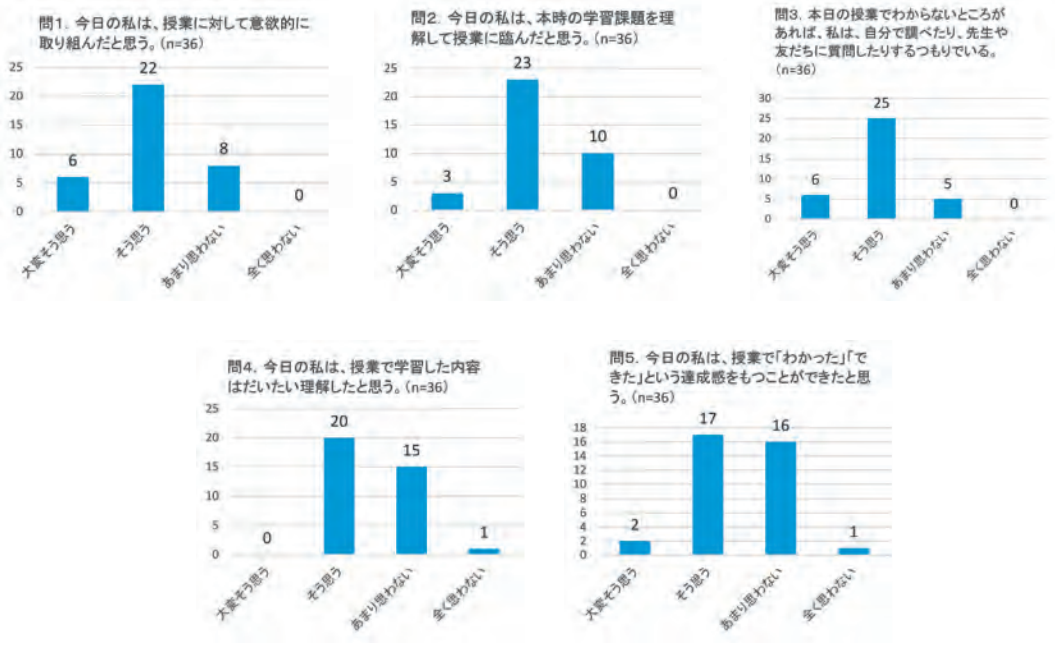
評価項目④「授業で学習した内容はだいたい理解したと思う。」について、「大変そう思う」が０人、「そう思う」が20人で、「あまり思わない」が15人、「全く思わない」が１人であった。

評価項目⑤「授業で『わかった』『できた』という達成感をもつことができたと思う。」については、「大変そう思う」が２人、「そう思う」が17人で、「あまり思わない」が16人、「全く思わない」は１人であった。

以上のことから、学生たちは地域包括ケア論に対して、一定の課題意識や学習意欲を持って臨み、学習内容の理解と達成感を有していたことがいえよう。

なお、学生たちの学びの傾向は、第１講以外の講義でも同様の結果であったことを申し添えておく。

また、これらの授業評価の結果は、必要に応じて各指導者へ還元し、今後の指導上の参考資料としていただいている。



図Ⅴ－２　評価結果

2　共修授業

⑴　一般目標（GIO）

①　長崎大学医学部

学習背景の異なる大学及び学科とが医療・福祉系という枠を超えて共修の学びの場を設けることを通して、将来の多職種連携に繋がる医療と保健と福祉の視点を養う。

②　長崎純心大学

学習背景の異なる大学及び学科とが医療系、福祉系の枠を超えて共修することを通して、将来の医療職と福祉職との多職種連携に繋がる資質を養う。

⑵　行動目標（SBOs）（長崎純心大学）

SBO01	自己の目指す専門職の仕事内容や役割を、他の大学・学科生に説明できる。
SBO02	他の大学・学科生が目指している専門職の仕事内容や役割を理解できる。
SBO03	他の大学・学科生と同じ視点を有していることに気づくことができる。
SBO04	他の大学・学科生とは異なった視点を有していることに気づくことができる。
SBO05	自分の考えを他の大学・学科生に伝えることができる。
SBO06	自分の専門分野に対する興味・モチベーションを向上させることができる。
SBO07	他の大学・学科生が話した内容について共感することができる。
SBO08	見方や考え方の違う他の大学・学科生と協働して、課題解決に取り組む重要性を実感できる。
SBO09	グループワークを通して、掲示事例の目標となる姿（本人がどうなりたいかまた本人にどうなって欲しいか）を列挙し、その実現に向けての具体的支援方策を提案できる。
SBO10	地域住民が地域で生活するための医療のしくみを理解することができる。
SBO11	地域住民が地域で生活するための福祉のしくみを理解することができる。
SBO12	医療職と福祉職とが連携することの意義について理解することができる。

⑶　共修授業ワーキンググループ

①　第１回共修授業ワーキンググループ

・日　時　平成28年５月12日㈭　15：00～
・場　所　長崎大学医学部 小会議室（基礎研究棟２階）
・議　題　昨年度の共修授業について
　　今年度の共修授業内容について（日時、場所、受講者数等）
　　今後のスケジュールについて

② **第２回共修授業ワーキンググループ**

・日　時　平成28年７月１日㈮　15：30～
・場　所　長崎大学医学部 小会議室
・議　題　症例１、２を同一家庭にできないか？
　　Work について（内容・時間配分・発表方法）
　　事例１、２の担当者の決定
　　授業の効果のリサーチについて

③ **第３回共修授業ワーキンググループ**

・日　時　平成28年７月26日㈫　11：00～
・場　所　長崎大学医学部 良順会館 専斎ホール
・議　題　事例の確定
　　Work について
　　発表について
　　事例１、２の担当者の決定
　　授業の効果のリサーチについて

④ **第４回共修授業ワーキンググループ**

・日　時　平成28年９月５日㈪　16：00～
・場　所　長崎大学医学部 良順会館 専斎ホール
・議　題　事例変更点の確認
　　Work 内容の確定
　　各教室のファシリテーター及び責任者の決定
　　事例１、２の担当者の決定
　　授業の効果のリサーチについて

⑤ **第５回共修授業ワーキンググループ**

・日　時　平成28年10月13日㈭　13：00～
・場　所　長崎大学医学部 良順会館 専斎ホール
・議　題　各教室の担当者
　　到達目標について
　　授業スケジュールについて
　　アイスブレイクについて
　　ピア評価について
　　事前課題について
　　事例のまとめについて

⑥ **第６回共修授業ワーキンググループ**

・日　時　平成28年11月21日㈪　15：30～
・場　所　長崎大学医学部 ポンペ会館
・議　題　共修授業を振り返って（進行・運営、事例、評価）
　　来年度に向けて

⑷ 共修授業教材（事例）

共修授業で使用する事例については、長崎純心大学医療・福祉連携センターに設置されている事業企画委員会での地域包括支援センターの社会福祉士、医療現場の医療ソーシャルワーカー（社会福祉士）による検討はもとより、事例の妥当性、信頼性を高めるため、長崎大学医学部教職員が医療の視点から、長崎純心大学医療・福祉連携センター教員は福祉の視点から協議を深めた。最終的には、共修授業では以下の２つの事例を教材として使用することになった。

① 事例１（慢性期）81歳　男性（認知症・２型糖尿病）

81歳のＢさんは80歳の妻と二人暮らし。60歳でＣ高校を定年退職後に２型糖尿病と診断され内服加療が開始された。元々食事・運動療法も几帳面にされており、血糖コントロールは良好であった。しかし、平成26年（79歳）頃から物忘れが目立つようになり、意欲が低下、怒りっぽくなり、周囲との付き合いも今ではほとんどなくなっている。

平成27年からは内服忘れが目立って来ており、徐々に血糖コントロールが不良となった。

平成28年に入ってからは、散歩コースであった商店街を散歩中に道に迷い数回警察に保護されている。各種検査よりアルツハイマー型認知症と診断され、抗認知症薬が最近開始された。現在妻がＢさんに内服を促すと、『もう飲んだ』と怒ってしまい内服はできていない。妻は１人で介護を行っており疲れた様子である。本人および妻も可能な限り２人での生活を継続したいと考えている。担当医は、今後のＢさんの生活について地域包括支援センターへ連絡、相談した。

② 事例２（緩和・終末期）41歳　女性

Ｃさんは83歳の母親と同居しており、未婚で子どもはいない。11年前に乳癌の手術を受け、７年前に乳癌の局所再発、３年前に肺・縦隔リンパ節転移、２年前に脳転移が出現し、薬物・放射線治療を続けていたが徐々に増悪し、抗癌剤での治療は奏効しなくなった。今後は抗癌剤の治療は中止し、治療の主体を緩和医療とする方針になった。Ｃさんは１か月前まで病院の栄養士として勤務していたが、もの忘れや倦怠感がひどくなり、頭痛・めまいの出現頻度が増したため、仕事を退職した。退職後、ベッド上で過ごす事が多く、家事全般は母親に頼っている。現在のＣさんの意向は、自宅で最期を迎えたいと思っているが、漠然とした不安がある。

母親は現在要支援１の認定を受けており、週１回のデイサービスに行くことを楽しみにしているが、家事とＣさんの介護のため行けなくなった。また、高齢のため、今後の介護の負担をとても心配しており、Ｃさんにはホスピスへ入院してもらうことを希望している。

担当医は今後の事について地域医療連携室へ相談し、カンファレンスを開くことにした。

⑸　授業内容

	日　　時	内　　容
1	10月19日㈬ （14：40～16：00）	• 特別講義「『地域包括ケアシステム』について 長崎純心大学医療・福祉連携センター センター長　潮谷　有二 • 共修授業について 長崎大学地域包括ケア教育センター センター長　永田　康浩
2	10月26日㈬ （13：30～16：10）	• 共修授業について説明 • 事前アンケート • 自己紹介と役割分担 • アイスブレイク • ワークショップ①（事例紹介） 【Work１】 ①　事例から、患者・家族の意向を抽出しよう ②　患者の目標となる姿を考えよう （本人にどうなってほしいか） • 発表①　【Work１】の内容を発表 • ワークショップ②（事例検討） 【Work２】 強み・弱み・課題を抽出しカテゴリーに分けよう 【Work３】 課題に対する目標を立てよう • 発表②　【Work２】、【Work３】の内容を発表 • アンケート評価
3	11月２日㈬ （13：30～16：10）	• アイスブレイク • 先週の授業の振り返り • ワークショップ③ 【Work４】 【Work１】①で考えた「目標となる姿」を達成するための社会資源、職種およびその役割をイラスト・図を用いてまとめよう • 発表③　【Work４】の内容を発表 • まとめ 各教室で全体発表を行う代表グループを選出 • 事例紹介 • 発表④　代表グループによる全体発表 • 総括 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 教授　井口　　茂 長崎純心大学医療・福祉連携センター センター長　潮谷　有二 長崎大学地域包括ケア教育センター センター長　永田　康浩 • アンケート・レポート

(6) 授業担当教員

	教　室	班	授業担当教員		
			長崎大学医学部		長崎純心大学
			医　学　科	保 健 学 科	
事例1	良順会館	1～11班	◎西野　文子 助教	平瀬　達哉 助教	吉田　麻衣 助教 嶺　　尚江 （社会福祉士）
	グローバルヘルス総合研究棟	12～22班	松坂　雄亮 助教 陣野紀代美 （居宅介護支援事業所管理者）	磯　ふみ子 助教	◎宮野　澄男 准教授 井上加奈子 （社会福祉士）
事例2	ポンペ会館	23～34班	◎久芳さやか助教	井口　　茂 教授	奥村あすか 助教 永富　幸美 （社会福祉士）
	セミナー室	35～42班	永田　康浩 教授 濵口　由子 助教	◎大町いづみ 准教授	宮川　江利 （社会福祉士）

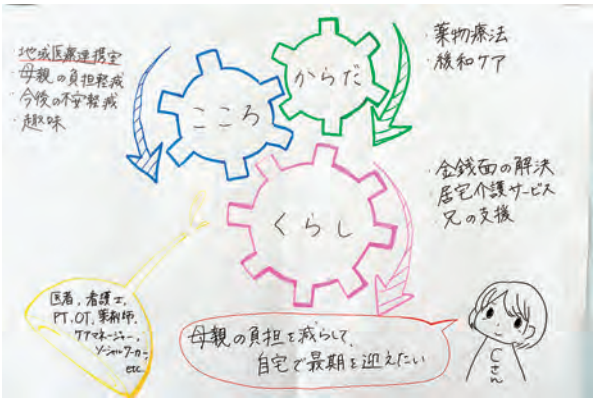
（敬称略、◎は教室責任者）

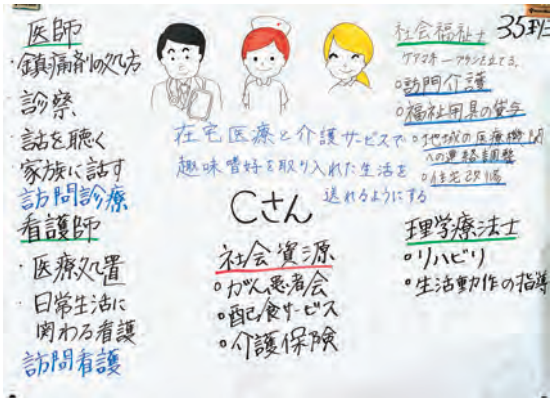
写真Ⅴ-2　共修授業の様子

(7)　代表グループによる発表

①　事例１

②　事例２





Ⅵ　リサーチマインドに繋がる主体的な学びの展開

1　平成27年度上五島地区離島医療教育研究会

⑴ **日　時**　平成28年３月10日㈭　17：30～19：30

⑵ **場　所**　長崎県上五島病院（長崎県新上五島町）

⑶ **概　要**

①　報告「実習記録およびアンケート結果」
　　長崎大学大学院 地域医療学分野 助教　小屋松　淳 氏

②　講演「教育効果からみた効果的な地域医療実習プログラムの提案」
　　神戸大学大学院 地域医療教育学部門 教授　岡山　雅伸 氏

③　講演「上五島病院における地域医療実習の現況」
　　長崎県上五島病院 病院長　八坂　貴宏 氏

⑷ **参加者**　潮谷　有二 センター長、奥村あすか 助教
　　現代福祉学科４年　石原　理子、大関 あい、宮原　由佳、芳田　彩夏

写真Ⅵ-１　上五島地区離島医療教育研究会での学び

2　五島市地域包括支援センター訪問

⑴ **日　時**　平成28年３月15日㈫　14：00～16：00

⑵ **場　所**　五島市役所会議室（五島市福江町）

⑶ **内　容**　五島市　新しい総合事業、地域ケア会議

⑷ **対応者**　五島市長寿介護課 川端 久章 課長、米山 幸助 課長補佐
　　長寿支援班係 山田　真由 社会福祉士

⑸ **参加者**　宮野　澄男 准教授、吉田　麻衣 助教
　　現代福祉学科３年　市川加奈子、梅本　由衣、北村　春菜、桑原　　薫、
　　澤田　寿美、福田　史織、横山　千夏
　　現代福祉学科２年　尾﨑　美杜、川口　裕貴、重富　美希、納所　芳児、
　　福田友里香、松尾　美佳、松坂　梨奈、森谷　志帆、
　　山口　晃平

写真Ⅵ-２　五島市地域包括支援センター訪問の様子

⑹ 学生感想

五島市地域包括支援センターを訪問し、五島市における介護保険制度について五島市の高齢者の状況や社会背景から学ぶことができた。五島市の高齢化の状況は全国・長崎県と比較すると高い認知状況であり認知症高齢者や高齢者独居世帯の問題を深刻に受け止め対策を考えていく必要性を感じ、地域包括支援センターの重要性について改めて考える機会となった。また、五島市地域包括支援センターでの取り組みについて教えていただき、それぞれの専門職だけでは限界があり医療と福祉が連携し、住民と一体となって支援していくことが求められることを再認識した。今回初めて五島市を訪問し子どもの姿より高齢者を見かけることが多く、五島市の地域包括支援センターの体制作りのように地域の実情に合った支援を考えていくこと、これまでにない支援体制や取り組みを生み出していくことが必要であると感じた。（現代福祉学科３年）

なお、参加した学生の感想は、長崎純心大学医療・福祉連携センターホームページに掲載している。（http://www.n-junshin.ac.jp/cmw/news/）

３　平成27年度下五島地区離島医療教育研究会

⑴ **日　時**　平成28年３月15日㈫　18：00～20：00

⑵ **場　所**　長崎県五島中央病院（五島市吉久木町）

⑶ **概　要**

① 報告「実習記録及びアンケート結果」
長崎大学大学院 地域医療学分野 助教　小屋松　淳 氏

② 特別講演「離島医師を目指し学生のうちから離島実習を重ねて産婦人科医になった人間からみた離島での学生実習の効果」
長崎県対馬病院産婦人科 医師　山内　祐樹 氏

⑷ **参加者**　宮野　澄男 准教授、吉田　麻衣 助教
現代福祉学科３年　市川加奈子、梅本　由衣、北村　春菜、桑原　　薫、澤田　寿美、福田　史織、横山　千夏
現代福祉学科２年　尾﨑　美杜、川口　裕貴、重富　美希、納所　芳児、福田友里香、松尾　美佳、松坂　梨奈、森谷　志帆、山口　晃平

写真Ⅵ-３　下五島地区離島医療教育研究会での学び

⑸　学生感想

離島医療研究会で実際に出席し、お話を聞くことができたのはとても貴重な経験となりました。離島における地域医療を繋げていくことは容易なものではなく、試行錯誤されていることがわかりました。また、産婦人科の山内先生のお話を聞き、今まで福祉と産婦人科を関連して考えたことがなく、どのような関わりができるのか、どんな支援が可能なのかを考える機会となりました。五島に訪問したのは２度めでしたがまた新しい部分を知ることができ、とても有意義な時間となりました。今回出た疑問や課題になどに取り組み、解決していけるようにしていきたいと思います。（現代福祉学科２年）

なお、参加した学生の感想は、長崎純心大学医療・福祉連携センターホームページに掲載している。（http://www.n-junshin.ac.jp/cmw/news/）

4　医療と福祉の専門職を目指す学生たちのフォーラム

⑴ **日　時**　平成28年３月24日㈭　14：00～16：40

⑵ **場　所**　長崎大学医学部 良順会館（長崎市坂本１丁目）

⑶ **主　催**　長崎純心大学医療・福祉連携センター

⑷ **概　要**

① **挨拶・趣旨説明**

長崎純心大学医療・福祉連携センター長・教授　潮谷　有二 氏

② **研究発表**

「医療と福祉の専門職を目指す学生たちのグループ形成過程に関する一研究―『長崎多職種連携・たまごの会』に焦点を当てて」

長崎純心大学現代福祉学科４年　中尾よしの（代理：潮谷　有二 氏）

③ **シンポジウム**

・「長崎多職種連携たまごの会～活動の紹介・報告～」

長崎純心大学現代福祉学科３年　梅本　由衣

・「長崎多職種連携たまごの会の今後のビジョン～他大学の学生との関わりから見えてきたもの～」

長崎純心大学現代福祉学科３年　横山　千夏

・「たまごの会を通じて見えたもの・見えるもの」

長崎大学医学部医学科３年　荒倉　由佳

・「たまごの会設立から現在に至るまで～私たち学生に必要なものとは」

長崎大学医学部医学科２年　内田　直子

座長　長崎大学大学院 地域包括ケア教育センター長・教授　永田　康浩 氏

④ **指導助言**

長崎大学大学院地域医療学分野 教授　前田　隆浩 氏

⑸ **参加者**　35名

写真Ⅵ-４　学生たちのフォーラムでの発表

長崎多職種連携　たまごの会
～活動の紹介・報告～

長崎純心大学
現代福祉学科3年　梅本由衣

自己紹介

- 長崎純心大学　現代福祉学科　児童福祉コース　3年
- たまごの会メンバー（入部して6カ月）

活動内容

主な活動

- 定期ミーティング（月1回）
- 学生主催の勉強会
- 医療系・福祉系施設見学

定期ミーティング

- アイスブレイク
- フリーディスカッション
- 活動報告・情報共有
- 各グループの近況報告

アイスブレイク

ミーティングを始める前に、少人数のグループに分かれて、簡単なゲームを

【目的】

メンバーの雰囲気を和ませ、リラックスしてミーティングに参加で

新メンバーが加入する時は、特に大切にしている！！！

フリーディスカッション

多職種連携という視点は忘れず、
それぞれの分野の視点から意見を出し合う。

- 最近のニュース

活動報告・情報共有

- 研修会やシンポジウムなど参加した際には、必ず活動報告を行い、情報を共有する。

【目的】

- 参加した研修やシンポジウムについて参加していないメンバーにプレゼンすることで、

相手に伝える力 ＋ フィードバック → モチベーションの向上

各グループの近況報告

- テーマごとにグループを分け、テーマについて調べ、学生主催の勉強会を開催することを目標に活動している。

出生前診断　残薬　NST

- 近況報告を行うことで、グループのメンバー、たまごの会のメンバー全員で進行状況を確認することができる。

学生主催の勉強会

- 「出生前診断を知ってる会？～さまざまな生命のあり方を考えよう～」
（平成28年1月、4月開催）
- 「～残薬について知ろう！～★多職種(みんな)で節薬、残薬をなくそう！★」
（平成28年3月26日開催予定）
- NST(Nutrition Support Team)＝栄養サポートチーム
（日時未定）

職種の壁を越え、栄養サポートを実施する多職種の集団。

「出生前診断を知ってる会？～さま

日時：201
場所：長崎

出生前診断の概要と現状について、それぞれ専門の異なる学生と一般の方々が共に学び、グループワークで理解を深めました。

ゲストスピーカーによるご

【テーマ】
「妊娠そして告知～その先にあるもの～」
【講師】
藤本佳代子先生(社会福祉士)
出生前診断の告知のあり方と自己決定の支援を考える 『泣いて笑って』の代表

診断による告知からの自己決定，女性や家族の戸惑い，悩み，さまざまな思いを抱えながら選択をしているということを教えていただきました。

参加された方々の声

グループディスカッションをしてみて、さまざまな視点からの意見を聞くことができて、視野が広がった。

自分以外の人の考えを聞く貴重な機会だった。

自分の意見を発信しながら、他の人の意見も重要だと感じた。

男性の視点からの意見があり、面白かった。

普段は関わる機会が少ない人と意見を交換できることがよかった

他県の学生さんの参加もあり，他県での学生主体による取り組みについて紹介がありました！

活動を通して思うこと

私自身・・・

- 自分の大学内だけでの学びに留まらず、他の環境に踏み出す力の必要性
- 他大学・他学科の学生のメンバー加入
→より幅広い専門分野について知り、学ぶ。
人と人とのつながりの場 ⇒ 関係の継続
- 学生主催の勉強会開催
→相手に伝える力、現場の方からの学び・つながり

それだけでなく！

さまざまな方々との意見交換の場

たまごの会を多くの方々に知ってもらう機会

ぜひ、参加してください！

ご清聴ありがとうございました。

END

長崎多職種連携たまごの会の今後のビジョン

～他大学の学生との関わりから見えてきたもの～

長崎純心大学現代福祉学科３年 横山千夏

大学2年生までは・・・

長崎純心大学の学生として、純心大学の授業しか知らない、純心大学の雰囲気しか知らない、純心大学の取り組みしか知らない・・・

比べる対象がないために純心大学での活動を基準に大学生活を考えることしかできなかった。

また、他の大学での活動を知らないために純心大学でのすべてのことが当たり前になりすぎて、「ここをもっと改善したい！」「もっとこういう活動をした方が良いのではないか？」などという思いや、疑問もあまりなかった。

大学3年生になって・・・

潮谷先生のゼミに入ったことがきっかけで様々な活動に参加することに！

活動や活動を通しての沢山の人との出会いから様々な発見があった。

長崎純心大学での教育・生活しか知らずに2年間生活してきた自分にとって、他大学の学生と関わる中で見えてくるものはとても衝撃的だった。

たまごの会に入って様々な活動をする中で、医学を専門に学ぶ学生や他大学で福祉を学ぶ学生と関わることで、こんなにも学校ごとに学校の活動や生徒のカラーが異なるっているということを初めて実感した。

一年間ゼミでの活動やたまごの会を通して関わってきた人たち

九州・山口家庭医療学セミナーに参加した学生

たまごの会に参加している長崎大学医学部の学生

第三回地域医療セミナー in GOTOに参加した学生

「学生が作る 教育福祉シンポジウム」を主催した大阪府立大学教育福祉学類学生団体教福伝え隊の学生

九州・山口家庭医療学セミナーに参加した学生

2015年6月20（土）21日（日）に島原市の九州地区国立大学島原市研修センターで開催されたものに参加させていただいた。

医学を学ぶ学生と沢山話す初めての機会

同じ学生なのに志し高く、目標に向かって様々な活動をしていることに驚いた

一年間ゼミでの活動やたまごの会を通して関わってきた人たち

九州・山口家庭医療学セミナーに参加した学生

たまごの会に参加している長崎大学医学部の学生

第三回地域医療セミナー in GOTOに参加した学生

「学生が作る 教育福祉シンポジウム」を主催した大阪府立大学教育福祉学類学生団体教福伝え隊の学生

たまごの会に参加している長崎大学医学部の学生

中心となって活動していた、荒倉さん・内田さんとの出会い

自分も頑張ろうという思いに繋がった

一年間ゼミでの活動やたまごの会を通して関わってきた人たち

九州・山口家庭医療学セミナーに参加した学生

たまごの会に参加している長崎大学医学部の学生

第三回地域医療セミナー in GOTOに参加した学生

「学生が作る 教育福祉シンポジウム」を主催した大阪府立大学教育福祉学類学生団体教福伝え隊の学生

第二回地域医療セミナーinGOTOに参加した学生

●学生実行委員

学生が講義をしてくださる講師を選ぶところからワークショップの内容まで実行委員が計画して実行していることに驚いた。

今年実行委員をすることでより大変さを実感

一年間ゼミでの活動やたまごの会を通して関わってきた人たち

九州・山口家庭医療学セミナーに参加した学生

たまごの会に参加している長崎大学医学部の学生

第三回地域医療セミナー in GOTOに参加した学

「学生が作る　教育福祉シンポジウム」を主催した大阪府立大学教育福祉学類
学生団体教福伝え隊の学生

「学生が作る　教育福祉シンポジウム」を主催した大阪府立大学教育福祉学類　学生団体教福伝え隊の学生

自分と同じ福祉を学ぶ他大学の学生と初めて関わった

●府立大の学生と会う前のイメージ
医学部　→　様々な[illegible]活発に取り組んでいる
福祉　　→　あまり活[illegible]活動はない

同じ福祉を学ぶ学生でも**主体的**に様々な活動を行っていた

●府立大の学生と会ってからのイメージ
今までの私の中の福祉の学生のイメージが大きく変わった

たまごの会の今後のビジョンについて

平成27年11月7日（土）

秋田大学医学部等主催の全国シンポジウムの「学生ポスターセッション」において
「長崎多職種連携・たまごの会」の活動について発表をさせて頂いた。

秋田のポスターセッションで発表した
たまごの会で活動を行う目的

秋田のポスターセッションで発表した
たまごの会の今後のビジョン

●私たちの学びの成果を**教育現場にインプット**すること

●たまごの会のような**自己組織化**したグループが日本中に浸透し
新たな「**たまご**」**ネットワーク**が形成されることです。

**最終的な目的やビジョンを
実現させるためには
何が必要なんだろう・・・？**

**最終的な目的やビジョンを実現させるためには
何が必要なんだろう・・・？**

●たまごの会のメンバーひとりひとりが主体的に活動する

●実際に地域に出向いて地域住民や地域について知る

1年後にもっと進化したたまごの会についてお伝えできたらいいな！！

ご静聴ありがとうございました

たまごの会を通じて 見えたもの・見えるもの

長崎大学医学部医学科3年
荒倉由佳

自己紹介

- 長崎大学 医学部医学科 3年
- たまごの会　創設サポートメンバー

- 文系学部卒 → 社会人 → 医学部へ編入
- 九州在住歴 2年目

本日お話すること

私とたまごの会
- どんなことを考えながら関わっているか
- 見えたもの【気づき】
- 見えてくるもの【これから】

本日学んだことの“整理運動”がてらに♪

ふり返ってみると…

たまごの会は 学びの場であり、試行の場

私にとって

福祉を知りたい　x　周囲に変化を

- **社会福祉士たちとの出会い**
  復興支援 @宮城県石巻市
- **Community(地域)単位で考える面白さ**
  発展途上国での支援活動 @インドネシア・ガーナ
  町興し @石川県白山市
  地域医療見学 @フィリピン・宮古島
- **“つまらなそう”にする同級生**
  もったいない…!!
- **経験から得た学びを還元する**
  “よそ者”の気づき
  編入学生として ご縁を大切に

医療×福祉サークルの立ち上げサポートへ

サポート役として 大切にしてきたこと

組織
- 持続可能な組織に（Sustainability）
  「魚を与えるのではなく、魚の釣り方を伝える」× 組織・戦略立案の経験
  自ら考える集団へ
- 仮説を立てたら、まず回す、振り返る（Lean startup）

サポート役として 大切にしてきたこと

組織
- 持続可能な組織に（Sustainability）
  「魚を与えるのではなく、魚の釣り方を伝える」× 組織・戦略立案の経験
  自ら考える集団へ
- 仮説を立てたら、まず回す、振り返る（Lean startup）

個々のメンバー
- じげもん＆若者が主役
- 個人の考えや意思を中心に
  既にそこにあるものを引き出す・見える化する、という感覚

サポート役として 大切にしてきたこと

組織
- 持続可能な組織に（Sustainability）
  「魚を与えるのではなく、魚の釣り方を伝える」× 組織・戦略立案の経験
  自ら考える集団へ
- 仮説を立てたら、まず回す、振り返る（Lean startup）

個々のメンバー
- じげもん＆若者が主役
- 個人の考えや意思を中心に
  既にそこにあるものを引き出す・見える化する、という感覚

➡答えのない、不確実な世の中で活躍する力を養う場に

たまごの会から見えたもの

✓2つの大学の学生・先生方・職員の方々によって
　周囲や社会が少しずつ変わるという感覚
✓上手くいく方法が見えてくる

たまごの会から見えたもの

✓2つの大学の学生・先生方・職員の方々によって
　周囲や社会が少しずつ変わるという感覚
✓上手くいく方法が見えてくる

リーダーシップの総量が大きい

学生のやる気と共に
たくさんの方々のサポートと応援があってこそ

これから見えるもの

- 次はあなたの番☺
  「僕・私はこうしたい！」を熱いうちに
- 医学側から提供できるものは何か？

➡課題を発見・解決していく力を持つ人材の輩出
➡成功事例としての長崎
➡LocalからGlobal & Localへ繋がる

ご清聴
ありがとうございました☺

たまごの会設立から現在に至るまで
～私たち学生に必要なものとは～

長崎大学医学部医学科2年　内田直子

2016/03/24

私たち学生に
必要なものとは
なんでしょうか？

2016/03/24

自己紹介

長崎大学医学部医学科2年

たまごの会　長崎大学部長

2回目の大学生

1年前期に受講した
「NICEキャンパス～地域から世界へ輝く女性たちとそのサポート」、
地域医療セミナー in GOTOがきっかけで、福祉に興味をもつ

2016/03/24

私たち学生に必要なものとは

- 自分が何に興味があるかを知る
- 「アンテナ」をたてる
- 周りの環境を最大限に活かす
- 尊敬・感謝・思いやりの心をもつ

2016/03/24

①自分が何に興味があるかを知る

1）逆算方式で見つける
・将来のなりたい自分像を考える
→　どんな専門職、どういう人間になっていたいか etc

2）講義やセミナー、メディアなどから得た情報で興味をもったことは
とりあえず調べる

2016/03/24

②「アンテナ」をたてる

- 新聞
- インターネット
- テレビ
- 文献
- 教科書
- 掲示板チェック
- Googleアラート

etc…

2016/03/24

③周りの環境を最大限に活かす

たまごの会をサークル化した利点

- 勉強会の紹介や周知がしやすく、仲間を増やしやすい
  ⇒**社会的承認**
- 所属する場ができ、卒業しても戻ってきやすい
  ⇒**基地・ネットワーク化**
- 顧問の先生方に相談しやすい
  ⇒学生が持たない**社会資源のフル活用**

2016/03/24

④尊敬・感謝・思いやりの心をもつ

- 「相手は自分を映す鏡」
- まっすぐに向き合い接し続ければ、想いは伝わることが多い
- 相手からどれだけ引き出せるかは、自分次第
  ⇒**ことば化しよう**

黙っていては、わかりません！
思っていること、考えていることを
相手に直接伝えましょう。

2016/03/24

たまごの会誕生 → 継続

- 興味を持っている何かがある
- 「アンテナ」をたてている
- 周りの環境を最大限に活かしている
- 尊敬・感謝・思いやりの心をもっている

ご清聴ありがとうございました。

2016/03/24

5　第６回九州地域医療教育研究会

⑴　**日　時**　平成28年４月２日㈯　13：30～

⑵　**場　所**　九州大学医学部　百年講堂中ホール１・２（福岡市東区）

⑶　**テーマ**　「地域医療に貢献する医師をより多く養成するために
～特に卒前教育で出来ること～」

⑷　**概　要**

①　学生発表「『長崎多職種連携・たまごの会』
～立ち上げから１年間の活動を通して見えてきたもの～」
長崎純心大学現代福祉学科４年　市川加奈子、桑原　　薫、横山　千夏
長崎大学医学部３年　山本　幸近　２年　内田　直子

②　教育講演「自分でつかむ地域包括ケア『その人を知る』
～短期地域医療実習での試み」
千鳥橋病院 副医院長　山本　一視 氏

③　特別講演「地域医療教育の実践～新潟・魚沼の場合」
新潟大学大学院医歯学総合研究科 総合地域医療学講座 教授　井口清太郎 氏

⑸　**参加者**　奥村あすか 助教、吉田　麻衣 助教
長崎純心大学現代福祉学科４年　市川加奈子、桑原　　薫、横山　千夏
長崎大学医学部３年　山本　幸近　２年　内田　直子

写真Ⅵ-５　地域医療教育研究会の様子

6　第９回平戸と長崎大学で育てる地域医療講演会（平戸市生涯学習連携講座）

⑴　**日　時**　平成28年５月14日㈯　15：00～16：30

⑵　**場　所**　平戸文化センター中ホール（平戸市岩の上町）

⑶　**主　催**　長崎大学病院 へき地病院再生支援・教育機構／国民健康保険
平戸市民病院／平戸市立生月病院

⑷　**概　要**

講演　「優しさを伝えるケア技術：ユマニチュード®」
ジネスト・マレスコッティ研究所日本支部代表
独立行政法人国立病院機構 東京医療センター 総合内科医長　本田美和子 氏

⑸　**参加者**　長崎純心大学現代福祉学科　４年　市川加奈子、桑原　　薫、２年　重松　和樹
長崎大学医学部医学科　１年　村上　大輝

7　地域包括ケア人材養成コース推進フォーラム

⑴ **日　時**　平成28年６月11日㈯　13：30～17：00
⑵ **場　所**　長崎大学医学部 良順会館（長崎市坂本１丁目）
⑶ **主　催**　長崎大学医学部保健学科
⑷ **概　要**

① 特別講演「地域包括ケアシステムとその背景」
尾道市公立みつざ総合病院リハビリテーション部 参与　村上　重紀 氏

② シンポジウム「急性期・回復期・介護予防の立場から地域包括ケアシステムを考える」
「急性期病院の立場から」長崎大学病院　川崎　浩二 氏
「回復期病棟の立場から」長崎記念病院　山下潤一郎 氏
「生活期（介護予防）の立場から」長崎大学医学部保健学科　田中　浩二 氏
座長　長崎大学医学部保健学科保健学実践教育研究センター
センター長・教授　井口　　茂 氏

⑸ **参加者**　宮野　澄男 准教授、奥村あすか 助教、吉田　麻衣 助教、森　　万記 事務
長崎純心大学現代福祉学科４年　北村　春菜、桑原　　薫、福田　史織、
横山　千夏
現代福祉学科３年　尾﨑　美杜、山口　将史

8　第３回九州・山口家庭医療・総合診療セミナー

⑴ **日　時**　平成28年７月２日㈯　12：00～　７月３日㈰　～12：00
⑵ **場　所**　大分大学医学部附属病院（大分県由布市狭間町）
⑶ **テーマ**　家庭医療・総合医療を知ろう！学ぼう！
⑷ **主　催**　日本プライマリ・ケア連合学会 学生・研修医部会 九州沖縄支部
⑸ **概　要**

【第１日目】
① 基調講演「家庭医（総合診療医）ってこんなに楽しい！」
宮崎大学医学部附属病院 地域医療・総合診療医学講座 教授　吉村　　学 氏

② セッション①「ケースで学ぶ患者中心の医療」
大分大学医学部附属病院 総合内科・総合診療科／宮崎病院　藤谷　直明 氏

③ セッション②－ａ「離島医療について～徳之島の現場からリポート～」
医療法人徳洲会 徳之島徳洲会病院 副院長　水田　博之 氏
セッション②－ｂ「災害における総合診療の役割とは～熊本地震の対応をもとに」
熊本大学医学部附属病院 地域医療・総合診療実践学寄附講座
特任助教　高柳　宏史 氏

④ ポスターセッション

【第２日目】

①　セッション③－ａ「東洋医学（鍼灸・漢方など）の診療作法～臨床風景を動画で紹介。鍼灸体験コーナーもあります～」

真央クリニック附属鍼灸室／長湯鍼灸院 鍼灸師　成田　響太 氏

セッション③－ｂ「私たち医療者にとってその人らしい死／生の支援とは⁉～患者さんの死の２事例を通して～」

独立行政法人国立病院機構 大分医療センター

医療ソーシャルワーカー／社会福祉士　岡江　晃児 氏

②　セッション④「生きやすい街とは～家庭医療の目線で私たちは何ができるのか～」

パネリスト

医療法人博愛会頴田病院 家庭医療専門医 臨床教育部長　吉田　　伸 氏

医療法人博愛会頴田病院 初代家庭医療センター主任看護師　山中ゆかり 氏

大分医療センター 医療ソーシャルワーカー　岡江　晃児 氏

大分県津久見市そうごう薬局津久見港町店 薬剤師　長野　曲来 氏

司会　大分大学医学部医学科６年　衛藤　祐樹 氏

写真Ⅵ-６　第３回九州・山口家庭医療・総合診療セミナーでのさまざまな学び

⑹　参加者　宮野　澄男 准教授、吉田　麻衣 助教

長崎純心大学現代福祉学科４年：市川加奈子、桑原　　薫

現代福祉学科３年：石尾　千穂、尾﨑　美杜、尾畑　郁美、川口　裕貴、宗　英美里、長友　紗衣、松尾　美佳、山口　晃平

現代福祉学科２年：徳永　美樹、梁瀬　紗世

⑺　学生感想

今回九山セミナーに参加し、家庭医についてや、多職種連携について貴重なお話を聞くことができました。多職種連携については相手の専門性を知ること以外に自分の専門性を言語化して伝えることが重要であるとわかりました。また、誰のための多職種連携なのかという部分で多職種のためなのか、患者のためなのかという二つの捉え方がある

と知り、自分の見解を広げることができたように感じます。そして、全プログラムを終えて今回の九山セミナーでできた繋がりを大切にしていきたいと思いました。（現代福祉学科３年生）

今回初めて参加してさまざまな分野の人と関わり意見を交換したり、お互いの知識を共有したりすることができた。家庭医療／総合診療ということで医療の話があったが自分には医療に対する知識がないため、イメージがつかず難しかった。

同様に医療を専門とする人と意見を交わす中で福祉の分野はわからないという方もいらっしゃった。今回のセミナーに参加して自分の専門職について知ってもらう、他の職種について知るという相互の関係作りが、多職種連携には大切になってくる感じた。セッションを通して自分の専門職について福祉を知らない人に伝えることの難しさや、自分の意見を言語化して伝えることの難しさを感じ、これが今後の私の課題でもある。これからもこのようなセミナーに積極的に参加し自分の専門職に対する知識を深めると共に他の専門職に対する理解を深め、視野を広げていきたい。（現代福祉学科２年生）

なお、参加した学生の感想は、長崎純心大学医療・福祉連携センターホームページに掲載している。（http://www.n-junshin.ac.jp/cmw/news/）

⑻ 学生報告

学びの還元ということから参加した学生の中で、現代福祉学科３年生の宗 英美里さんと松尾 美佳さん、同２年生の徳永 美樹さんと梁瀬 紗世さんが、平成28年７月11日㈪に開催された第６回事業企画委員会において報告資料に基づき発表を行った。

写真Ⅶ-７　事業企画委員会での学びの還元

第三回 九州山口家庭医療・総合診療セミナー

テーマ:「家庭医療・総合診療を知ろう！学ぼう！」

医療福祉・連携センター　吉田麻衣

現代福祉学科　宗英美里・松尾美佳・徳永美樹・梁瀬紗世

○期日:2016年7月2日(土)～3日(日)
○会場:大分大学医学部　挾間キャンパス
○本学参加者:(教員)宮野准教授, 吉田助教
(学生)現代福祉学科4年生市川加奈子, 桑原薫
3年生石尾千穂, 尾崎美杜, 尾畑郁美, 川口裕貴, 宗英美里, 松尾美佳, 山口晃平, 長友紗衣
2年生徳永美樹, 梁瀬紗世
○主催 日本プライマリ・ケア連合学会 学生・研修医部会 九州沖縄支部
○協力 大分大学医学部地域医療学センター
大分大学医学部附属病院総合内科・総合診療科
○後援 日本プライマリ・ケア連合学会 九州支部

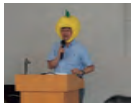
○主なプログラム
・第1日目　2日(土)
開会式・実行委員長挨拶
基調講演「家庭医(総合診療医)ってこんなに楽しい！」
セッション①「ケースで学ぶ患者中心の医療」
セッション②2-a「離島医療について」
2-b「災害における総合診療の役割とは」
ポスターセッション
・第2日目　3日(日)
セッション③3-a「東洋医学(鍼灸・漢方など)の診療作法」
3-b「私たち医療者にとってその人らしい死/生の支援とは？！」
セッション④「生きやすい街とは～家庭医療の目線で私たちは何ができるのか」
閉会式

基調講演
家庭医(総合診療医)ってこんなに楽しい！！

宮崎大学医学部附属病院地域医療・総合診療医学講座教授

吉村学　先生

・命よりも大切なものがある。
・地域との絆を切らさない。
・子ども達の成長をずっと見続ける。
・地域の祭りはバカになれ。
・ワークライフバランス
・事例から考える　be there そこにいる



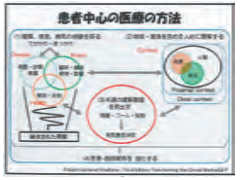
家庭医(総合診療医)のやりがい

・患者さんの近さ
・患者まるごと、住民まるごと、地域まるごと
・診療室の中だけにとどまらない
・多様性と個別性
・雨ニモマケズ風ニモマケズ

Session1　ケースで学ぶ患者中心の医療

大分大学医学部附属病院総合内科・総合診療科　藤谷直明　先生

(1)disease 病気の名前
illness　病体験
health　人生観、人生の目的
患者にとって何が大切か。
3つのバランスを取ることが大切！
(2)proximal context
趣味は何か、性格、キャラクターを知る。
distal context　文化
(3)問題・ゴール・役割
(4)患者-医師関係の強化



session 2-a　離島医療について　～徳之島の現場からリポート～

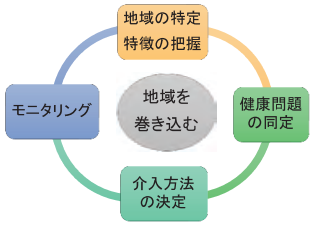
・患者に寄り添った医療(優しい医療)
・Noble's Oblige「貴族の義務」
・トップに立つ者こそ一番大きい荷物を

session 2-b　災害における総合診療の役割とは　～熊本地震の対応をもとに～

総合診療のコアコンピテンシー

・人間中心の医療・ケア
・包括的統合アプローチ
・連携重視のマネジメント
・地域志向アプローチ
・公益に資する業務規範
・診療の場の多様性

session 2-b　災害における総合診療の役割とは　～熊本地震の対応をもとに～



session 2-b　災害における総合診療の役割とは　～熊本地震の対応をもとに～

総合診療のコアコンピテンシー

・人間中心の医療・ケア
・包括的統合アプローチ
・連携重視のマネジメント
・地域志向アプローチ
・公益に資する業務規範
・診療の場の多様性

連携重視
多職種チーム
リーダーシップ
地域志向
地域→診療
診療→地域

9　平成28年度 第４回 長崎地域医療セミナー in GOTO

⑴　第４回長崎地域医療セミナー in GOTO kickoff ミーティング

①　日　時　平成28年３月９日㈬　10：00～12：00

②　場　所　長崎大学医学部第２セミナー室

③　参加者

学生実行委員会

実行委員長　長崎大学医学部２年　小川伸一郎

実行委員　　長崎大学医学部２年　柿田　聖太、安楽万由子

長崎大学医学部１年　塚崎　　晃、五島漱志郎、古川　慧月

長崎純心大学現代福祉学科３年　横山　千夏、梅本　由衣

長崎純心大学現代福祉学科２年　坂田知嘉子

教職員　長崎大学医学部

前田　隆浩 教授、永田　康浩 センター長（教授）、小屋松　淳 助教

平尾加奈子 事務

長崎純心大学

潮谷　有二 センター長（教授）、宮野　澄男 准教授

奥村あすか 助教、吉田　麻衣 助教、森　　万記 事務

④　概　要

学生実行委員が中心となり、以下の点について協議、決定

・全体テーマ及び本セミナーの位置付け

・ワークショップ（プログラム、教材）

・フィールドワークの場所（医療系、福祉系）

・招聘したい講師陣（医療関係、福祉関係）

写真Ⅵ-８　実行委員と kickoff ミーティングの様子

⑵　第４回長崎地域医療セミナー in GOTO 事前学習会

①　日　時　平成28年６月２日㈭　19：00～20：00

②　場　所　長崎大学坂本キャンパス　基礎棟一階第一講義室

③　参加者

長崎大学医学部１、２、３年生（長崎地域医療セミナー in GOTO 参加予定者）

長崎純心大学現代福祉学科４年生　梅本　由依、北村　春菜、澤田　寿美

水田　小夏、横山　千夏

３年生　尾﨑　美杜、坂田智嘉子

２年生　徳永　美樹、梁瀬　紗世

④　概　要

長崎みなとメディカルセンター市民病院医療ソーシャルワーカー宮川　江利先生による講演

・医療ソーシャルワーカーの業務内容等

・多職種連携と連携の実際（MSWの役割など）

写真Ⅵ-９　事前学習会の様子

⑶　第４回 長崎地域医療セミナー in GOTO

①　目　的

本セミナーは、地域での活躍を志す学生さんに医療や福祉に通じた地域との早期の関わり合いを提供し、離島やへき地で貢献できる人材の育成を目指しています。

②　参加者　長崎大学医学部医学科１～３年生　28名
　　長崎純心大学現代福祉学科２～４年生　12名
　　鹿児島大学医学部医学科５年　２名

③　期　日　平成28年８月19日㈮～21日㈰

④　場　所　長崎県五島市富江町「五島市富江町公民館」

⑤　主　催　長崎大学、長崎地域医療セミナー実行委員会

⑥　共　催　五島市、五島医師会、長崎県五島中央病院
　　長崎純心大学医療・福祉連携センター

⑦　概　要

【第１日目】

・開会挨拶及びセミナー趣旨説明
　長崎大学 地域医療学分野 教授　前田　隆浩 氏

・学生挨拶
　長崎大学医学部医学科 ３年　小川伸一郎 氏

・講義①「各医療機関および施設について」

・実習①「島内医療機関実習」

・ウェルカムレセプション（他大学生との交流）

【第２日目】

・ワークショップ①
　テーマ「多職種連携の必要性を知ろう」
　運営　学生実行委員会

・講義②「家庭医の専門的技能とは」
　徳州会グループ 家庭医療部　佐野　　潔 氏

・ワークショップ②

・講義③「五島市の母子保健の現状について」

五島市健康政策課 保健師　二里　温子 氏

・ワークショップ③

・講義④・実習②「救急現場での医療 BLS と AED G2015より」

長崎大学病院 救急救命センター 准教授　山下　和範 氏

・ワークショップ④

・講義⑤「五島市における地域包括支援センターの役割」

五島市長寿介護課 社会福祉士　山田　真由 氏

・ワークショップ⑤

・講義⑥「あなたは何処で誰にみとられますか？～島での看取りを考える～」

五島市 井上内科小児医科医院 医師　井上　効子 氏

・ワークショップ⑥

【第３日目】

・ワークショップ⑦

・ワークショップ発表（前半・後半）

⑧　参加学生の感想

> 今回地域医療セミナーに初めて参加して、医療と福祉の連携について考え、また五島の医療について福祉について学ぶことができました。
>
> 二次離島の医療について、実際に診療所で働かれている方々のお話を聞くことができ、とても貴重な経験をさせていただきました。私は島の医療・福祉に対して、マイナスなイメージを持っていましたが実際にお話を聞いてみて、地域の方々との信頼関係を築き、島の医療に携わっていることに誇りを持っていらっしゃることを感じ、今までに持っていたイメージが大きく変わりました。実際に携わっている方々からお話を聞くことの重要さも改めて感じました。
>
> また、ワークショップでは医療の視点と福祉の視点で支援方法を考えていきましたが、改めて支援をする上で多職種連携をすることの重要性や難しさを感じることができました。実際ワークショップで医療や福祉の視点から見て意見交換をすることにより、多面的にクライエント（患者）を理解することができ、より良い支援を行えると感じました。（現代福祉学科３年）

なお、参加した学生の感想は、長崎純心大学医療・福祉連携センターホームページに掲載している。（http://www.n-junshin.ac.jp/cmw/news/）

⑨　参加学生報告

参加した学生の中で、現代福祉学科３年生の坂田知嘉子さん、塩脇 怜奈さん、宗 英美里さん、同２年生の徳永 美樹さん、中尾 優花さん、梁瀬 紗世さんの６人は、平成28年９月26日㈪に開催された第８回事業企画委員会において報告資料に基づき発表を行った。

長崎地域医療セミナーinGOTO

現代福祉学科3年　坂田知嘉子　塩脇怜奈　宗英美里
2年　徳永美樹　中尾優花　梁瀬紗世

概要

- 講義について
- ワークショップについて
- 学びや気づき、感想

「家庭医の専門的技能とは」

徳州会グループ
家庭医療部
佐野潔先生

医療者誰もが持っていなければならないもの

家庭医の役割

・疾患管理（入院、外来、在宅）
・心理的サポート（癒やし）
・家庭療法
・予防、健康管理
・教育
・医療の弊害から守る
・行政、福祉を利用

家庭医療の特色

Family Medicine であり
General Medicine ではない！

個人とコミュニティー中心の医療（General　Medicine）ではなく、個人と家庭・家族中心そして、コミュニティー（Family　Medicine）である。

カナダと家庭医

Koray Demir
Mark Woo　（マギル大学）

カナダでの医療サービス

◎カナダでは、からだに異常が出たら、家庭医に
まず行く
（カナダの医師の約44.3%が家庭医）

◎家庭医の利点
・待ち時間を減らす
・医療費の削減
・患者と医師の信頼関係の構築

五島市の母子保健事業について

五島市健康政策課保健師
二里　温子

子どもや母親の健康確保

◎妊婦訪問事業
妊産婦、乳幼児を訪問し、相談・支援を行う

◎心身の状態の確認・健診
・母子手帳の交付
・歯科検診
・健康相談　など

歯科検診

- 五島市の虫歯保有率は全国的に高い

↓

歯科検診による早期発見・早期治療が大切！

2歳児歯科健康相談
保育園等での指導
等

幼児の障害発達の支援

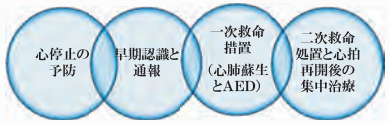
- グレーゾーン児へのサポートなどの取り組み

検診後…
・すくすく広場
・幼児発達専門相談

救急現場での医療　BLSとAED

G2015より　長崎大学病院救命救急センター　山下　和範先生

救命の連鎖



倒れている人を発見したら…

初動：反応を確認する

↓

呼吸の確認

↓

胸骨圧迫

AEDの使い方について

①パッドを貼る間もできるだけ胸骨圧迫を中断しない
②心電図を解析しているときは離れる

心肺蘇生法の目的・適応

最終目的は

社会復帰

五島市地域包括支援センターの役割

五島市長寿介護課長寿支援班
五島市地域包括支援センター
山田真由先生

五島市の現状・・・
介護保険料　6,233円

長崎県内で負担額が最も高い

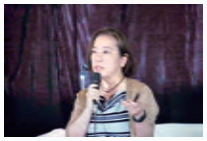
地域包括支援センターの業務

・介護予防ケアマネジメント
・総合相談支援業務
・権利擁護業務
・包括的・継続的ケアマネジメント支援業務

新事業に対する市の取り組み

- 地域包括ケア会議推進事業
  ※平成27年度は8回開催した
- 在宅医療・介護連携推進事業
- 生活支援体制整備事業
- 認知症総合支援事業

「あなたは何処で誰にみとられますか？～島での看取りを考える～」



井上内科小児科医院
井上効子先生

終末期の患者さんにとって看取りの場所は重要な問題！

患者さんの切望

病院・自宅・施設

↓

だけでなく

希望する場所で愛する家族に囲まれ、信頼する医療スタッフに支えられ、残された貴重な時間を穏やかに過ごしたい

在宅医療のみならず、地域全体の地域包括ケア体制を構築し患者さんの思いに一人でも多く答えられるように努力することが必要となる。

ワークショップのテーマ

多職種連携の必要性を知ろう

【ねらい】
ワークショップでは、ただ多職種連携について学ぶだけではなく、事例を通して重要さや大変さを実感してもらう。

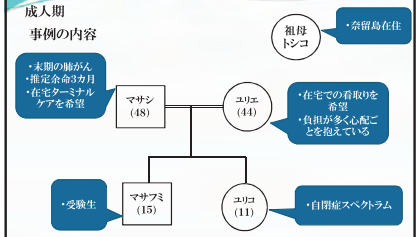
以下の4つの期が、事例として用意された。

周産期 ➡ 小児期 ➡ 成人期 ➡ 老年期

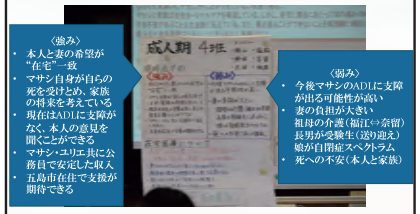
ワークショップの流れ

1. 事例から患者・クライエントの弱み強みを見つけよう
2. 支援の方向性を決めよう
3. 具体的な支援方法を考えよう
4. グループでまとめたことを発表しよう

成人期
事例の内容



1．事例から患者・クライエントの弱み強みを見つけよう



2. 支援の方向性を決めよう

事例の最大の強み・・・！！！

マサシとユリエの意見が「在宅看取り」で一致していること

⬇

支援方法は、「在宅での看取り」という方向性に決定した

3. 具体的な支援方法を考えよう

4. グループでまとめたことを発表しよう

周産期

小児期

成人期

老年期

〈感想〉

- 多職種連携を実現させていくためには他の職種の意見や考えをきいて受け入れること、また職種について相手にしっかり説明できる力が必要であると改めて理解しました。
- 専門的な知識が不十分で、専門的な用語・制度を使う際に、曖昧で自信がなく勉強不足を強く痛感しました。

⑷ 第４回 長崎地域医療セミナー in GOTO 振り返り実行委員会

① 日　時　平成28年10月20日㈭　18：30～

② 場　所　長崎大学医学部基礎研究棟小会議室

③ 参加者

学生実行委員会

実行委員長　長崎大学医学部３年 小川伸一郎

実行委員　　長崎大学医学部３年 柿田　聖太、安楽万由子

長崎純心大学現代福祉学科４年　横山　千夏、梅本　由衣

長崎純心大学現代福祉学科３年　尾﨑　美杜、坂田知嘉子

教職員　長崎大学医学部

前田　隆浩 教授、永田　康浩 センター長（教授）、小屋松　淳 助教

他４人

長崎純心大学

潮谷　有二 センター長（教授）、宮野　澄男 准教授

奥村 あすか 助教、吉田　麻衣 助教、森　　万記 事務

④ 概　要

五島セミナーについて総括反省と具体的な解決策等について協議

・事前学習の在り方

・施設見学

・ワークショップの運営

・学会等での学びの発信

・来年度の「第５回 長崎地域医療セミナー in GOTO」について

写真Ⅵ-10　振り返り実行委員会の様子

10　Summer Camp 2016 in Hirado 平戸と大学で育てる地域医療 「地域医療とケア」を考え・体験する［第11回 夏の合宿企画］

⑴ **期　日**　平成28年８月26日㈮～28日㈰

⑵ **場　所**　平戸市民病院等

⑶ **主　催**　長崎大学病院 へき地病院再生支援・教育機構、平戸市民病院、
平戸市立生月病院、平戸市保健センター、
ながさき県北地域医療教育コンソーシアム

⑷ **後　援**　長崎県、平戸市

⑸ **参加者**

教員　吉田　麻衣 助教

学生　現代福祉学科２年　梁瀬　紗世、重松　和樹

⑹ **概　要**

【第１日目】

・オリエンテーション

・地域医療実習

Ｙ氏宅へ訪問（夫：要介護２、妻：要介護４）

認知症対応型通所介護デイサービスセンター「とかじん」見学

通所リハビリテーションデイケア「毎快（まいかい）」見学

サービス付き高齢者向け住宅「平戸みどりが丘ケアホーム」見学

・地域医療講演会

「災害における総合医の役割～二つの震災の経験をもとに」

熊本大学医学部附属病院　高柳　宏史 氏

【第２日目】

・へき地研修卒業生によるシンポジウム

テーマ　地域医療の未来～私のキャリア～

「小病院総合診療医～病院家庭医を目指して～」

社会福祉法人健友会　上戸町病院 医師　今村　裕子 氏

「私が目指したい総合外科医」

長崎県上五島病院 後期研修医　竹下　隼人 氏

「地域医療と長崎と私」

飯塚病院 後期研修医　石川　大平 氏

・ワールドカフェ

テーマ　地域医療の未来～2025年問題は怖くない⁉～

・シンポジウムⅡ

テーマ　海外の地域医療教育・研修

「オーストラリアのへき地医療専門研修について」

ゲネプロ代表　齋藤　　学 氏

「地域で君たちは何を学ぶのか⁉」

金沢医科大学医学部 医学教育講座 講師　高村　昭輝 氏

「カナダの地域医療教育～学ぶことは地域にある！～」

長崎大学病院 へき地病院再生支援・教育機構 准教授　中桶　了太 氏

・ワークショップ

テーマ　10年後の地域医療はどんな施設が理想

・地域医療講演会

「地域医療の過去・現在から考える　2025年を安心して迎えるために～佐久総合病院の活動より」

佐久総合病院 診療部長 地域ケア科医長 内科医長 国際保健医療科医長

北澤　彰浩 氏

【第３日目】

・漁師体験（台風の影響のため中止）

・まとめ　二日目のワークショップの発表

写真Ⅵ-11　Summer Camp 2016 in Hiradoの様子

⑺　参加学生報告

参加した学生の中で、現代福祉学科２年生の梁瀬 紗世さんと重松 和樹くんは、平成28年９月26日㈪に開催された第８回事業企画委員会において報告資料に基づき発表を行った。

Summer Camp 2016 in Hirado
平戸と大学で育てる地域医療
「地域医療とケア」を考え・体験する［第11回 夏の合宿企画］

テーマ：地域医療 Past and Future ！～2025年問題は怖くない！地域は最先端～

医療福祉▪連携センター　吉田麻衣
現代福祉学科2年　梁瀬紗世，重松和樹

○期日：2016年8月26日（金）～28日（日）
○場所：平戸市民病院等
○本学参加者：（教員）吉田麻衣
（学生）現代福祉学科2年　梁瀬紗世，重松和樹
○主催　長崎大学病院 へき地病院再生支援・教育機構、平戸市民病院、平戸市立生月病院、平戸市保健センター、ながさき県北地域医療教育コンソーシアム
○後援　長崎県、平戸市

外部参加者（長崎大学病院へき地病院再生支援・教育機構HPより）
・講師：　14名，医師：　13名，その他：11名，医学生：17名
合計：　55名

参加学生内訳：
長崎大学医学部医学科5年1名，4年4名，1年11名
長崎大学医学部保健学科看護学専攻3年1名
琉球大学医学部医学科2年1名
長崎純心大学人文学部現代福祉学科2年2名

主なプログラム
○セミナー第1日目　26日（金）
▪オリエンテーション
▪地域医療実習
▪講演　熊本大学医学部附属病院 高柳先生
○セミナー第2日目　27日（土）
▪へき地研修卒業生によるシンポジウム
▪卒後10年以内の若手の先生方によるシンポジウム
▪地域医医療の未来～私のキャリア～
▪ワールドカフェ 地域医療の未来
▪海外の地域医療教育▪研修
▪講演　佐久総合病院 北澤先生
▪懇親会
○セミナー第3日目　28日（日）
▪漁師体験（台風の影響のため中止）
▪まとめ 二日目のワークショップの発表
▪終了

8月26日(金)
11:30　オリエンテーション(一楽食堂)
平戸市長挨拶
在宅医療ショートレクチャー
昼食(平戸ちゃんぽん)
13:15 地域医療実習
▪Y氏宅へ訪問
夫は要介護2、妻は要介護4である。
現在はみどりが丘ケアホームに在住
14:30 認知症介対応型通所介護
デイサービス「とかじん」見学

15:00 通所リハビリテーション
デイケア「毎快(まいかい)」見学
▪筋力の向上、維持するためのトレーニング
マシーンの体験
15:30 サービス付き高齢者向け住宅
「平戸みどりが丘ケアホーム」見学

17:00 まとめ(平戸市民病院レジデントハウス)

18:00 開会の挨拶：調　漸　先生
地域医療講演会
講師：熊本大学医学部付属病院 高柳 宏史 先生
「災害における総合医の役割」
▪二つの震災(高柳先生の体験)
▪災害とは
▪災害における総合医の役割
災害前期、発災期▪緊急対応期、回復期、
災害間期
▪支援者に必要なこと
1.　PFA(Psychological First Aid)

2.　自己完結性の確保
ロジスティックスについて
19:30 夕食▪懇親会
21:45 ホテル蘭風

SUMMER CANP
～2日目～

8月27日(土)
9：15　へき地研修卒業生によるシンポジウム
テーマ：地域医療の未来～私のキャリア～

○講師：今村裕子先生(社会福祉法人　健友会　上戸町病院　医師)
演題：「小病院総合診療医～病院家庭医を目指して～」
○講師：竹下隼人先生(長崎県　上五島病院　後期研修医)
演題：「私が目指したい総合外科医」
○講師：石川大平先生(飯塚病院　後期研修医)
演題：「地域医療と長崎と私」

10:30　ワールドカフェ
テーマ：地域医療の未来～2025年問題は怖くない！？～

三人から四人の班に分かれ、地域医療が直面している問題点を考え、その解決方法を医療▪福祉様々な視点から考えた

▪地域医療の直面している問題点とは？
▪またその解決策とは？
▪今後どのようになっていくことが望ましいか

13:00　シンポジウムⅡ
テーマ：海外の地域医療教育・研修
○講師：齋藤学先生(ゲネプロ代表)
演題：「オーストラリアのへき地医療専門研修について」
○講師：高村昭輝先生(金沢医科大学医学部　医学教育講座　講師)
演題：「地域で君たちは何を学ぶのか！？」
○講師：中桶了太先生(長崎大学病院　へき地病院再生支援・教育機構　准教授)
演題：「カナダの地域医療教育～学ぶことは地域にある！～」

14：30ワークショップ
テーマ：10年後の地域医療はどんな施設が必要

グループに分かれそれぞれが10年後にどんな施設になっていて欲しいのか、また、どんな施設が理想であるのかを自由に出し合った。

・他職種連携
・地域とのつながり
・利用がしやすい
・利用している人が過ごしやすい
・予防的ケア

16:30　地域医療講演会
講師：北澤彰浩先生(佐久総合病院　診療部長　地域ケア科医長　国際保健医療科医長)

演題：「地域医療の過去・現在から考える　2025年を安心して迎えるために～佐久総合病院の活動より」

・今後の国の方針
在宅医療推進
地域医療構想策定
地域包括ケアシステム

佐久総合病院の活動・理念
住民主体
住民参加
本人主体

5・3・2方針
→5：入院医療　3:外来医療　2：公衆衛生活動(保健予防のみではなく地域ケア・福祉の分野も含む)

医療・看取りを住民にお返しするとは？

本人主体とは？

医療の民主化とは？

SUMMER CANP
～3日目～

○8月28日(日)
・まとめ 二日目のワークショップの発表
・各自の一言感想
・終了

11　医療と福祉の融合が導く次世代の医療人育成シンポジウム

⑴ **日　時**　平成28年９月17日㈯　13：00～17：00

⑵ **場　所**　長崎大学医学部良順会館（長崎市坂本１丁目）

⑶ **主　催**　長崎大学大学院医歯薬学総合研究科地域包括ケア教育センター
　　長崎純心大学医療・福祉連携センター

⑷ **テーマ**　医療と福祉の融合が導く次世代の医療人育成

⑸ **プログラム**

①　開会挨拶　　長崎大学副学長　松坂　誠應 氏
　　長崎純心大学長　片岡瑠美子 氏

②　事業進捗状況　長崎大学地域包括ケア教育センター センター長　永田　康浩 氏
　　長崎純心大学医療・福祉連携センター センター長　潮谷　有二 氏

③　活動報告

座長／長崎大学医学部先端医育センター 教授　安武　　亨 氏

・「地域包括ケア臨床実習―体制づくりとその実際―」
　　長崎大学地域包括ケア教育センター 連携調整事務員　門村由紀子 氏

・「長崎大学・長崎純心大学共修授業について」
　　長崎純心大学医療・福祉連携センター 助教　奥村あすか 氏

・「５年次臨床実習における地域医療在宅実習を経験して」
　　長崎大学医学部医学科５年　永田　宗大 氏

・「長崎多職種連携・たまごの会～これまでの活動と今後の展望～」
　　長崎純心大学現代福祉学科３年　山口　晃平 氏
　　長崎大学医学部医学科２年　　西迫　広貴 氏

写真Ⅵ-12　シンポジウムで発表の機会を得た学生

④　特別講演Ⅰ

座長／長崎純心大学医療・福祉連携センター長　潮谷　有二 氏

「地域包括ケアシステム再考―ヨーロッパにおける包摂政策への転換を視野に入れて―」

演者／上智大学総合人間科学部 社会福祉学科 教授　栃本一三郎 氏

⑤　特別講演Ⅱ

座長／長崎大学社会医療科学講座地域医療学分野 教授　前田　隆浩 氏

「我が国の目指す医療のあり方と医学教育、そして医療人育成」

演者／文部科学省高等教育局医学教育課企画官（地域人材医療育成専門官）
　　佐々木昌弘 氏

⑥　閉会挨拶　長崎大学医学部長　下川　　功 氏

長崎多職種連携・たまごの会
～これまでの活動と今後の展望～

長崎純心大学人文学部現代福祉学科　3年　山口晃平
長崎大学医学部医学科　2年　西迫広貴

長崎純心大学と長崎大学が共同開催した教育現場がきっかけ

出会いの場は授業

- NICEキャンパス
  （県内大学単位互換教養授業）
- 地域医療セミナー in GOTO
  （夏季短期集中セミナー）
- 全国シンポジウム in 秋田
  （セミナー報告発表）

他学部の学生が学んでいる内容をもっと知りたい！

自分が学んでいることも教えたい！

大学・学部の枠を超えて、授業以外でも定期的に一緒に勉強・交流したい！

2015年3月3日
長崎多職種連携・たまごの会　誕生

構成メンバー

長崎純心大学
・人文学部現代福祉学科　14名

長崎大学
・医学部医学科　6名

20名

医療・保健・福祉・栄養

長崎純心大学
・人文学部現代福祉学科　17名
・人文学部比較文化学科　1名

長崎大学
・医学部医学科/保健学科　12名
・教育学部　2名

活水女子大学
・健康生活学部食生活科　3名

長崎県立大学
・看護栄養学部看護学科　1名

長崎総合科学大学
・工学部医療電子コース　1名

37名

活動内容

個定期ミーティングの様子

個勉強会の様子

テーマ別に小グループをつくり、勉強会をつくっていく。

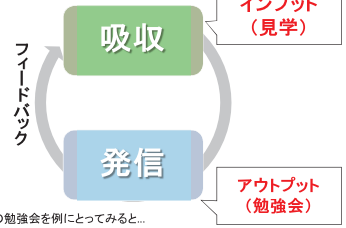
定期ミーティングでは、フリーディスカッション、各グループの近況報告をする。

勉強会　実績

2015年
- 4月　医療ソーシャルワーカーについて
- 7月　退院時カンファレンスでの多職種連携について
- 10月　食と健康：胃瘻について

2016年
- 1月　出生前診断：障害を持つ子を産むか産まないかの決断
- 3月　残薬問題・訪問薬剤師について
- 5月　出生前診断：遺伝子カウンセリングと出産の判断
- 5月　地域生活定着支援センターについて
- 7月　受刑者と向き合う社会福祉士について
- 7月　栄養サポートチームについて

唯一のルール



出生前診断の勉強会を例にとってみると…

疑問点を次へ活かす

2016年1月23日に出生前診断の勉強会
・出生前診断で障がいがあると分かった親の多くが、「産まない」選択をしていることを事実を共有し、「自分だったらどうするか」について考えた

↓

・遺伝子カウンセリングの現場はどうなっているのだろうか
・出生前診断を受けて、障がいをもつ子を産む選択をした親のサポートはあるのだろうか

↓

出生前診断勉強会第2弾　開催決定

インプット

長崎大学病院産婦人科遺伝カウンセリング室
三浦清徳先生から、遺伝子カウンセリングの現場について学ぶ

アウトプット

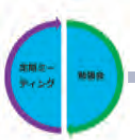
2016年5月14日
出生前診断勉強会　第2弾　開催

プレゼンテーション
・学んだことを共有する

ディスカッション
・障がいをもつ子を「産む」「産まない」の選択について
・私たちができる障がいをもつ子やその家族の支援方法

ゲストスピーカーによる講演
・ダウン症の子を育てるお母さんが経験談を共有して下さった

活動を通して



「顔」のみえる
関係構築

「自」分の
専門知識の構築

「他」職種の
使命・役割の理解

気づき

①各専門職が、「**患者・利用者さんを中心と捉える**」視点を持つことの大切さ

②地域の方たちが住み慣れた場所で、自分らしく生きるために、地域包括ケアシステムを**共に支えていく**存在になる必要がある

実際に地域に出向いていく

今年度たまごの会　構成

生命倫理班
医療・健康班
社会福祉班

＋ 地域交流班

地域交流班活動

- 地域包括支援センターの訪問
- 「認知症の人と家族の会」
- 小中学校・高校での出前講座
- 地域ケア会議への参加

これらの活動を通して…

地域に出向くとともに、地域の方々と意見を交換する場を作っていくことを目指す！！

勉強会

日時：　9月30日（金）18時30分～
講師：「認知症の人と家族の会」
　　世話人代表　長尾　一雄　先生

ご清聴ありがとうございました

12　第５回全国シンポジウム「日本の国情・２次医療圏の実情を熟考して理想的医師・医療者育成教育の展開を考える 2016」

⑴　**日　時**　平成28年11月５日㈯　13：00～18：00

⑵　**場　所**　秋田大学医学部附属病院 第２病棟 ２階多目的室（秋田県秋田市）

⑶　**主　催**　秋田大学大学院医学系研究科

⑷　**テーマ**　ALL for Patient Safety／すべては患者安全のために
医療教育／研修のパフォーマンスレベルを保証すべき各医療機関の戦略とは？
―eラーニングの活用と指導者体制の評価によるアクティブラーニングの充実を世界から学ぶ―

⑸　**概　要**

①　基調講演Ⅰ「進化する医学教育～６年ぶりのモデル・コア・カリキュラム改訂を展望して」
文部科学省 高等教育局医学教育課 企画官　佐々木昌弘 氏

②　基調講演Ⅱ「医療安全対策について」
厚生労働省 医政局総務課 医療安全推進室長　名越　　究 氏

③　シンポジウム
「eラーニング・シミュレーション教育研修ハイブリッド戦略で各分野の医学・医療教育研修質保障する～‘綜合臨床教育研修センター’の取り組みと展望」
秋田大学大学院医学系研究科 医学教育学講座 教授 長谷川仁志氏
「『患者とともに歩む医療人を育てる』ためのICT活用教育―LMS、ｅポートフォリオ、ｅコンテンツの三つの柱―」
東京医科大学 医学教育学分野 准教授　R. ブルーヘルマンス氏
「患者安全のための医療技術自己トレーニング用ｅラーニングシステム―アクティブラーニングとの効果的な組み合わせ―」
大阪府立大学 人間社会システム科学研究科 現代システム科学専攻
教授　真嶋由貴恵 氏
「米国病院総合診療医（ホスピタリスト）10年間の経験からみたこれからの日本の医療教育・研修」
新潟大学 地域医療教育センター 教授　石山　貴章 氏

④　特別講演「How to Evaluate Educators to Improve Medical Education Quality-Current Strategy in the US」
米国コロンビア大学 メディカルセンター 教授　本間　俊一 氏

⑹　**参加者**　宮野　澄男 准教授、現代福祉学科３年　山口　晃平

⑺　**参加学生報告**

参加した現代福祉学科３年生の山口 晃平くんは、平成28年11月14日㈪に開催された第11回事業企画委員会において報告資料に基づき発表を行った。

第5回全国シンポジウム ～日本の国情・2次医療圏の実情を熟考して理想的医師・医療者育成教育の展開を考える～についての報告

日時　11月5日（土）13：00～17：30
場所　秋田大学医学部付属病院第2病棟2階多目的室

医療・福祉連携センター　宮野　澄男
現代福祉学科3年　山口　晃平

シミュレーション教育センター見学　12:00~12:30

世界の医療界では、症例ベース・シミュレーション教育＝パフォーマンス評価が充実
確実性を高めるためにシミュレーショントレーニングの重要性

1階：画像診断学習室、TVセミナー室
2階：臨床基本手技ラボ、緊急処置ラボ
3階：外科手技ラボ、産婦人科手技ラボ、専門手技ラボ、外科研修室

（平成24年3月15日開設）

シミュレーション教育の充実
すべての学習者・受講者への教育・研修の質保証が可能！
患者の生命を守る⇒医療チームとしての責務！

基調講演Ⅰ「進化する医学教育 ～6年ぶりのモデル・コア・カリキュラム改訂を展望して～」

文部科学省 高等教育局医学教育課 企画官 佐々木昌弘氏

・平成28年度中の6年ぶり3回目のコアカリキュラム改訂におけるキャッチフレーズ
「多様なニーズに対応できる医師・歯科医師の養成」

・シームレスな教育

医師をはじめ様々な職種間で同じ方向を向いて連携を図り、教育を行っていく水平的教育
＋
在学中に加えて卒業後においても医療人としての資質を磨くことを目指す垂直的教育

・看護系人材養成における在り方を明確にし、教育の質を保証する必要性がある
→看護系人材養成において初のモデル・コア・カリキュラムの策定に向け、検討

・人工知能（AI）が発達しても残る仕事の特徴
→相手に応じてアウトプットを変えていくことができる仕事

基調講演Ⅱ「医療安全対策について」

厚生労働省 医政局総務課 医療安全推進室長 名越 究氏

・医療事故情報報告システム（医療事故情報収集等事業）
＜公財＞日本医療機能評価機構

（医療事故）大学病院等の276施設に報告義務があり、743施設が任意で報告する施設
↓ webにて報告
運営委員会・総合評価部会・事務局
↓
国民や行政機関、医療機関などへ周知

（ヒヤリ・ハット）約1200施設が任意で事例情報を提供
↓
情報収集、分析し、類型化
↓
再発防止、医療事故防止に向けて現場にフィードバック

情報を収集する目的はあくまで事故の発生予防・再発防止であり責任の追及をすることではない

・医療事故調査制度
→透明性・公平性の確保が不可欠

シンポジウム

eラーニングの活用と指導者・指導体制の評価による アクティブラーニング(AL)の充実を世界から学ぶ

eラーニング・シミュレーション教育研修ハイブリッド戦略で各分野の医学・医療教育研修質保障する ～'線合臨床教育研修センター'の取り組みと展望
秋田大学大学院医学系研究科 医学教育学講座 教授 長谷川仁志氏

患者とともに歩む医療人を育てる」ためのICT活用教育
－LMS、eポートフォリオ、eコンテンツの三つの柱－
東京医科大学 医学教育学分野 准教授 R.ブルーヘルスマンス氏

患者安全のための医学技術自己トレーニング用eラーニングシステム
－アクティブラーニングとの効果的な組み合わせ－
大阪府立大学 人間社会システム科学研究科 現代システム科学専攻
教授 真嶋由貴恵氏

米国病院総合診療医（ホスピタリスト）10年間の経験からみたこれからの日本の医療教育・研修
新潟大学 地域医療教育センター 教授 石山貴章氏

シンポジウム：eラーニングの活用と指導者・指導体制の評価による アクティブラーニング(AL)の充実を世界から学ぶ

・知識伝達式の学習から能動的な学習へ移行していく
→ALやeラーニングといったICTの活用

・シミュレーション教育やeラーニング活用といったサイバー空間と現実空間との融合
→より効果的、効率的、経済的　＋　教養から専門科目までシームレスな学習を目指す

・シミュレーショントレーニングの重要性
→速さや正確さ、安全性といったことを養っていくために効果的

・映像教材を積極的に活用
→①予習、復習段階において映像を用いることで学生の理解がより深まる
②自らの支援を客観的に見る機会を作り、患者が受けたい医療について考える機会を提供することができる

シンポジウム：eラーニングの活用と指導者・指導体制の評価による アクティブラーニング(AL)の充実を世界から学ぶ

・多様な形成的活用、評価
→プレゼンテーションや小テスト、ふりかえり、レポート、実習における態度評価など
に用いることで課題管理等に加え、学生とのコミュニケーションを図る一手段となる

・360°評価の実施
○臨床実習後に学生が自己評価
○指導教員による学生の形成的評価
○看護師による学生の評価
○患者さんによる学生の評価（任意）

・eラーニングやポートフォリオ活用に関しての課題や注意点もある
→（eラーニング）入力の時間や労力がかかり、課題が膨大化することも考えられる
（ポートフォリオ）提出させることばかりに力を入れるのではなく、その後のフィードバックの質や量を保証しなければ効果は半減する

特別講演「How to Evaluate Educators to Improve Medical Education Quality – Current Strategy in the US」

米国コロンビア大学 メディカルセンター 教授 本間俊一氏

・アメリカでは専門医でなければ報酬はなく、診察すらさせてもらえない

・fellow（研修医）に対して指導医に関する質問を実施し、質の向上を図っている
→インタビューや質問紙による調査、指導医からのハラスメントの有無に関してなど

・研修医を育てるとともに指導医を育成していくことが求められる
（きちんと種をまかなければ、次世代が育っていかない）

・教員がすべての分野を担っていくのではなく、研究・臨床・教育といった分野において得意な分野で本領を発揮していくというシステムの中で育成が行われている

・日本の教育制度に関してはインセンティブがはっきりされていないことが課題である
・アメリカにおいては優秀な学生や指導医に対して賞や報酬を与えるシステムがあり、モチベーションを高く持つことができる環境が備わっている

13　知的障害・発達障害のある人のための累犯障害者支援研修会

⑴　**日　時**　平成28年12月10日㈯　10：00～15：30

⑵　**場　所**　長崎県総合福祉センター　５階大会議室（長崎市茂里町）

⑶　**主　権**　一般社団法人 長崎県手をつなぐ育成会

⑷　**テーマ**　障害のある人と社会をつなぐ新たな人材養成に向けて

⑸　**概　要**

①　テーマⅠ「非行少年の就労支援を続けて～クラブワークとは～」
　　講師　有限会社野口石油 代表取締役社長　野口　義弘 氏

②　テーマⅡ「事例研究」課題提起、グループ討議、発表、まとめ
　　講師　長崎県地域生活定着支援センター 所長　伊豆丸剛史 氏

⑹　**参加者**　奥村あすか 助教、吉田　麻衣 助教
　　長崎純心大学現代福祉学科４年　福田　史織、３年　尾﨑　美杜
　　長崎大学医学部２年　内田　直子

写真Ⅵ-13　地域医療教育研究会の様子

⑺　学生感想

私は以前から、罪に問われた障がい者の支援に関心があり、今回の研修会に参加させていただいた。長崎県地域生活定着支援センターの伊豆丸所長の講演の際には、更生保護や地域生活定着支援センター等の基本的な内容の説明や、グループごとのワークショップが、「障がいあるいは高齢」と「矯正施設出所者」という２つの生きづらさを抱えた対象者の方に対し、何を大切にして面接を行うのか、どのような支援の方向性を提案するのかといったことについて考えることができた。

ワークショップの事例の１つは,「金銭管理サービスを利用しても、渡した分だけパチンコやスナックに使ってしまう方がいる。先週は残高0円，今週は300円だった。ケース会議ではどういった視点を提案するか」という内容だった。一般的に、パチンコやスナックへの浪費は望ましくないとされており、このケースも問題があると捉えてしまいそうになる。しかし、そもそもこのケースは問題なのかというファシリテーターの助言や、「『支援者にとっての問題』と『本人にとっての問題』は異なる」という伊豆丸所長のお話があった。表面上の事実だけですぐにそれを問題と捉えたり、支援者一人の価値観だけで判断したりするのではなく、その背景に何があるのかということや、本人の思いは何かということを考えることが大切であり、そのためにも様々な機関や職種が連携し合うことが求められると理解できた。そして、「いかに心地良い『感情記憶』を残せるか」、「『見え方』『考え方』の違いに、思いを馳せる」といったことを大切にして支援に携わっているというお話を聴いて、「周りから大切にされてきた」経験や「自分のことを大切に思う」経験をすることが困難な状況に置かれてきた人びとにとって、支援を行う上で知識や技術は必要ではあるが、それだけでなく、人としてどのように関わっていくか、向き合っていくかということも大切であることを学ぶことができた。（現代福祉学科４年）

14　第１回文部科学省未来医療研究人材養成拠点形成事業ミニフォーラム

⑴　**日　時**　平成29年１月28日㈯　15：00～17：30

⑵　**場　所**　長崎大学医学部グローバルヘルス総合研究棟（長崎市坂本１丁目）

⑶　**主　催**　長崎大学医学部 地域包括ケア教育センター

⑷　**テーマ**　大学における総合診療医の養成～成果の共有と課題の克服～

⑸　**参加大学**

三重大学、大阪大学、島根大学、長崎大学、新潟大学、岡山大学
（オブザーバー参加　九州大学）

⑹　**プログラム**

①　開会あいさつ　長崎大学医学部長　下川　　功 氏

②　学生による活動報告（長崎大学・長崎純心大学）

長崎大学医学部医学科３年　小川伸一郎、柿田　聖太、安楽万由子
２年　塚崎　　晃、五島漱志郎、古川　慧月、内田　直子
長崎純心大学現代福祉学科３年　坂田知嘉子、尾﨑美杜

写真Ⅵ-14　ミニフォーラムで発表の機会をいただいた学生たち

③　各大学における総合診療医養成の取り組み

座長　岡山　雅信 氏（神戸大学）、永田　康浩 氏（長崎大学）
新潟大学　オール新潟による『次世代医療人』の養成
三重大学　三重地域総合診療網の全国・世界発信
大阪大学　地域に生き世界に伸びる総合診療医養成事業
～超高齢社会を切り拓くリーダー型高度医療人養成～
島根大学　地方と都会の大学連携ライフイノベーション
岡山大学　地域を支え地域を科学する総合診療医の育成
長崎大学　つなぐ医療を育む先導的教育研究拠点の構築
～人と人、場と場、ケアとリサーチをつなぐ総合診療医の養成～

④　全体討論　　司会　永田　康浩 氏（長崎大学）
成果の共有、弱点に対する相補的な活動、共同研究について

⑤　特別発言　　国民健康保険平戸市民病院 院長　押淵　　徹 氏

⑥　閉会あいさつ　　長崎大学医学部先端医育センター センター長　安武　亨 氏

⑺　**参加学生報告**

参加した長崎大学医学部医学科３年生の小川伸一郎くんと柿田 聖太くん、２年生の内田 直子さん、長崎純心大学現代福祉学科３年生の尾﨑 美杜さんと坂田知嘉子さんは、平成29年１月30日㈪に開催された第15回事業企画委員会において発表資料に基づき報告を行った。

小川伸一郎[1]、柿田聖太[1]、安楽万由子[1]、塚崎晃[2]、五島漱志郎[2]、吉川慧月[2]、内田直子[2]
横山千夏[2]、梅本由衣[3]、坂田知嘉子[4]、尾崎美杜[4]、小屋松淳[3]、山梨啓友[3]、門田耕一郎[5]
佐藤晋平[6]、奥村あすか[7]、吉田麻衣[7]、宮野澄男[7]、瀬谷有二[7]、永田康浩[8]、前田隆浩[5, 8]

1) 長崎大学医学部医学科3年　2) 長崎大学医学部医学科2年
3) 長崎純心大学人文学部現代福祉学科4年　4) 長崎純心大学人文学部現代福祉学科3年
5) 長崎大学 離島・へき地医療学講座　6) 長崎大学 地域医療学分野
7) 長崎純心大学 医療・福祉連携センター　8) 長崎大学 地域包括ケア教育センター

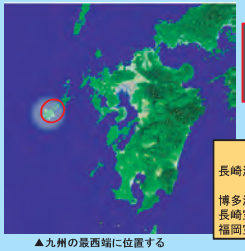
第4回長崎地域医療セミナー in GOTO概要

【目的】
地域での活躍を志す学生に医療や福祉を通じた地域との早期の関わり合いを提供し、離島やへき地で貢献できる人材の育成を目指す。
【日時】
平成28年8月19日(金)～21日(日)　(2泊3日)
【主催】
長崎大学、長崎地域医療セミナー実行委員会
【共催】
五島市、五島医師会、長崎県五島中央病院
長崎純心大学医療・福祉連携センター
【参加者】
長崎大学医学部医学科（1,2,3年生）
長崎純心大学人文学部現代福祉学科（2,3,4年生）
鹿児島大学医学部医学科（5年生）

スケジュール

1日目		2日目	
7:20	長崎港 大波止ターミナル集合	9:00～16:30	講義及びワークショップ
8:05	長崎港出発	18:30～20:30	懇親会@富江たっしゃかランド
11:15	福江港着	3日目	
11:30～12:00	五島市表敬訪問	9:00～12:00	ワークショップ発表
12:30～17:30	島内施設実習	12:30～16:00	地域体験アクティビティー
18:00～20:00	ウェルカムレセプション	16:30	福江港発
		20:00	長崎到着

五島市について



人口：37,279人
65歳以上:36.9%
（平成27年度国勢調査）

アクセス
長崎港→福江港：高速船：1時間25分
フェリー：3時間25分
博多港→福江港（フェリー9時間）
長崎空港→福江空港（飛行機30分）
福岡空港→福江空港（飛行機40分）

▲九州の最西端に位置する

長崎地域医療セミナーとは

- 参加対象が学生となって今年度で4回目
- 学生実行委員会が主体的に企画・進行
- 「施設見学」「講義」「ワークショップ」「アクティビティー」から成り立つ

施設見学

講義

ワークショップ

多職種連携とは、
一昨年「何か？」→ 昨年「どうするか？」→ そして今年、

学生実行委員会のアクション

① 多職種連携についての理解が乏しい
→ 事前学習会を開催

② 自分の専門分野の知識も不十分
→ ワークブックの配布

③ ワークショップと施設見学とのつながりが実感しにくい
→ ワークショップを想定した施設の選択

① 事前学習会

多職種連携でのMSWの役割についての講義

医療と福祉の連携の実際を学ぶ

※MSW：医療ソーシャルワーカー

セミナーに向けて医療と福祉の理解を深め、
学年・学部関係なくワークショップへ参加できる準備

② ワークブック

2種類のワークブックを作成

疾患に対する対処法

医療系学生用

介護・福祉制度

福祉系学生用

事前の予習を期待！

③ 施設見学

③ 6グループに分かれての施設見学

講義

今年度のワークショップ

目的：医療と福祉の異なる視点から検討することで、多職種連携の必要性を理解する

事例検討の4つのテーマ：

周産期　小児期　老年期　成人期

それぞれのライフステージにおける
医療・福祉の役割を考える

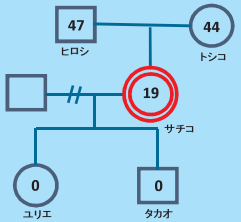
ワークショップの様子

ワークショップにおける視点の違い

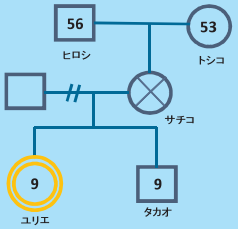
- 医療系学生
  患者をどう**治療**するかに焦点をあてて考えていた

- 福祉系学生
  クライエントやその家族をどう**支援できるか**に
  焦点をあてて考えていた

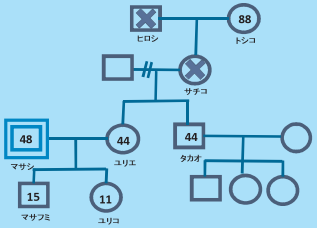
周産期（母子家庭の事例）



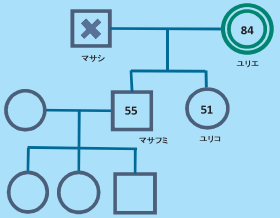
小児期（溺水の事例）



成人期（末期がんの事例）

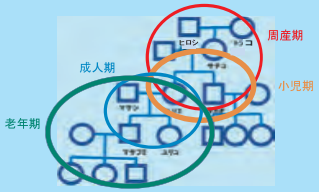


老年期（介護の事例）



患者・クライエントの人生を考える

今回はある一つの家族のライフステージが
テーマとなるように事例を作成し、
各期に分けて事例検討を行った



ワークショップの感想

（医療系学生）

「ワークショップでは事例を進めるにあたり、医療と福祉だけではなく、PT.OT.栄養士や薬剤師など様々な専門職の介入が必要であると気づき、より質の高いケアを提供するために多職種が連携していく必要性があることを理解できた。」

（福祉系学生）

「医療分野と福祉分野では視点の違いがあり、だからこそ患者・クライエントの違う一面が見えてきた。 違う一面が見えたことによって、違う支援方法があることに気づくことができ支援の幅を広げることができた。」

ワークショップでの学び

患者・クライエント中心の治療・支援のためには

その人の人生を考えることが重要であり

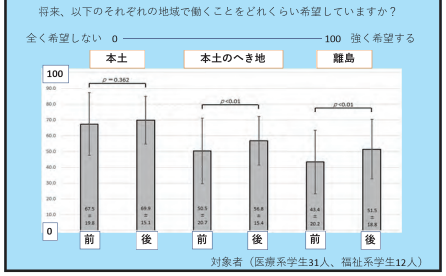
本人やその家族のことを知ることが必要である

多職種連携が必要不可欠である

五島の魅力を実感

アクティビティー

アンケート結果



セミナーまとめ

五島市に滞在し、地元の方たちと触れ合い、
施設見学をし、そして五島で活躍されている先生方の
講義を聞くことで、より地域医療・福祉への関心が高まった。

医療系と福祉系の学生が共に学び、各期の事例を通して
多職種連携を疑似体験できたことで、互いの視点の違いに
気付き、互いを尊重して連携していくことの重要性を知った。

ご清聴ありがとうございました

15　たまごの会（長崎大学・長崎純心大学）＆大阪どまんなか（大阪大学）＆地域ゼミ（岡山大学）意見交換会

⑴　**日　時**　平成29年1月29日㈰　９：00～12：00

⑵　**場　所**　長崎大学医学部グローバルヘルス総合研究棟（長崎市坂本１丁目）

⑶　**主　催**　長崎大学医学部 地域包括ケア教育センター

⑷　**テーマ**　多職種連携、医療者・学生連携の重要性を考える

⑸　**参加者**　大坂どまんなか（大阪大学）、たまごの会（長崎大学・長崎純心大学）
地域ゼミ（岡山大学）　計20人

⑹　**概　要**

全体進行　山本　晴香（副代表：滋賀医科大学５年生）

①　開会式・本会の意義　小黒　亮輔 氏（大阪大学）
永田　康浩 氏（長崎大学）

②　取り組みプレゼン

・大阪大学「大阪どまんなか」
清田　敦子（代表：大阪大学医学部５年生）

・長崎大学・長崎純心大学「たまごの会」
内田　直子（部長：長崎大学医学部２年生）
西迫　広貴（副部長：長崎大学医学部２年生）
山口　晃平（部長：長崎純心大学現代福祉学科３年生）
尾﨑　美杜（副部長：長崎純心大学現代福祉学科３年生）

・岡山大学「地域ゼミ」
泉原　康平（岡山大学医学部４年生）

③　グループワーク　「多職種連携、医療者・学生連携の重要性」
市立敦賀病院　初期研修医
ふくい若手医師リクルーター
大阪どまんなか　アドバイザー　笹本　浩平 氏

④　閉会式・写真撮影

写真Ⅵ-15　意見交換会の様子

⑺　参加学生感想

私は「大阪どまんなか」や岡山大学の「地域ゼミ」の方々との交流を通して、自分たちの可能性と今後の課題が見えたように振り返る。大阪どまんなかの人たちは相手に何を思われるかはあまり気にしておらず、自分の考えをはっきり伝えられていたと思う。また、プレゼンでも楽しさ重視でパワポの構成や見せ方など、シンプルかつ面白さを加えながら発表していた。一方、岡山大学の方たちはまじめな取り組みで丁寧に活動を進めている印象を受けた。プレゼンも落ち着いた感じで素直に自分たちの活動報告を行っていたように感じた。私たちたまごの会のプレゼンは他の方たちが見ると堅い印象があったのではないかと思うが、これまでの活動や今後の方向性などはしっかりと伝えることができたと考える。

しかし、私たちたまごの会に足りないことは時と場に応じたプレゼン方法をできるようになるということである。そのためにもオーディエンスはどのような人たちなのか、会の目的は何なのか、また発表者自身がしっかりと準備ができているかなどともっと柔軟にかつもっと詰めていくことも必要になっているのではないかと感じた。

この約半年間は目の前のことをこなすことで精一杯であったが、これからの半年間は私たちならではの新しい取り組みを行なっていくとともに、後輩たちとのつながりを大切に、そして楽しく学べる場をつくっていけるよう進んでいきたい。また、縦のつながりだけではなく、今回のように都道府県を超えて多くの仲間と出会い、交流の幅を広げていきたい。

これまで私たちが先輩たちの姿を見て学んでいったように、私たちの姿をみて一緒にやりたいと思ってくれる人がメンバーに限らず１人でも増えるような活動を行なっていきたいと思っている。（現代福祉学科３年生）

⑻　参加学生報告

参加した長崎大学医学部医学科２年生の内田 直子さんと長崎純心大学現代福祉学科３年生の尾﨑 美杜さんと山口 晃平くんは、平成29年１月30日㈪に開催された第15回事業企画委員会において発表資料に基づき報告を行った。

Ⅶ　各種委員会

1　運営委員会

⑴　根　拠

長崎純心大学では、長崎純心大学医療・福祉連携センター規則第４条に基づき、センターの管理運営について審議するため運営委員会を設置し、次の掲げる委員をもって組織している。

・センター長
・現代福祉学科教員（若干名）
・センター教職員
・総務部広報担当
・総務部メディアオフィス室長
・学事部入試広報課長
・学事部教務課長
・実習指導センター主事
・地域連携センター所長

⑵　平成27年度開催状況

①　第５回運営委員会

・日　時　平成28年３月17日㈭　16：15～
・場　所　長崎純心大学Ｊ棟　会議室２
・主な議題
　○　センター事業報告（奥村）
　　長崎大学公開講座「多職種協働で守る口と体の健康」
　　長崎大学医学部地域枠・地域特別枠活動報告会
　　平成27年度第２回長崎地域包括ケア教育推進委員会
　　長崎多職種連携・たまごの会「出生前診断を知ってる会？
　　～さまざまな生命のあり方について考えよう～」
　　平成27年度長崎市地域包括ケア推進協議会第１回医療・介護連携部会
　　第６回現任者等スキルアップ研修
　　日本プライマリ・ケア連合学会長崎県支部会第３回総会・学術集会
　　第４回九州大学異分野融合テキストマイニング研究会シンポジウム
　　「テキストマイニングとデジタルヒューマニティーズ」
　　在宅医療・福祉コンソーシアム長崎講演会
　　「知って、考え、行動する！それぞれの在宅ケア」
　　第28回九州・沖縄社会精神医学セミナー
　　大阪府立大学「学生がつくる教育福祉シンポジウム」
　　大阪府立大学生との交流ディスカッション
　　平成27年度長崎地域包括ケア教育外部評価委員会
　　第８回全国シンポジウム「地域推薦枠医学生の卒前・卒後教育をどうするか？」
　　第１回合同公開フォーラム～魅力ある拠点作りにむけての方略の共有～
　　第５回長崎地域医療セミナーキックオフ実行委員会

平成27年度上五島地区離島医療教育研究会
効果的な SSW プログラムモデル活用の成果報告会
平成27年度下五島地区離島医療教育研究会
平成27年度第２回長崎地域包括ケア教育管理・運営委員会

○　長崎県内地域包括支援センター訪問（宮野）

訪　問　日	訪問先・対応者	概　　要
平成28年 １月５日㈫	長与町地域包括支援センター 対応：小林　純子 係長 他１名	・介護予防支援事業の概要
平成28年 ２月２日㈫	佐々町地域包括支援センター 対応：江田　佳子 課長補佐	・「生きがい教室」参観 ・新しい総合事業の概要
平成28年 ２月２日㈫	松浦市地域包括支援センター 対応：荒木　典子 参事 他１名	・介護予防事業の概要 ・地域ケア会議の設置
平成28年 ２月９日㈫	東彼杵町地域包括支援センター 対応：中村　由紀 係長	・介護予防支援事業の概要
平成28年 ２月９日㈫	大村市地域包括支援センター 対応：熊　　俊則 課長 他３名	・地域包括ケアシステム構築 ・新しい総合事業の実施 ・認知症施策の推進
平成28年 ２月17日㈬	雲仙市地域包括支援センター 対応：吉武　直樹 所長	・介護予防事業の概要 ・地域ケア会議の設置
平成28年 ２月17日㈬	島原市地域包括支援センター 対応：辻　　敏子 所長	・地域ケア会議参加 （オブザーバー）
平成28年 ２月18日㈭	南島原市地域包括支援センター 対応：志方　芳仁 所長	・介護予防事業の概要 ・地域ケア会議の設置
平成28年 ３月15日㈫	五島市地域包括支援センター 対応：川端　久章 課長 他２名	・介護保険事業 ・新しい総合事業の実施

※　五島市地域包括支援センターには、宮野准教授の他に吉田助教、現代福祉学科３年生７人、現代福祉学科２年生９人も参加。

○　事業企画委員会報告（吉田）
第14回事業企画委員会　平成27年12月14日㈪　19：00～
第15回事業企画委員会　平成28年２月８日㈪　19：00～
第16回事業企画委員会　平成28年２月22日㈪　19：00～

○　平成28年度研究拠点形成費等補助金予算報告（森事務）

⑶　平成28年度開催状況

①　第１回運営委員会

・日　時　平成28年５月25日㈬　17：55～
・場　所　長崎純心大学Ｊ棟　会議室２
・主な議題
　○　センター事業報告（宮野）
　　平成27年度長崎市地域包括ケア推進協議会第１回予防・生活支援部会
　　医療と福祉の専門職を目指す学生たちのフォーラム
　　平成27年度第２回長崎県地域包括ケアシステム構築支援委員会
　　平成27年度長崎市地域包括ケア推進協議会第２回全体会
　　第６回九州地域医療教育研究会
　　平成28年度 NICE キャンパス長崎
　　長崎市スクールソーシャルワーカー研修会
　　第１回共修授業ワーキンググループ
　　平成28年度第１回長崎地域包括ケア教育推進委員会
　　長崎県スクールソーシャルワーカー研修会
　○　地域包括支援センターにおける業務実態等に関する全国調査（奥村）
　○　事業企画委員会（奥村）
　　第１回事業企画委員会　平成28年４月11日㈪　19：00～
　　第２回事業企画委員会　平成28年５月９日㈪　19：00～
　　第３回事業企画委員会　平成28年５月23日㈪　19：00～
　○　長崎多職種連携・たまごの会活動報告（奥村）
　○　平成28年度「地域包括ケア論」概要説明（宮野）
　○　長崎純心大学医療・福祉連携センター収支報告（森事務）

②　第２回運営委員会

・日　時　平成28年７月13日㈬　17：55～
・場　所　長崎純心大学Ｊ棟　大会議室
・主な議題
　○　未来医療研究人材養成拠点形成事業の取組概要及び中間評価結果報告
　　（潮谷センター長）
　○　センター事業報告（宮野）
　　平成28年度介護施設従事者等研修会
　　第４回長崎地域医療セミナー事前勉強会
　　第16回長崎純心大学心理教育相談センター講演会
　　地域包括ケア人材養成コース推進フォーラム
　　長崎県社会福祉士会研修会
　　平成28年度長崎県在宅医療・介護連携推進事業担当者等研修会
　　シンポジウム「長崎の創生と大学の果たす役割～長崎をすべての人に住みよいまちとするために～」

第３回九州山口家庭医療・総合診療セミナー

○　事業企画委員会（吉田）

第４回事業企画委員会　平成28年６月13日㈪　19：00～

第５回事業企画委員会　平成28年６月27日㈪　19：00～

第６回事業企画委員会　平成28年７月11日㈪　19：00～

○　NICE キャンパス長崎報告（奥村）

○　共修授業事例検討報告（奥村）

○　長崎純心大学医療・福祉連携センター収支報告（森事務）

③　第３回運営委員会

・日　時　平成28年10月５日㈬　17：55～

・場　所　長崎純心大学Ｊ棟　会議室２

・主な議題

○　センター事業報告（宮野）

社会福祉士・精神保健福祉士実習演習担当教員講習会

第４回・第６回まちんなかサロン

第１回・第２回災害ボランティア養成講座

平成28年度第１回長崎地域包括ケア教育管理・運営委員会

第４回長崎地域医療セミナー in GOTO

枕崎市立病院・医療・福祉連携センター訪問

Summer Camp 2016 in Hirado　平戸と大学で育てる地域医療

～「地域医療とケア」を考え・体験する［第11回 夏の合宿企画］～

第２回ケアラーサポーター育成研修会

○　第４回合同シンポジウム報告（宮野）

○　共修授業ワーキンググループ報告（奥村）

○　NICE キャンパス長崎 Season3　総括報告（吉田）

○　学会発表（奥村・吉田）

日本社会福祉学会第64回秋季大会

○　平成28年度「地域包括ケア論」開講報告（宮野）

○　長崎純心大学医療・福祉連携センター収支報告（森事務）

④　第４回運営委員会

・日　時　平成28年12月28日㈬　13：00～

・場　所　長崎純心大学Ｊ棟　会議室２

・主な議題

○　センター事業報告（宮野）

第１回医療ソーシャルワーカー連携事例検討会

スクール（学校）ソーシャルワーク教育課程専門科目群担当教員講習会

長崎市スクールソーシャルワーカー研修会

第４回長崎地域医療セミナー振り返り実行委員会

平成28年度第２回長崎県民フォーラム
第１回在宅医療推進多職種連携研修会
第１回医療施設従事者等研修会
第５回全国シンポジウム
認知症の人と家族への援助をすすめる第32回全国研究集会 in 長崎
リサーチマインドを持った総合診療医の養成第４回公開フォーラム報告
長崎フロリデーション協会15周年記念講演会
平成28年度第１回在宅医療推進連携講座
まちなかラウンジ在宅医療講座
累犯障害者支援研修会（吉田）
平成28年度「地域包括ケア論」報告（吉田）
長崎大学３学部４学科「医・歯・薬共修授業」報告（吉田）
長崎大学医学部・長崎純心大学現代福祉学科「共修授業」報告（奥村）

○　事業企画委員会（宮野）
第９回事業企画委員会　平成28年10月17日㈪　19：00～
第10回事業企画委員会　平成28年10月31日㈪　19：00～
第11回事業企画委員会　平成28年11月14日㈪　19：00～
第12回事業企画委員会　平成28年11月28日㈪　19：00～
第13回事業企画委員会　平成28年12月12日㈪　19：00～

○　長崎純心大学医療・福祉連携センター収支報告（森事務）

2　地域包括ケア調査研究事業企画委員会

⑴　根　拠

長崎純心大学医療・福祉連携センター規則第５条の規定に基づき、センターが行う「未来医療研究人材養成拠点形成事業」調査研究の充実を図るため、「地域包括ケア調査事業企画委員会」（以下、「事業企画委員会」という。）を設置する。

⑵　事　業

事業企画委員会は、その目的を達成するため次の事業を行う。

①　我が国の保健医療分野と福祉分野との連携状況と課題把握
②　医療・福祉連携センターが行う調査研究案の企画
③　保健医療分野と福祉分野との連携システム構築に関する調査研究計画の企画
④　その他の地域包ケア体制の推進に関する理論的かつ実証的な調査研究の企画

⑶　組　織

	氏　　名	所　　属　　等
委員長	潮　谷　有　二	長崎純心大学医療・福祉連携センター長（学部長補佐・教授）
委　員	原　田　奈津子	長崎国際大学　准教授
委　員	永　富　幸　美	社団法人長崎医師会 長崎市桜馬場地域包括支援センター管理者　社会福祉士
委　員	嶺　　尚　江	医療法人昭和会 長崎市土井首地域包括支援センター管理者　社会福祉士
委　員	宮　川　江　利	地方独立行政法人長崎市立病院機構 長崎みなとメディカルセンター市民病院 社会福祉士
委　員	井　上　加菜子	社会医療法人春回会 長崎北病院　社会福祉士
委　員	宮　野　澄　男	長崎純心大学医療・福祉連携センター教職員　専任准教授
委　員	奥 村 あ す か	長崎純心大学医療・福祉連携センター教職員　専任助教
委　員	吉　田　麻　衣	長崎純心大学医療・福祉連携センター教職員　専任助教
委　員	森　　万　記	長崎純心大学医療・福祉連携センター教職員　専任事務

（平成28年４月１日現在）

⑷　平成27年度開催状況

①　第17回事業企画委員会

・日　時　平成28年３月28日㈪　19：00～
・場　所　長崎純心大学地域連携センター
・主な議題
　○　事業報告
　　2016五島セミナー kickoff ミーティング（奥村）
　　平成27年度上五島地区離島医療教育研究会（奥村）
　　効果的な SSW プログラムモデル活用の成果報告会（吉田）

長崎医新伝習所（吉田）
五島市地域包括支援センター訪問（宮野）
平成27年度下五島地区離島医療教育研究会（宮野）
平成27年度長崎市地域包括ケア推進協議会第１回予防・生活支援部会
（潮谷センター長）
医療と福祉の専門職を目指す学生たちのフォーラム（潮谷センター長）
平成27年度長崎県地域包括ケアシステム構築支援委員会（宮野）

⑸　平成28年度開催状況

①　第１回事業企画委員会

・日　時　平成28年４月11日㈪　19：00～
・場　所　長崎純心大学地域連携センター
・主な議題
　○　事業報告
　　『事業報告書』発行・発送（宮野）
　　地域包括支援センターにおける業務実態等に関する全国調査（奥村）
　○　学生発表
　　第６回九州地域医療教育研究会（市川・桑原・横山）
　○　平成28年度事業に向けて（潮谷センター長）
　　NICEキャンパス長崎
　　地域包括ケア論概要
・参加者　28人

②　第２回事業企画委員会

・日　時　平成28年５月９日㈪　19：00～
・場　所　長崎純心大学地域連携センター
・主な議題
　○　事業報告
　　長崎市スクールソーシャルワーカー研修会（宮野）
　　NICE キャンパス長崎（吉田）
　　地域包括支援センターにおける業務実態等に関する全国調査（奥村）
・参加者　28人

③　第３回事業企画委員会

・日　時　平成28年５月23日㈪　19：00～
・場　所　長崎純心大学地域連携センター
・主な議題
　○　事業報告
　　長崎市スクールソーシャルワーカー研修会（宮野）
　　平成28年度第１回長崎地域包括ケア教育推進委員会（宮野）

長崎県スクールソーシャルワーカー研修会（宮野）

○　第１回共修授業ワーキンググループ報告（宮野）

○　学生発表

地域医療講演会「『見る』『話す』『触れる』『立つ』認知症に“ユマニチュード®”」報告（市川・桑原）

長崎多職種連携・たまごの会勉強会①「第２回出生前診断を知ってる会？～わたしたちができることについて考えよう～」（横山）

長崎多職種連携・たまごの会勉強会②「地域での生活を取り戻す～罪に問われた障がい者、高齢者～」（福田）

・参加者　34人

④　第４回事業企画委員会

・日　時　平成28年６月13日㈪　19：00～

・場　所　長崎純心大学地域連携センター

・主な議題

○　事業報告

平成28年度介護施設従事者等研修会（奥村）

第16回長崎純心大学心理教育相談センター講演会（吉田）

地域包括ケア人材養成コース推進フォーラム（宮野）

○　学生発表

第４回長崎地域医療セミナー事前勉強会（横山）

○　共修授業事例研究（センター長）

事例について、福祉的視点からのフリートーキング

・参加者　32人

写真Ⅶ-１　長崎県保健所関係者も参加した事業企画委員会の様子

⑤　第５回事業企画委員会

・日　時　平成28年６月27日㈪　19：00～

・場　所　長崎純心大学地域連携センター

・主な議題

○　事業報告

「医と社会」地域包括ケア早期体験実習（診療所実習）参観（宮野）

長崎県社会福祉士会研修会（宮野）

○　共修授業事例研究（奥村）

事例について、福祉的視点からのフリートーキング

・参加者　22人

⑥　第６回事業企画委員会

・日　時　平成28年７月11日㈪　19：00～
・場　所　長崎純心大学地域連携センター
・主な議題
　○　事業報告
　　平成28年度長崎県在宅医療・介護連携推進事業担当者等研修会（宮野）
　　シンポジウム「長崎の創生と大学の果たす役割～長崎をすべての人に住みよいまちとするために～」（奥村）
　○　学生発表
　　第３回九州・山口家庭医療学セミナー（宗・松尾、徳永・梁瀬）
　○　長崎大学医学部地域包括ケア教育センター報告（永田センター長）
　○　「地域包括ケア論」ビジュアル教材作成（宮野）
　○　共修授業事例研究（奥村）
　　事例についてフリートーキング
・参加者　33人

⑦　第７回事業企画委員会

・日　時　平成28年８月８日㈪　19：00～
・場　所　長崎純心大学地域連携センター
・主な議題
　○　事業報告
　　社会福祉士・精神保健福祉士実習演習担当教員講習会（宮野）
　　第４回まちんなかサロン（宮野）
　　第１回災害ボランティア養成講座（宮野）
　　共修授業ワーキンググループ報告（奥村）
　　平成28年度第１回長崎地域包括ケア教育管理・運営委員会報告（吉田）
　○　NICE キャンパス長崎 Season3　総括（吉田）
　○　学生発表
　　長崎多職種連携・たまごの会報告（桑原・澤田）
　　第４回長崎地域医療セミナー in GOTO 実施計画（横山）
・参加者　21人

⑧　第８回事業企画委員会

・日　時　平成28年９月26日㈪　19：00～
・場　所　長崎純心大学地域連携センター
・主な議題
　○　事業報告
　　医療・福祉連携センター訪問（枕崎市立病院）（宮野）
　　第２回災害ボランティア養成講座（奥村）
　　第４回合同シンポジウム（宮野）

○　学生発表

第４回長崎地域医療セミナー in GOTO（坂田ほか）

Summer Camp 2016 in Hirado 平戸と大学で育てる地域医療（梁瀬ほか）

○　学会発表

日本社会福祉学会第64回秋季大会（奥村・吉田）

○　平成28年度「地域包括ケア論」開講（宮野）

・参加者　33人

写真Ⅶ-２　長崎県の福祉行政関係者も参加した事業企画委員会の様子

⑨　第９回事業企画委員会

・日　時　平成28年10月17日(月)　19：00～

・場　所　長崎純心大学地域連携センター

・主な議題

○　事業報告

第６回まちんなかサロン（認知症サポーター養成講座）（宮野）

第２回ケアラーサポーター育成研修会（宮野）

長崎市地域包括支援センター職員研修会（宮野）

第１回医療ソーシャルワーカー連携事例検討会（宮野）

スクール（学校）ソーシャルワーク教育課程専門科目群担当教員講習会（宮野）

長崎市スクールソーシャルワーカー研修会（宮野）

○　学生発表

長崎多職種連携・たまごの会報告（尾﨑・長友）

○　共修授業ワーキンググループ報告（奥村）

○　平成28年度「地域包括ケア論（第１～５講)」報告（吉田）

・参加者　32人

写真Ⅶ-３　長崎市の福祉行政関係者が参加した事業企画委員会の様子

⑩　第10回事業企画委員会

・日　時　平成28年10月31日㈪　19：00～
・場　所　長崎純心大学地域連携センター
・主な議題
　○　事業報告
　　第４回長崎地域医療セミナー振り返り実行委員会（宮野）
　　平成28年度第２回長崎県民フォーラム（宮野）
　　第１回在宅医療推進多職種連携研修会（宮野）
　　第１回医療施設従事者等研修会（宮野）
　　長崎市スクールソーシャルワーカー研修会（宮野）
　○　長崎大学３学部４学科「医歯薬共修授業」報告（吉田）
　○　長崎大学医学部・長崎純心大学現代福祉学科「共修授業」報告（奥村）
・参加者　20人

⑪　第11回事業企画委員会

・日　時　平成28年11月14日㈪　19：00～
・場　所　長崎純心大学地域連携センター
・主な議題
　○　事業報告
　　認知症の人と家族への援助をすすめる第32回全国研究集会 in 長崎（宮野）
　　長崎市スクールソーシャルワーカー研修会（宮野）
　○　学生報告
　　第５回全国シンポジウム（山口・宮野）
　○　長崎大学医学部・長崎純心大学現代福祉学科「共修授業」報告（奥村）
・参加者　32人

⑫　第12回事業企画委員会

・日　時　平成28年11月28日㈪　19：00～
・場　所　長崎純心大学地域連携センター
・主な議題
　○　事業報告
　　長崎フロリデーション協会15周年記念講演会（宮野）
　　第６回共修授業ワーキンググループ（奥村）
　○　リサーチマインドを持った総合診療医の養成第４回公開フォーラム報告（吉田）
　○　学生発表
　　「地域包括ケア論（第11・12・13講）」報告（尾畑・重富・福田）
　○　専門職講話
　　施設紹介「多機関型地域包括支援センター」
　　北多機関型地域包括支援センター相談支援包括化推進員（社会福祉士）
　　田中　隆史 氏

・参加者　26人

写真Ⅶ-４　現場の社会福祉士が参加した事業企画委員会の様子

⑬　第13回事業企画委員会

・日　時　平成28年12月12日(月)　19：00～
・場　所　長崎純心大学地域連携センター
・主な議題
　○　事業報告
　　平成28年度第１回在宅医療推進連携講座（宮野）
　　まちんなかラウンジ在宅医療講座（宮野）
　　長崎市スクールソーシャルワーカー研修会（宮野）
　○　累犯障害者支援研修会（吉田）
　○　学生発表
　　「長崎多職種連携・たまごの会」学習会報告（奥村・山口将・川口）
・参加者　34人

⑭　第14回事業企画委員会

・日　時　平成29年１月16日(月)　19：00～
・場　所　長崎純心大学地域連携センター
・主な議題
　○　長崎県福祉行政担当者講話
　　「長崎県における地域包括ケアシステムの現状と課題」
　　長崎県長寿社会課 作業療法士　田島　玲悟 氏
　○　学生発表
　　「地域包括ケア論（第14講）」報告（松坂・森谷）
　　発表リハーサル①「第４回長崎地域医療セミナー」（小川ほか）
　　発表リハーサル②「たまごの会（長崎大学）＆大阪どまんなか（大阪大学）＆岡山大学意見交換会～多職種連携、医療者・学生連携の重要性を考える～」（尾﨑ほか）
・参加者　34人

⑮　第15回事業企画委員会

・日　時　平成29年１月30日(月)　19：00～
・場　所　長崎純心大学地域連携センター

・主な議題

PEAP（ピープ）に基づく個別ケア職員研修会（宮野）

未来医療人材拠点形成事業ミニフォーラム（宮野）

○　学生発表

「未来医療人材拠点形成事業ミニフォーラム」（小川ほか）

○　学生発表

「たまごの会（長崎大学）＆大阪どまんなか（大阪大学）＆岡山大学意見交換会」（尾﨑ほか）

・参加者　27人

写真Ⅶ-５　学生が学びの報告を行う事業企画委員会の様子

なお、事業企画委員会の詳細は、長崎純心大学医療・福祉連携センターのホームページ及びFacebook に掲載している。（http://www.n-junshin.ac.jp/cmw/study/committee/）

研究スタッフ

研究スタッフ

	氏　　名	職　　名
1	潮　谷　有　二	長崎純心大学人文学部 学部長補佐 長崎純心大学医療・福祉連携センター センター長 長崎純心大学人文学部現代福祉学科 教授
2	宮　野　澄　男	長崎純心大学医療・福祉連携センター 専任准教授
3	奥　村　あすか	長崎純心大学医療・福祉連携センター 専任助教
4	吉　田　麻　衣	長崎純心大学医療・福祉連携センター 専任助教
5	森　　万　記	長崎純心大学医療・福祉連携センター 専任事務

未来医療研究人材養成拠点形成事業

（テーマB：リサーチマインドを持った総合診療医の養成）

事 業 報 告 書

（平成28年３月～平成29年１月）

平成29年３月８日発行

長崎純心大学 医療・福祉連携センター

（センター長　潮谷　有二）

〒852-8558 長崎市三ツ山町235番地
TEL ：095-842-8787　FAX ：095-842-8788
E-mail：cmw@n-junshin.ac.jp
http://www.n-junshin.ac.jp/cmw/
Facebook：https://www.facebook.com/cmw.n.junshin

Nagasaki Junshin
Catholic University
Medical and Welfare
Liaison Center

長崎純心大学 医療･福祉連携センター

〒852-8558 長崎県長崎市三ツ山町235番地
TEL 095-842-8787　FAX 095-842-8788
E-mail:cmw@n-junshin.ac.jp
http://www.n-junshin.ac.jp/cmw/